

Panasonic

パーソナルコンピューター
取扱説明書

品番 CF-M2 シリーズ

Let's note

98

活用編

便利・プライバシー保護・通信・モバイル・拡張

説明書の構成

取扱説明書

セットアップ編

コンピューターを使うための準備作業をするときに。また、初めてのかたを対象に、Windows（ウィンドウズ）の基本操作を、具体例を通して説明しています。

活用編（本書）

安全上のご注意など、取り扱いについての説明に始まり、便利な機能やプライベートキーの使いかた、通信のしかた、省電力機能、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。

オンラインマニュアル

画面上で参照できるマニュアルです。
「オンラインマニュアル」の見かたについては、取扱説明書『活用編』（本書）をご覧ください。

困ったときのQ&A

本機が思ったように動かないなど困ったときの対処方法をQ&A方式で説明しています。

パソコン・サポートとつきあう方法

初めてのかたを対象に、お客様のご相談窓口を上手に利用する方法や、コンピューターの専門的な用語・略語などについて説明しています。
（編集：社団法人 日本電子工業振興協会）

コマンド一覧

次のコマンド一覧を用意しています。ATコマンドを使って通信する場合にご利用ください。
・内蔵モデムコマンド一覧
・ワイヤレスコムポートコマンド一覧

上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびはパナソニックパーソナルコンピューターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
・取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

コミュニケーション

モバイル

拡張

本書の読みかた

表記の約束

- キーの文字は、説明や操作に必要な文字だけを四角で囲んでいます。

  （例） [N み] は [N] や [み] と表記します。

- あるキーを押しながら、別のキーを押すような操作の説明は、次のように「＋」を使って表記します。

  （例） [Fn] ＋ [F6]

- 「スタート」→[Windowsの終了]などは、[スタート]をクリックした後、[Windowsの終了]をクリックすることを意味します。

  （内容によっては、ダブルクリックが必要であったり、ポインターを置くだけでいい場合もあります。）

- 本文中の画面例は、一部実際と異なる場合があります。

ご使用前に

「安全上のご注意」は、必ずご覧ください。

本機をご使用になる前に、知っておいていただきたい「安全上のご注意」や「使用上のお願い」について説明しています。また、「各部の名称と働き」についても説明しています。

もくじ

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や障害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

⃠	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

異常が起きたらすぐに電源プラグとバッテリーパックを抜く



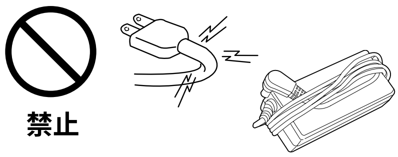
電源プラグを抜く

・本体が破損した
・本体内に異物が入った
・異臭がする
・煙が出ている　　・異常に熱い
などの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。

- 異常が起きたらすぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

電源コード・電源プラグ・AC アダプターを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

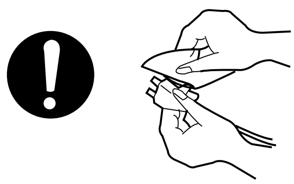


禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

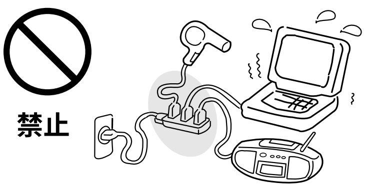
電源プラグのほこり等は定期的にとる



プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

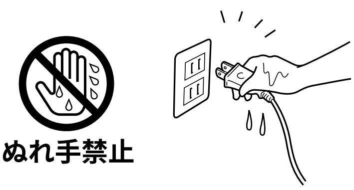
コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100V 以外での使用はしない



禁止

たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

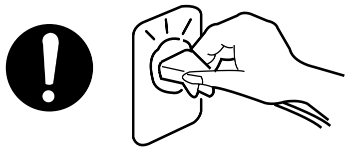
ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠警告

本機を改造しない また、本書に記載のない方法で分解しない

分解禁止

高電圧に注意
本機を分解・改造しない

[本体に表示した事項]

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。また、改造や間違った方法での分解は火災の原因にもなります。

上に水などの入った容器や金属物を置かない

禁止



水などがこぼれたり、クリップ、コインなどの異物が中に入ったりすると、火災・感電の原因になります。
- 内部に異物が入った場合は、すぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

⚠注意

不安定な場所に置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

炎天下の車中に長時間放置しない

禁止

高温により、キャビネットが変形したり、内部の部品が故障または劣化したりすることがあります。このような状態のまま使用すると、ショートや絶縁不良等により火災・感電につながることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

ひび割れたり変形したりしたCDは使用しない

禁止

高速で回転するため、飛び散ってけがの原因になることがあります。
- 円形でないCDや、接着剤などで補修したCDも同様に危険ですので、使用しないでください。

本機の上に重いものを置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

通風孔をふさがない

禁止

内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

電源プラグを接続したまま移動しない

禁止

電源コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
- 電源コードが傷ついた場合は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

1時間ごとに10～15分間の休憩をとる

長時間続けて使用すると、目や手などの健康に影響を及ぼすことがあります。

CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブの内部をのぞきこまない

禁止

内部のレーザー光源を直視すると、視力障害の原因になることがあります。
- 内部の点検・調整・修理は、販売店にご相談ください。

湿気やほこりの多い場所に置かない

禁止

火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは、プラグ部分を持って抜く

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

必ず指定のACアダプターを使用する

指定以外のACアダプターを使用すると、火災の原因になることがあります。

長時間直接触れて使用しない

禁止

本機やACアダプターの温度の高い部分に長時間、直接触れていると、低温やけど※の原因になります。

※低温やけどについて
体温より少し高い温度のものでも、皮膚の同じ個所に、長時間、直接触れていると、低温やけどを起こすおそれがあります。

使用上のお願い

・お客様の使用誤り、その他異常な条件下での使用により生じた損害、および本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害について、当社は一切の責任を負いません。
・本機は、医療機器、生命維持装置、航空交通管制機器、その他人命に関わる機器・装置・システムでの使用を意図しておりません。本機をこれらの機器・装置・システムなどに使用され生じた損害について、当社は一切責任を負いません。
・お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気等のノイズの影響を受けたとき、または故障・修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータ等が変化・消失する恐れがあります。大切なデータおよびソフトウェアを思わぬトラブルから守るために、以下のことに注意してください。

ハードディスクのデータ保護

●コンピューターに衝撃を与えない。また、電源が入っている状態でコンピューターを持ち運ばない。
ハードディスクは衝撃に弱く、破損するとデータやアプリケーションソフトが使えなくなることがあります。コンピューター本体の取り扱いには十分注意してください。
●Windows*やアプリケーションソフトの動作中およびHDDアクセスランプ（ ）の点灯中は、電源を切らない。
●ハードディスクに保存している必要なデータは、万一の場合（故障・変化・消失など）に備えて定期的にバックアップをとる。
●プライベートキーやセキュリティ機能を利用し、データを保護する。（→38、127ページ）

＊正式名称は、
Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating systemです。
本書ではWindowsまたはWindows 98と表記します。

コンピューターウィルス

●最新のウィルスチェックプログラム（市販）を入手し、チェックを行う。
特に以下の場合、ウィルスチェックを行うことをおすすめします。
・コンピューターを起動するとき
・データを入手したとき
フロッピーディスクなどの外部メディアから、またネットワーク、パソコン通信、電子メールなどから入手したデータ（圧縮されている場合は、圧縮解凍後のファイル）を使用または実行する前にウィルスチェックを行ってください。

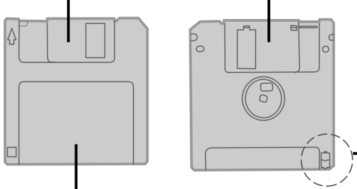
システムファイルチェッカー

Internet Explorer 5.01がインストールされているコンピューターで、「システム情報」の「システムファイルチェッカー」を実行すると、以下の現象が起こることがマイクロソフト社より報告されています。
・正常なファイルに対しても「ファイルが壊れている可能性があります」というメッセージが表示される。
・その際、システムファイルチェッカーでファイルを修復するとシステムが不安定になる可能性がある。

本機には、工場出荷時にInternet Explorer 5.01がインストールされていますので、システムファイルチェッカーはご使用にならないようお願いします。（→140ページ）

フロッピーディスクのデータ保護

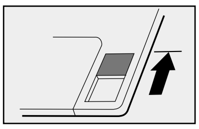
●フロッピーディスクドライブのランプが点灯中に、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブの取り出しボタンに触れたり、フロッピーディスクドライブを取り外したりしない。
フロッピーディスクの破損の原因になり、データやアプリケーションソフトが使えなくなることがあります。
●一度使用したフロッピーディスクをフォーマット（初期化）する場合はその前に内容を確認する。
フォーマットを行うとそのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えてしまいます。あらかじめ必要なデータがないか確認することをおすすめします。
●書き込み禁止タブ（ライトプロテクトタブ）を使う。
重要なデータを保存している場合におすすめします。
これにより、データの削除や上書き保存を禁止することができます。
●フロッピーディスクの取り扱いに注意する。
データの破損やフロッピーディスクが取り出せなくなるようなトラブルを避けるために次の点に注意してください。
・シャッターを手で開けない
・磁気を帯びたものを近づけない
・高温・低温になりやすいところ、湿気やほこりの多いところに保管しない
・ラベルを重ねて貼らない



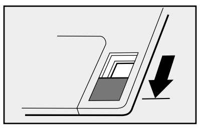
シャッター
ドライブにセットするとシャッターが開き、ここからデータの読み書きを行います。

ラベル
保存しているデータの内容などを書いておくと便利です。

ライトプロテクトタブ
データを誤って消したり、書き換えたりするのを防ぐために使用します。



書き込み可能な状態



書き込み禁止の状態

◀フロッピーディスクを使用する場合は、USB接続のフロッピーディスクドライブ（付属）が必要です。

ご使用前に

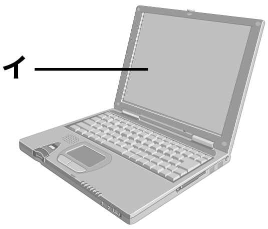
使用上のお願い

LCDパネル（ディスプレイ）の取り扱い

●LCDパネルは衝撃や振動に弱く、破損しやすいため、持ち運びの際には十分ご注意ください。また、LCDパネル部を持って、持ち運ばないでください。
●カラー液晶ディスプレイは精度の高い技術で製造されていますが、ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができることがあります。これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。

お手入れのしかた

●ディスプレイ部分
ガーゼなどの乾いたやわらかい布で、軽く拭いてください。
●ディスプレイ以外の部分
水または、水で薄めた台所用洗剤（中性）に浸したやわらかい布をかたくしぼって、やさしく汚れを拭き取ってください。
中性の台所用洗剤以外の洗剤（弱アルカリ性洗剤など）を使用すると、塗装がはげるなど、塗装面に影響を与えることがあります。



お願い

・ベンジンやシンナー、消毒用アルコールなどは使わないでください。塗装がはげるなど、塗装面に影響を与える場合があります。また、市販のクリーナーや化粧品の中にも、塗装面に影響を与える成分が含まれている場合があります。
・水や洗剤を直接かけたり、スプレーで噴きかけたりしないでください。液が内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。

持ち運ぶとき

●操作を終了して、電源が切れた状態で持ち運んでください。（HDDアクセスランプ（🛢）の点灯中は持ち運ばないでください。）
●接続しているケーブルはすべて取り外してください。
●LCDパネルは衝撃や振動に弱く、破損しやすいため、持ち運びの際には十分ご注意ください。また、LCDパネル部を持って、持ち運ばないでください。
●落としたり、机の角など固い物にぶつけないようにしてください。
●航空機を利用する際には、破損・盗難等を避けるために手荷物としてお持ちください。また機内での使用については、航空会社の指示に従ってください。

補足説明について

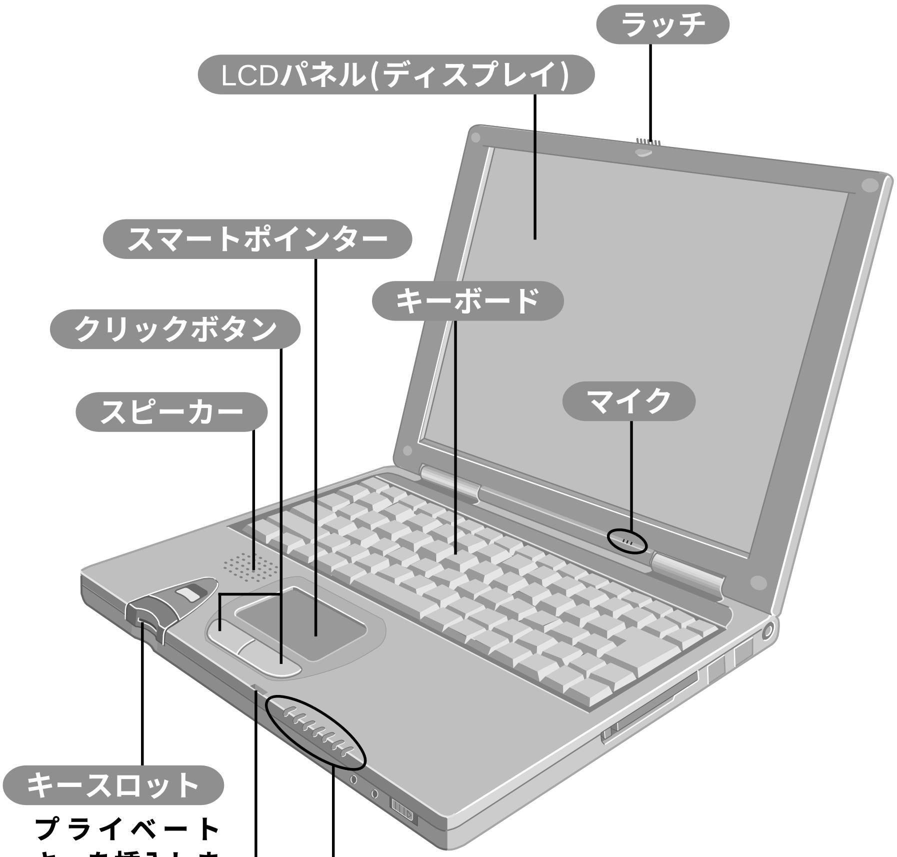
補足説明（[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]→[補足説明]）には、本製品についての最新情報などが記載されています。あわせてご覧ください。

オンラインサービス機能について

本機に導入されているオンラインサービス（プロバイダーへのオンライン入会機能など）は、電話番号などの変更に対応していない場合があります。ご利用になるアクセスポイントの局番などが変更になった場合の対応については、各オンラインサービスのご相談窓口にお問い合わせください。

各部の名称と働き

前面



プライベートキーを挿入します。（→38ページ）

状態表示ランプ

NumLk・Caps Lk・ScrLk
機能時：緑色
HDDアクセスランプ
HDD動作中：緑色
バッテリー状態表示ランプ A-▯-B
電源表示ランプ
電源オン時：緑色
スタンバイ時：緑色点滅
電源オフ時と休止状態時：消灯

パネルスイッチ（くぼみの奥にあります）

<Windows上での動作>
LCDパネルを閉じLCD上部のラッチがロック状態になると、「電源の管理」（→99ページ）の「詳細」の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定に従い、以下のように動作します。

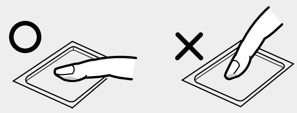
なし　　　　　：LCDの電源が切れる
スタンバイ　　：スタンバイ状態に入る（→36ページ）
休止状態　　　：休止状態に入る（→36ページ）
シャットダウン：コンピューターの電源が切れる
（保存していないデータは失われます。）

<MS-DOSモードで使用している場合の動作>（→130ページ）

◀「前面」の説明は、次ページにも続きます。

◀画面の輝度調整のしかた →134ページ

◀スマートポインターは指先で操作してください。ペンやつめなどでは反応しません。→18、20ページ



◀クリックボタンの操作については取扱説明書『セットアップ編』をご覧ください。

◀マイク入力端子に外部マイクを接続しているときは、このマイクは使用できません。→次ページ

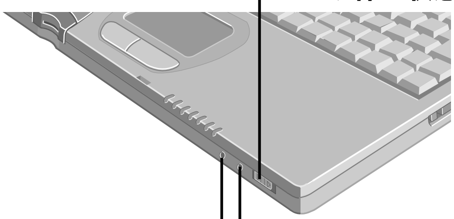
◀スピーカーの音量調整のしかた →134ページ

◀バッテリーパックの充電状態 →107〜109ページ

LCDパネルを閉じた後に操作を再開するとき

- 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「シャットダウン」以外に設定時は、LCDパネルを開ける。（LCDパネルを閉じる以外の方法でスタンバイ状態または休止状態にした場合はLCDパネルを開け、電源スイッチ（→12ページ）をスライドする。）
- 「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「シャットダウン」に設定時は、LCDパネルを開け、電源スイッチ（→12ページ）をスライドする。

前面（つづき）



電源スイッチ POWER

右にスライドすると、本体の電源が入ります。また、「電源の管理」（→99ページ）の「詳細」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定に従い、スタンバイや休止状態に入ることもできます。

オーディオ出力端子

市販のオーディオ用ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。

マイク入力端子

市販のミニジャックタイプのコンデンサー型モノラルマイクロホンを接続します。ここに外部マイクを接続しているときは、内蔵のマイクは使用できません。

◀ Windows 98の画面上では「電源ボタン」と呼ばれることもあります。

お願い

電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上スライドし続けると、ピーという連続音が鳴り、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。ただし、Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、Fn + F5 で音量をゼロに設定している場合、音は鳴りません。→134ページ

◀ 音量調整のしかた
→134ページ

お願い

マイク入力端子では、コンデンサー型モノラルマイクロホンの2極プラグタイプまたは3極プラグタイプを使用してください。それ以外を使用すると、音の入力ができなかったり、故障の原因になったりする場合があります。

マイクの音量調整について

＜録音時の入力レベルが小さい場合＞

①「ボリュームコントロール」画面*で[オプション]→[プロパティ]をクリックする。
②「音量の調整」で「録音」を選び、「表示するコントロール」で[マイク]にチェックマークを付ける。
③[OK]をクリックした後、音量を調整する。
それでも入力レベルが小さい場合は、以下の操作を行ってください。
④[オプション]をクリックし、[トーン調整]にチェックマークを付ける。
⑤[トーン]をクリックし、「1 AGC(1)」の左側の□にチェックマークを付ける。
⑥[閉じる]をクリックし、「マイクの詳細設定」の画面を終了する。

＜ハウリングについて＞

外部マイクをスピーカーに近づけたり、内蔵マイクに手を近づけたり、LCDパネルを閉じたりするとハウリングを起こす場合があります。その場合は、「ボリュームコントロール」画面で[オプション]→[プロパティ]をクリックし、「音量の調整」で「再生」を選び、「表示するコントロール」で「マイク」にチェックマークを付けた後[OK]をクリックして、「マイク」をミュートにするようにしてください。または、ハウリングを起こさないように、マイクとスピーカーの音量を適度に調節してください。

*「ボリュームコントロール」画面を開くには
タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリックしてください。タスクバーに「音量」アイコンが表示されていないときは、「コントロールパネル」の「マルチメディア」で、「音量の調節をタスクバーに表示する」の左側の□にチェックマークを付けてください。

右側面

電源端子

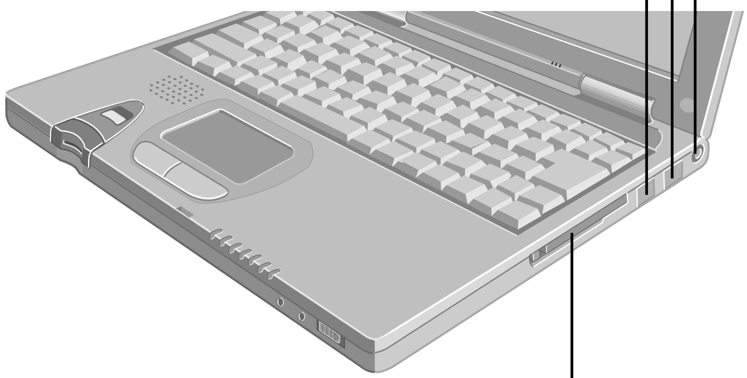
付属のACアダプターのDCプラグを接続します。

LANコネクター

工場出荷時には使用できない設定になっています。
（→95ページ）

モデムコネクター

→47ページ



PCカードスロット

PC Card Standard規格に準拠したカードをセットします。

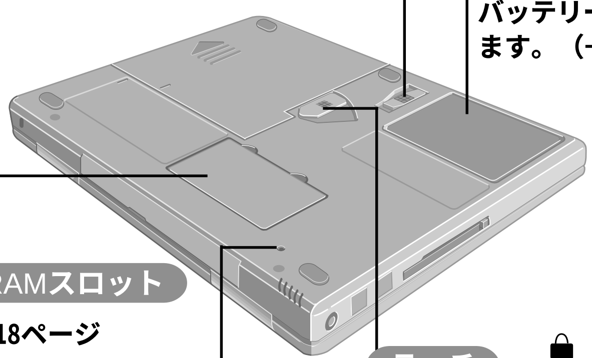
底面

ラッチ

バッテリーパックを取り外すときにスライドします。

バッテリーパック

バッテリーパックを挿入します。（→104ページ）



増設RAMスロット

→118ページ

リセットスイッチ

電源が入っている時、先の細いもので押すとコンピューターが再起動します。鉛筆などの折れやすいものは使用しないでください。

ラッチ

CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、拡張バッテリーパック、ウェイトセーバーを取り外すときにスライドします。

お願い

リセットスイッチは、何らかの問題が発生して、コンピューターが操作不能状態になったとき以外は、使用しないでください。保存していないデータは失われます。

各部の名称と働き

左側面/背面

ワイヤレススロット

CF（コンパクトフラッシュ）カードやCFカードタイプのワイヤレス通信カードなどをセットします。（→120ページ）

通風孔

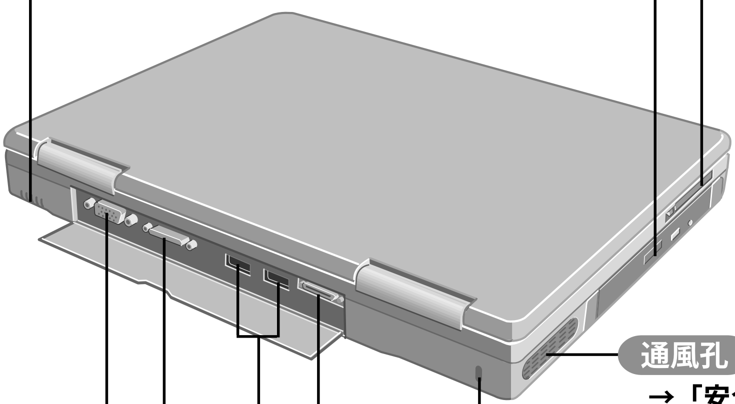
→「安全上のご注意」7ページ

CD-ROMドライブ

<CF-M2Cの場合>
→111ページ

CD-R/RWドライブ

<CF-M2Rの場合>
→111ページ



通風孔

→「安全上のご注意」7ページ

セキュリティロック LOCK

市販の盗難防止用のケーブルを使用し、机などにつなぎます。接続のしかたはケーブルに付属の取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレスコムポート

別売りの携帯電話接続ケーブルやPHS電話接続ケーブルを接続します。（→50、155ページ）

USBコネクター

電源を入れたままで、USB対応のマウス、キーボード、プリンター、スキャナーなどいろいろな周辺機器を接続できます。使用するにはUSB機器に付属のドライバープログラムをインストールする必要があります。（付属のフロッピーディスクドライブ用のドライバーは、工場出荷時にインストールされています。）

拡張バスコネクター EXT.

別売りのI/Oボックスを取り付けます。（→114、154ページ）

ディスプレイコネクター

外部ディスプレイや液晶プロジェクターなどを接続します。

◀ イラストはCF-M2Cを例にしています。

◀ CD-R/RWドライブでは、以下の3種類のメディアを使用することができます。
- CD-ROM（読み込み専用のCDメディア）
- CD-R（CD-Recordable：1回だけ書き込み可能なCDメディア）
- CD-RW（CD-ReWritable：書き込みおよび消去可能なCDメディア）

CF-M2Rには、CD-RやCD-RWへの書き込み用アプリケーションとして、「Easy CD Creator™4」と「DirectCD™3」がインストールされています。→詳しくは付属別紙参照

お願い

USB機器には、スタンバイや休止状態機能に対応していないものがあります。対応していない機器をご使用の場合は、スタンバイや休止状態機能を使用する前に、その機器を取り外してください。
また、設定、接続のしかたについては、USB機器に付属の説明書をご覧ください。

使いかた

スマートポインターのクイックラウンチャー機能やスタンバイ・休止状態機能など、本機を操作するうえで便利な機能について説明しています。また、プライベートキーの使いかた、通信のしかた、省電力機能やバッテリーパックの使いかた、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。

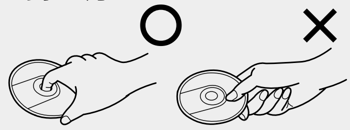
もくじ

CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブについて

ディスク取り扱い上のお願い

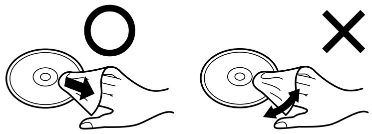
- 汚したり、傷つけたりしないでください。
- ゴミやほこりの多い場所、温度、湿度の高い場所、直射日光の当たる場所に置かないでください。
- ラベル面に紙など貼らないでください。また、CD-Rなどのラベル面に文字を書くときには、フェルトペンをお使いください。
- 落としたり、曲げたり、重い物をのせないでください。
- 温度差の激しい場所に置かないでください。(結露が生じます。)
- 急に暖かい室内に持ち込んだときなどに露がついたら、乾いた柔らかい布でふいてください。
- ディスクの汚れや損傷の原因になりますので、再生面（タイトルのない面）に触れないでください。
- 2～3か月に1回程度、ディスクのクリーニングをしてください。クリーニングには、CDディスククリーナーを使用してください。

＜持ち方＞



＜汚れをとるには＞

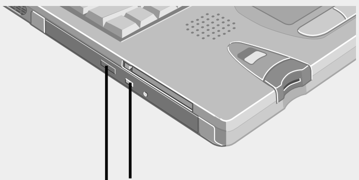
柔らかい乾いた布で、中心から外の方向へ軽くふきます。



ドライブ取り扱い上のお願い

- トレイにディスク以外のものを載せないでください。
- トレイを開けたままで放置したり、レンズ部分に触れたりしないでください。
- トレイが開いているときに、トレイに無理な力をかけないでください。
- トレイを閉じた後、CDアクセスランプが消えるまで、CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブにアクセスしないでください。
- CDアクセスランプ点灯中は、次のことに注意してください。
  - ・トレイを引き出さない。（→次ページ）
  - ・コンピューターを動かさない。
  - ・電源を切ったり、スタンバイや休止状態にしない。
  - ・ディスク取り出しボタンに触れない。
- 油煙やたばこの煙の多いところでは使用しないでください。
- CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのすき間部分にゼムクリップなどの異物が入らないようにしてください。
- CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのクリーニングにはCDレンズクリーナー（クリーニング液を使用するものを除く）を使用してください。

イラストはCF-M2Cを例にしています。



CD-R、CD-RWメディアに書き込みや書き換えを行う場合

- ・コンピューター本体またはCD-R/RWドライブに付属の「Easy CD Creator™4 / DirectCD™3」のCD-ROMを使って、専用アプリケーションソフトをコンピューターにインストールしてください。（CF-M2Rには、工場出荷時インストール済みです。）インストールの方法については、「Easy CD Creator™4 / DirectCD™3」のご案内をご覧ください。
- ・書き込みや書き換え速度に応じたメディアをご使用ください。
- ・書き込み作業が長時間におよぶ場合は、ACアダプターを接続しておいてください。作業中にバッテリー切れが起こると書き込みに失敗する場合があります。

CD-RWを他のコンピューターで読む場合

CD-RWは、CD-RWの読み出しに対応していないドライブ*では読み出すことができません。
*ドライブの各メーカーにお問い合わせください。

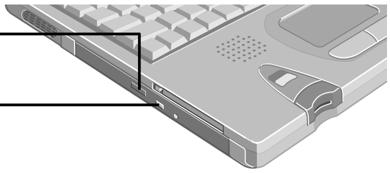
ディスクのセット/取り出し

イラストはCF-M2Cを例にしています。

1 本体の電源が入っていることを確認し、ディスク取り出しボタンを軽く押す。

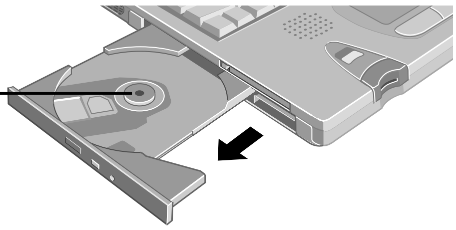
ディスク取り出しボタン⏏

CDアクセスランプ



2 手でゆっくり引き出す。

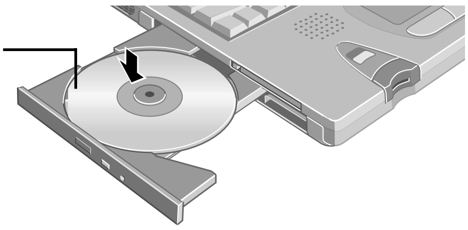
センターホルダー



3 ディスクをセットする/取り出す。

＜セットする場合＞

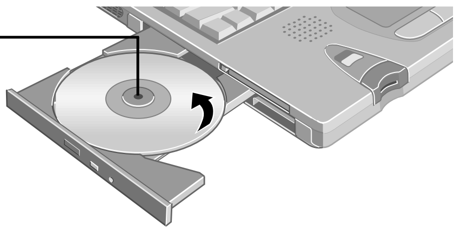
タイトル面を上にして、CDの中心部をカチッと音がするまで押してしっかりとセットする。



＜取り出す場合＞

センターホルダーに指を添え、ディスクの端を浮かせて取り出す。

センターホルダー



4 手でトレイを閉じる。

お願い

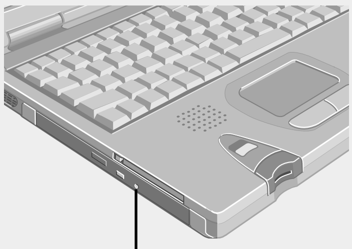
CDアクセスランプ点灯中は、トレイを開けないでください。

アプリケーションソフトが入ったディスクの場合は、アプリケーションソフトを起動した後、そのアプリケーションソフトを終了するまでトレイを開けないでください。

◀CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブが取り外されている場合は、取り付けてください。（→111ページ）

トレイが引き出せないときは

トレイが引き出せないときや、電源を入れないでディスクを取り出したいときは、ゼムクリップを引き伸ばしたものなどをエマージェンシーホールに差し込んでトレイを引き出してください。



エマージェンシーホール

自動実行のディスクの場合

- 自動実行が開始されるまでに時間がかかる場合があります。CDアクセスランプが点灯している場合は、しばらくお待ちください。点灯していない場合は、ディスクを入れ直してください。
- スタンバイや休止状態からのリジューム後、自動実行のディスクを挿入しても実行されない場合は、15秒以上待ってからディスクを入れ直してください。

動画を再生するようなディスク（ビデオCDやMPEGデータを再生するCDなど）

なめらかに再生できないことがあります。あらかじめご了承ください。

CDドライブ速度（→130ページ）を「中速」に設定していると

アプリケーションソフトによっては正しく動作しないことがあります。この場合、「高速」に設定してから実行してください。それでも正しく動作しない場合は、他のアプリケーションソフトを終了してください。

スマートポインターの操作

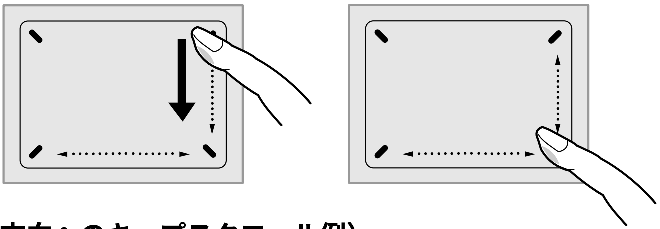
ここでは、スマートポインターのキープスクロール機能やインテリマウスと比較した操作の違いについて説明します。
タップやダブルタップなどスマートポインターの基本的な操作については、取扱説明書『セットアップ編』をご覧ください。

スマートポインターのキープスクロール機能

キープスクロール機能とは、スマートポインターのコーナーの＼（／）を押し続けることで、画面をスクロールさせる機能です。
・スマートポインター右側の縦矢印を、上（下）方向にこすった後、そのまま右上（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。
・スマートポインター下側の横矢印を、左（右）方向にこすった後、そのまま左下（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。

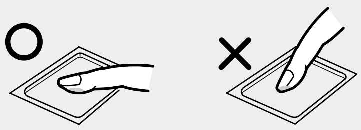
キープスクロール機能使用時のコツ

指の腹を使って、ゆっくりと矢印部をこすり、コーナーの＼（／）で指を止める。



（下方向へのキープスクロール例）

◀指を立てた状態で操作すると、うまくスクロールすることができません。（ペンやつめなどでは反応しません。）



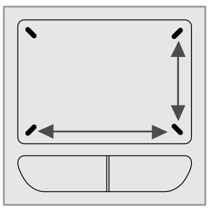
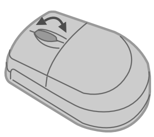
◀コーナーの＼（／）以外の部分で指を止めると、スクロールが止まってしまいます。
◀早くこすりすぎると、コーナーの＼（／）で指を止めてもスクロールが止まってしまいます。

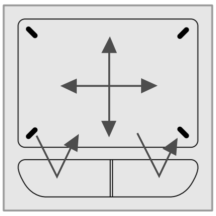
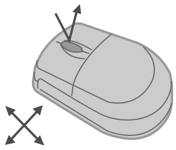
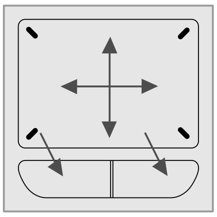
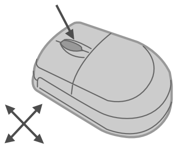
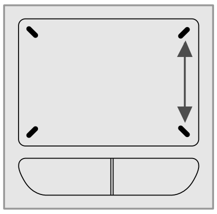
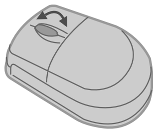
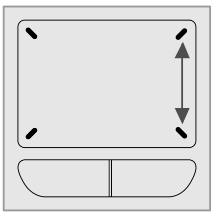
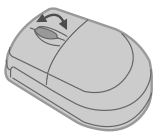
使いかた

便利

スマートポインターとインテリマウス™

ここでは、スマートポインターとインテリマウスのスクロール操作を比較して説明します。各機能の動作はアプリケーションソフトによって異なることがあります。

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
スクロール 文書を縦方向または横方向にスクロールします。		 ホイールを動かす

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
オートスクロール 文書を自動的にスクロールします。 スマートポインターから手を離しても、カーソルの形状が示す方向にスクロールします。	②スクロールしたい方向に操作面をなぞって手を離す  ①２つのボタンを同時にクリックした後	①ホイールをクリックした後  ②マウスを動かす
パン 文書をさまざまな方向にスクロールします。ボタンまたはホイールを押している間、スクロールが続きます。	②操作面をなぞる  ①２つのボタンを押しながら	①ホイールを押しながら  ②マウスを動かす
ズーム 文書の表示を拡大/縮小します。	Ctrl ＋ 	Ctrl ＋ 
データズーム 文書を表示したり隠したりなど、エクスプローラの操作を実行します。	Shift ＋ 	Shift ＋ 

◀オートスクロール機能
・長い文書を読むときやデータを拾い読みするときなどに便利です。
・スクロールの速度は、カーソルを原点*から遠くへ移動させるほど速くなります。
・オートスクロール機能を解除するには操作面を1回タップしてください。

◀パン機能
スクロールの速度は、カーソルを原点*から遠くへ移動させるほど速くなります。

*原点とは、ボタンやホイールを押した位置のことです。

クイックラウンチャー機能

クイックラウンチャー機能を使用すると、スマートポインターを使って、より簡単にコンピューターの操作を行うことができます。
クイックラウンチャー機能には、大きく分けて次の3つがあります。

＜スマートポインター連携1＞

スマートポインターのコーナーの＼（／）をダブルタップするだけで、以下のことを行うことができます。

・ラウンチャーの起動
・ウィンドウを閉じる、最大化するなど設定されているウィンドウ操作
・ Enter 、 Tab 、 Esc キーの押下操作
・登録しておいたアプリケーションソフトの起動

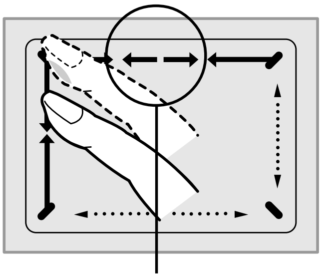
◀アクションポイント機能
詳しくは→次ページ

＜スマートポインター連携2＞

スマートポインターの左上コーナーの＼から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの／から上にこする、右上コーナーの／から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションソフトを起動したりすることができます。

◀アクションライン機能
詳しくは→22ページ

コーナーの＼（／）に指の腹を置き、ゆっくりと中央部まで水平または垂直にこすってください。



◀力を入れすぎたり、早くこすりすぎたりすると、正しく動作しない場合があります。

また、インターネットエクスプローラなどのブラウザー使用時に、上辺の中央部から左または右にこする動作で戻る/進むの操作ができるように設定することができます。

◀設定方法は→23、28ページ

＜ラウンチャー＞

ラウンチャー画面から操作を選ぶだけで、ウィンドウを閉じる、最大化するなど登録されているウィンドウ操作を行ったり、 Enter 、 Tab 、 Esc キーの押下操作を行ったり、またアプリケーションソフトを起動したりすることができます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。

◀詳しくは→29ページ
アプリケーションソフトによっては、登録されているウィンドウ操作が動作しないものもあります。

使いかた

便利

クイックラウンチャー機能が動作しない場合

タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていない場合は上記の3つのクイックラウンチャー機能は動作しません。
[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックラウンチャー]をクリックして、クイックラウンチャーアイコンが表示されたことを確認してください。

スマートポインター連携

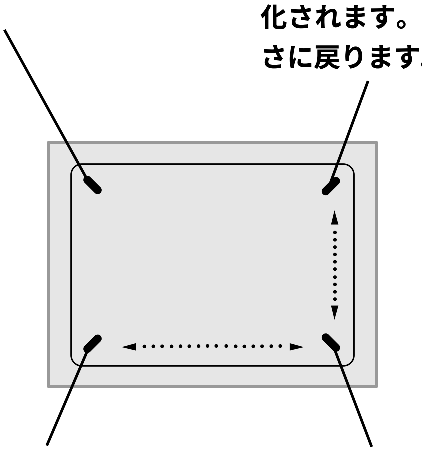
スマートポインター連携1 （アクションポイント機能）

コーナーにある4つの＼（／）をダブルタップするだけで以下の機能を実行できます。

（例）工場出荷時

Outlook Expressが起動します。（→78ページ）

アクティブウィンドウが最大化されます。または元の大きさに戻ります。



インターネットエクスプローラが起動します。

アクティブウィンドウが閉じられます。どのウィンドウもアクティブでない場合は、「Windowsの終了」画面が開きます。

スマートポインター連携1、2を使用するには

- タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。→前ページ
- ラウンチャーを起動しているときには、この機能は働きません。ラウンチャーを終了させてください。→31ページ

＼（／）をダブルタップしたときの動作を変えるには

スマートポインター上の4コーナーの各＼（／）をダブルタップしたときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携1」で変更することができます。→23ページ

各コーナーごとにスマートポインター連携1、2の機能を一時的に中止したい場合

タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをクリックし、プルダウンメニューから該当するメニューを選んでチェックマークを付けてください。

パッドボタンを使わない：４コーナーの動作を中止します。
左上を使わない：左上コーナーの＼の動作を中止します。
右上を使わない：右上コーナーの／の動作を中止します。
左下を使わない：左下コーナーの／の動作を中止します。
右下を使わない：右下コーナーの＼の動作を中止します。

スマートポインター連携1と2を中止したコーナーは、通常の基本操作領域（クリックやスクロールなどを行う領域）として機能します。（→18ページ）

使いかた

便利

クイックラウンチャー機能

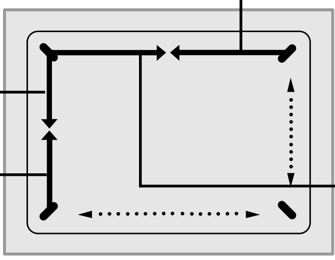
スマートポインター連携2 （アクションライン機能）

スマートポインターの左上コーナーの＼から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの／から上にこする、右上コーナーの／から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションソフトを起動したりすることができます。
また、インターネットエクスプローラなどのブラウザー使用時に、上辺の中央部から左または右にこする動作で戻る/進むの操作ができるように設定することができます。

（例）工場出荷時

左上コーナーから下方向に中央部までこすると、カーソル位置のショートカットメニュー（右ボタンをクリックしたときに表示されるメニュー）が表示されます。*1

右上コーナーから左方向に中央部までこすると、開かれているすべてのウィンドウが最小化されます。（全最小化操作）
開かれているウィンドウがない場合は、上記の全最小化操作で最小化されたウィンドウを元の大きさに戻します。*2



左上コーナーから右方向に中央部までこすると、アクティブウィンドウのメニューが表示されます。
どのウィンドウもアクティブでない状態では、Windowsのスタートメニューが表示されます。*3

左下コーナーから上方向に中央部までこすると、Windowsのスタートメニューが表示されます。

スマートポインター連携1、2を使用するには→前ページ

◀3コーナーの　および上辺、中央部をこすったときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携2」で変更することができます。→次ページ

*1 指の腹で押さえながらゆっくりとこすってください。軽く早くこすると、カーソル位置がずれて、希望するショートカットメニューが表示されないことがあります。

*2 他の方法（タイトルバー上のをクリックするなど）で最小化されたウィンドウは、この操作では元に戻すことはできません。また、全最小化操作を続けて行った場合は、最後の操作で最小化されたウィンドウのみを元に戻します。

*3 アプリケーションソフトによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウでは、動作しないことがあります。

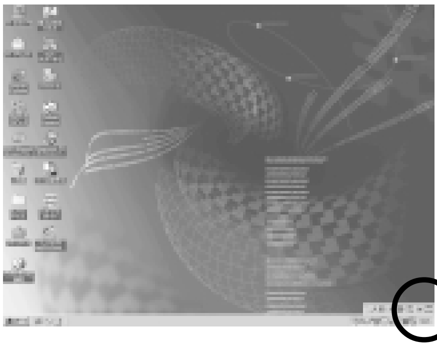
各コーナーごとにスマートポインター連携1、2の機能を一時的に中止したい場合
→前ページ

使いかた
便利

環境設定（スマートポインター連携1、2）

スマートポインター上の4コーナーの各◣（◢）をダブルタップしたときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携1」で変更することができます。
また、3コーナーの◣（◢）をこすったときの動作や上辺中央部をこすったときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携2」で変更することができます。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

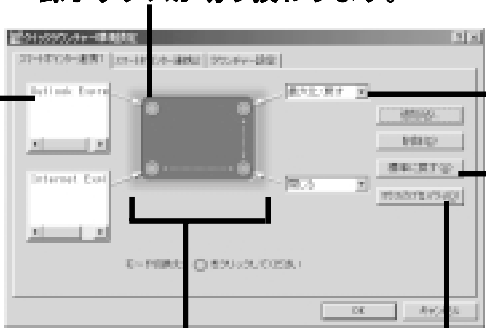


タスクバーのクイックラウンチャーアイコン をダブルクリックする。

◀クイックラウンチャーアイコン をクリックし、[環境設定] をクリックしても起動できます。

2 「スマートポインター連携1」タブまたは「スマートポインター連携2」タブをクリックする。

画面上の各◎または⇨をクリックすると、選択ボックスと登録ボックスが切り換わります。



選択ボックス

ここをクリックすると、各設定が工場出荷時の状態に戻ります。

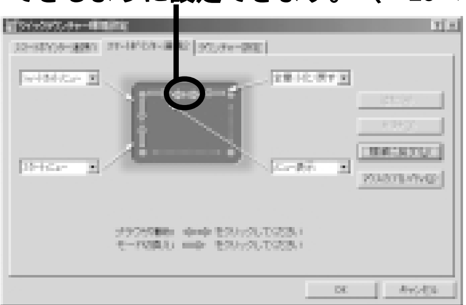
スマートポインター画面

スマートポインターやマウス端子に接続した外部マウスの動作の詳細を設定します。（→26ページ）

登録ボックス

<スマートポインター連携2の場合のみ>

ここをクリックすると、「マウスのプロパティ」が起動し、インターネットエクスプローラなどのブラウザー使用時に、スマートポインターの操作面を利用して進む/戻るの操作ができるように設定できます。（→28ページ）



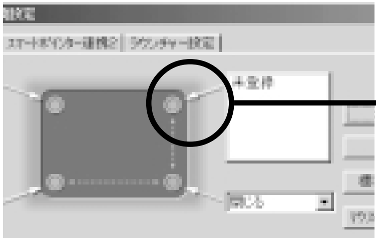
◀左記画面は「スマートポインター連携1」タブをクリックした場合を例にしています。

◀選択ボックス
画面上の◎または⇨が緑色の場合（選択ボックス表示時）は、すでに登録されている項目（ウィンドウの操作・キー押下操作・ランチャー起動）の中から、ひとつを選んで設定することができます。

◀登録ボックス
画面上の◎または⇨が黄色の場合（登録ボックス表示時）は、ひとつの◎または⇨に対して複数のアプリケーションソフトを任意に登録できます。一連の操作に必要なアプリケーションソフトをまとめて登録しておくと便利です。

3 登録ボックスにアプリケーションを登録・削除する。
または、選択ボックスからひとつの操作を選んで設定・解除する。

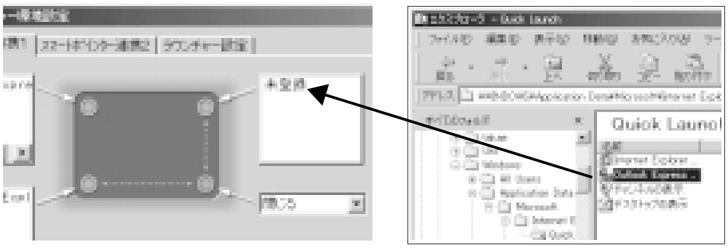
＜登録ボックスにアプリケーションを登録する場合＞



❶ スマートポインター画面上の◎または⇨をクリック（◎または⇨を黄色にする）

◀以降の画面は、「スマートポインター連携1」で右上コーナーの登録ボックスに登録する場合を例にしています。

❷ 登録したいアプリケーションのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

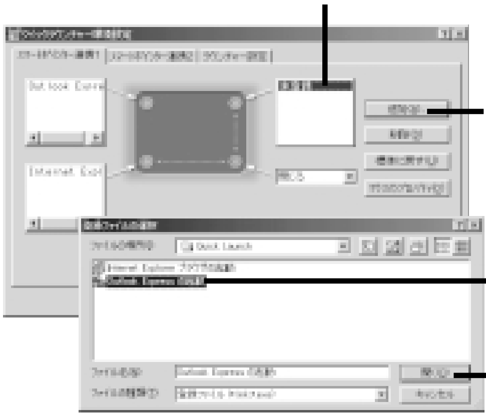


◀ドラッグ＆ドロップで登録する方法と[追加]ボタンで登録する方法の2とおりがあります。（→下記）

登録できるファイル
　ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
　ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

[追加]ボタンで登録する方法

登録ボックスの項目のいずれかをクリックして反転表示させてから、

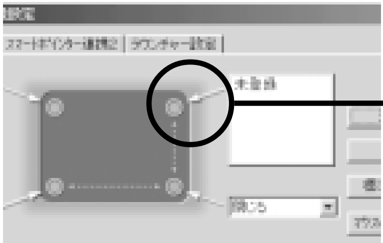


[追加]をクリックし、

登録したいアプリケーションを選び、

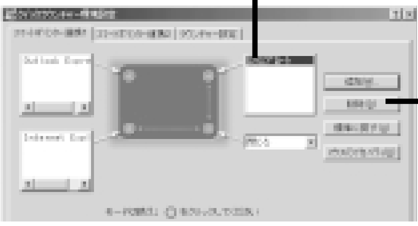
[開く]をクリックする。

<登録ボックスからアプリケーションソフトを削除する場合>



1 スマートポインター画面上の◎または⇨を **クリック** （◎または⇨を黄色にする）

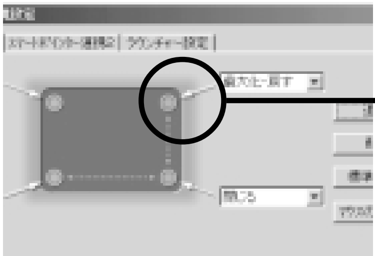
2 登録ボックスの削除したい項目を **クリック**



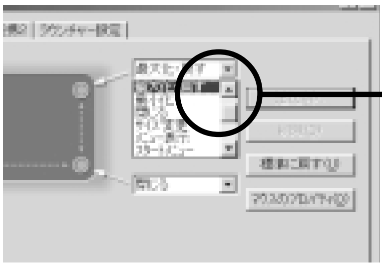
3 [削除]を **クリック**

◀選んだ項目が、反転表示されます。

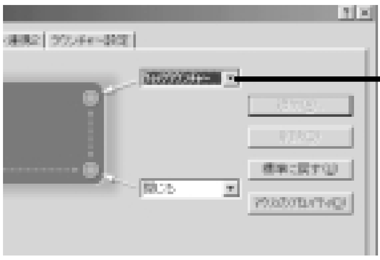
<選択ボックスから操作を選択する場合>



1 スマートポインター画面上の◎または⇨を **クリック** （◎または⇨を緑色にする）



2 選択ボックスの右端の▼を **クリック**



3 項目の中から設定したい操作を選ぶ。

選んだ操作の動作について

- どのウィンドウもアクティブでない状態で「メニュー表示」機能を動作させると、「スタート」メニューが開きます。
- アプリケーションソフトによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対して「メニュー表示」機能を動作させた場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
- どのウィンドウもアクティブでない状態で「閉じる」機能を動作させると、「Windowsの終了」画面が開きます。
- 「サイズ変更」機能を実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。

◀「なし」を選択すると、そのコーナー部は指で触れても反応しなくなります。キー入力時に右上や左上コーナーを「なし」に設定しておくと便利です。ただし、その際には、タスクバーのクイックラウンチャーアイコンのメニューで「パッドボタンを使わない」や「左上を使わない」「右上を使わない」にチェックマークを付けないでください。（→21ページ）

クイックラウンチャー機能

4 **設定内容を確認して、[OK]をクリックする。**



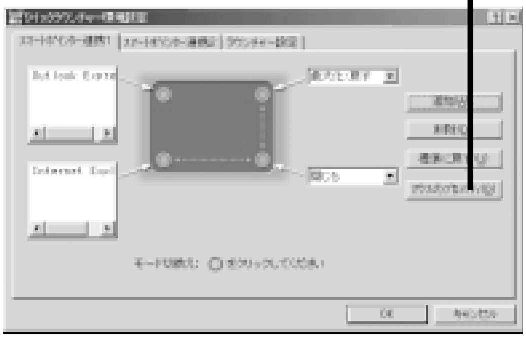
◀設定内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

マウスのプロパティ

マウスのプロパティでは、スマートポインターや別売りのマウスの動作の詳細を設定できます。
ここでは、マウスのプロパティの主な設定について説明します。

1 **「マウスのプロパティ」画面を開く。**

「環境設定」プログラムの「スマートポインター連携1」または「スマートポインター連携2」の[マウスのプロパティ]をクリックします。



「マウスのプロパティ」の開きかた
下記の方法でも「マウスのプロパティ」画面を開くことができます。
- タスクバーのAlps Pointアイコンをダブルクリックする。
- 「コントロールパネル」の[マウス]をダブルクリックする。

2 **各設定を行う。**

＜ボタン設定画面＞

左ボタンを押したときの機能を設定します。

ボタンもしくは操作面をダブルクリックしたときの速度を調節できます。（ラウンチャー使用時のダブルタップ速度もここで調節されます。）



右ボタンを押したときの機能を設定します。

左ボタンと右ボタンを同時に押したときの機能を設定します。

「ボタン」設定画面のすべての設定（オプション設定の内容も含む）を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

◀スクロール機能（オートスクロール機能を含む）は、アプリケーションソフトによって動作しない場合があります。
また、すばやく繰り返し動作させると、反応が遅くなる場合があります。

各設定画面の「デフォルト」ボタン
各画面ごとに、設定を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

＜動作設定画面＞

スマートポインターとマウスのどちらに対して設定を変更するかを選びます。

カーソルの移動速度を調節します。「遅」のほうに設定すると、より細かな指定がしやすくなります。



スマートポインターやマウスをすばやく動かして操作したいときに、実際に動かしている速度以上に、カーソルの移動速度を加速したい場合に「中」や「高」に設定します。

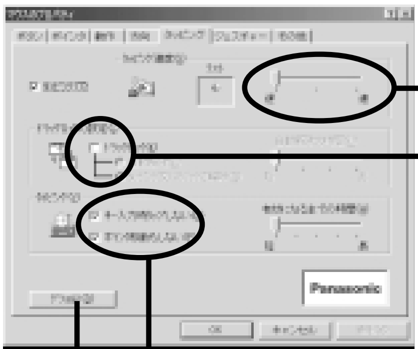
ここにチェックマークを付けておくと、ウィンドウを開いたときなどにカーソルが自動的にデフォルトのボタン位置に移動します。工場出荷時にはチェックマークが付けられています。

「動作」設定画面のすべての設定を標準の状態に戻します。

◀「マウスのプロパティ」の[動作]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

◀マウスによっては、移動速度を調節しても、有効にならない場合があります。

＜タッピング設定画面＞



操作面をタップする速度を調節できます。

ここにチェックマークを付けると、タップ操作でドラッグした後、手を離してもドラッグ状態を保持するように設定できます。また、保持状態の解除方法を「自動解除」と「タッピング又はクリックで解除」から選ぶことができます。「自動解除」を選んだ場合は、その時間を設定できます。

「キー入力時タップしない」にチェックマークを付けると、キー入力時、スマートポインターをタップしても反応しません。「ポインタ移動もしない」にチェックマークを付けると、キー入力時、スマートポインターの操作面をこすってもポインターは移動しません。「有効になるまでの時間」では、キー入力後、スマートポインターでのタップやポインタ移動を有効な状態に戻すまでの時間を「短⟷長」の間で設定できます。工場出荷時には「短」に設定されています。必要に応じて調節し直してください。

「タッピング」設定画面のすべての設定を標準の状態に戻します。

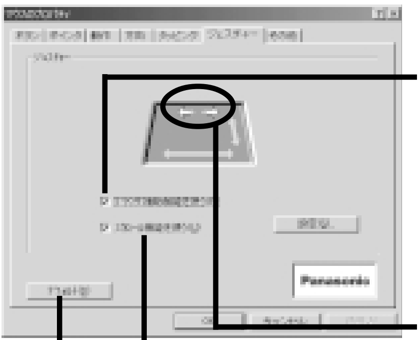
◀「マウスのプロパティ」の[タッピング]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

お願い

「タッピング又はクリックで解除」に設定している場合は、ドラッグロック中には、スタンバイや休止状態に入らないでください。リジューム後にディスプレイに何も表示されなくなります。その場合は操作面をタップまたはボタンをクリックしてください。

クイックラウンチャー機能

<ジェスチャー設定画面>



「ブラウザ補助機能を使う」にチェックマークを付けると、エクスプローラやインターネットエクスプローラなどのブラウザー機能（検索ソフト）使用時、スマートポインターの操作面を利用して[戻る]/[進む]の操作ができます。
このように操作面の上辺中央部から
・左へこすると：戻る
・右へこすると：進む

スマートポインター、またはホイール付きマウスのスクロール機能を使用する場合、ここにチェックマークを付けます（→18ページ）。この場合、[設定]ボタンをクリックすると、スクロール速度などを設定できます。（下記）

「ジェスチャー」設定画面のすべての設定を標準の状態に戻します。

◀「マウスのプロパティ」の[ジェスチャー]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

<「設定」画面>



スクロール機能が有効の場合、その速度を調節します。

スマートポインターのスクロール操作領域を設定します。また、各コーナーの◣（◢）の操作領域を変更したい場合も、ここで調節してください。スクロール領域の縦と横が交差した部分が各コーナーの◣（◢）の操作領域になります。

すべての設定を標準の状態に戻します。

◀「マウスのプロパティ」の「ジェスチャー」タブの[設定]をクリックすると、左記の画面が表示されます。

3 設定を終了する。



[適用]をクリックすると、変更内容を保存します。マウスのプロパティ設定は終了しません。

[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、マウスのプロパティ設定を終わります。

[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、マウスのプロパティ設定を終わります。

◀終了操作は、「ボタン」「タッピング」などの各設定画面から行うことができます。
（左記画面は一例です。）

ラウンチャー

ラウンチャー画面（下記）から操作を選ぶだけで、登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter、Esc、Tab キーの押下操作を行ったりすることができます。また、あらかじめ登録しておいたアプリケーションソフトを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。
ラウンチャーには、次の２種類の操作モードがあります。

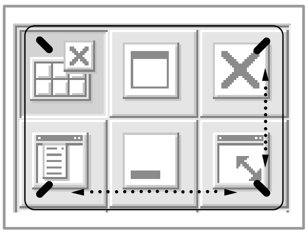
◀各操作モードは環境設定（ラウンチャー設定）（→32ページ）で切り換えることができます。工場出荷時には、パッド操作モードに設定されています。

＜パッド操作モード＞

パッド操作モード時には、スマートポインターは6区画または9区画に分けて管理されています。スマートポインターの各区画は、ラウンチャー画面の各区画に対応しています。スマートポインターの各区画をダブルタップすると、その区画に対応したラウンチャー画面の区画に表示されている操作を行うことができます。

◀何区画に分けるかは、環境設定（ラウンチャー設定）（→32ページ）で切り換えることができます。工場出荷時には、6区画に設定されています。

スマートポインターとラウンチャー画面の対応図（一例）



＜マウス操作モード＞

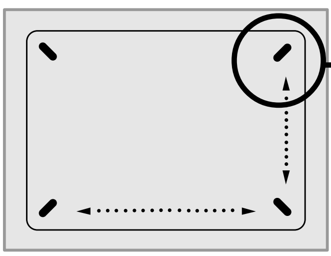
マウス操作モード時には、スマートポインターは区画管理されていません。通常どおりスマートポインターやキーボードを使ってラウンチャー画面のアイコンの位置にカーソルを移動してからダブルクリックすると、登録されている操作を行うことができます。

1 スマートポインター連携1でスマートポインター上の右上コーナーのをダブルタップすると、ラウンチャーが起動するように設定しておく。（→23ページ）

登録ボックスに「c:\Program Files\Panasonic\Launch\launcher」を登録してください。

◀右上以外のコーナーにも設定することができます。設定環境に応じて便利なコーナーを選んでください。

2 ラウンチャーを起動する。



スマートポインターの右上コーナーのをダブルタップする。

ラウンチャーを起動するときは
・タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。（→20ページ）

ラウンチャー起動時は

スマートポインター連携1や2の機能は働きません。（→21ページ）

使いかた

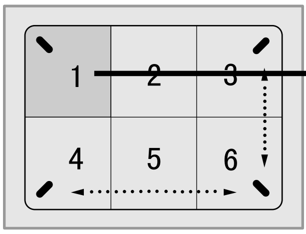
便利

クイックラウンチャー機能

3 登録されている操作を実行する。

＜パッド操作モード時＞

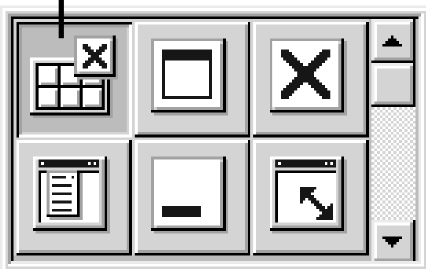
スマートポインター



スマートポインターの区画１をダブルタップする。

ラウンチャー画面の区画１に表示されている操作（この場合、ラウンチャーを閉じる）が実行されます。

ラウンチャー画面



＜マウス操作モード時＞

ラウンチャー画面



ここを選んで（紫色表示させて）ダブルクリック

選ばれたアイコンの操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

◀パッド操作モード時には、カーソルをラウンチャー画面の外に移動できません。また、ラウンチャー画面上でのカーソルの位置は、操作の対象と一致しません。例えば、区画１のアイコンが選ばれていても、スマートポインター上の区画６をダブルタップすると、区画６に表示されている操作が実行されます。

ダブルタップ時のお願い
- ２回目のタップ時にも、すばやく手を離してください。操作面に触れたままにするとうまく動作しません。
- スマートポインター上の各区画の中央部をタップしてください。各区画の境界部をタップするとうまく動作しないことがあります。

ラウンチャー画面のスクロール

スマートポインター上の縦矢印をこすると、ラウンチャー画面をスクロールさせることができます。また、カーソルキーを使ってスクロールすることもできます。

◀選択したいアイコンをクリックすると、紫色表示されます。また、カーソルキーを使ってアイコンを選ぶ（紫色表示させる）こともできます。

ラウンチャー画面のサイズ

必要に応じて変更できます。画面のサイズにより、縦スクロールバーが表示されます。また、その際に、アイコンが半分隠れて表示される場合がありますが、動作には問題ありません。

4 ラウンチャーを終了する。

＜パッド操作モード時＞

ラウンチャー画面にを表示させた状態で、そのアイコンに対応したスマートポインターの区画をダブルタップする。

＜マウス操作モード時＞

ラウンチャー画面のを選んで（紫色表示させて）、ダブルクリックする。

◀パッド操作モード時は、右ボタンをクリックしてラウンチャーを終了することもできます。

◀マウス操作モード時は、通常のウィンドウ終了操作（タイトルバー上のをクリックするなど）でラウンチャーを終了することもできます。

各アイコンの機能一覧

ラウンチャー画面のアイコン上にカーソルを置くと、そのアイコンの機能説明が、画面上に数秒間表示されます。

ラウンチャーを閉じる	スタートメニューを開く
ウィンドウを最大化する/戻す	Windowsの終了メニューを開く
ウィンドウを閉じる	メール自動送受信機能を起動する
ウィンドウのメニューに移動する	Outlook™ Express 5を起動する
ウィンドウを最小化する	ワードパッドを起動する
ウィンドウのサイズを変更する	ダイヤルアップネットワーク画面を開く
Esc キー	アクセスポイント設定画面を開く
Tab キー	クイックラウンチャー環境設定画面を開く
Enter キー	

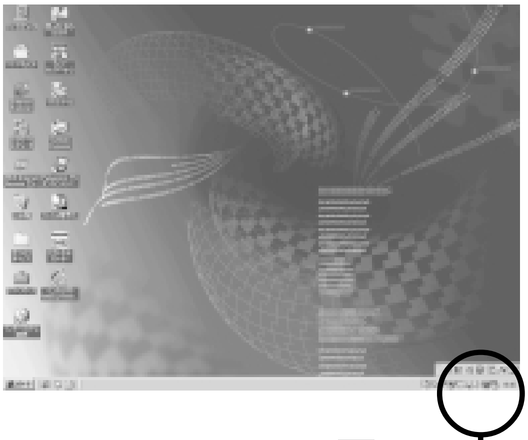
- どのウィンドウもアクティブでない状態でを実行した場合、「スタート」メニューが開きます。
- どのウィンドウもアクティブでない状態でを実行した場合、「Windowsの終了」画面が表示されます。
- メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対してを実行した場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
- 実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。
- アプリケーションソフトによっては、メニューを表示中に、やなどサイズを変更するような機能を動作させた場合、メニュー表示が残ることがあります。
また、各ウィンドウ操作機能が動作しない場合があります。

クイックラウンチャー機能

環境設定（ラウンチャー設定）

環境設定で、ラウンチャー画面に新しく操作を登録したり、すでに登録されている操作を削除したりします。

1 「環境設定」プログラムを起動する。



クイックラウンチャーアイコンをダブルクリック

◀クイックラウンチャーアイコンをクリックし、［環境設定］をクリックしても起動できます。

2 「ラウンチャー設定」タブをクリックする。



登録されている操作に対応したアイコンが表示されています。

操作モードを切り換えます。
工場出荷時は、パッド操作モードに設定されています。

各操作モードについて
詳しくは→29、30ページ

パッド操作モード時に、スマートポインターを６分割して管理するか、９分割して管理するかを切り換えます。

◀工場出荷時には６分割に設定されています。

3 ラウンチャー画面への登録を変更する。

<アプリケーションソフトを登録する場合>

登録したいアプリケーションソフトのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

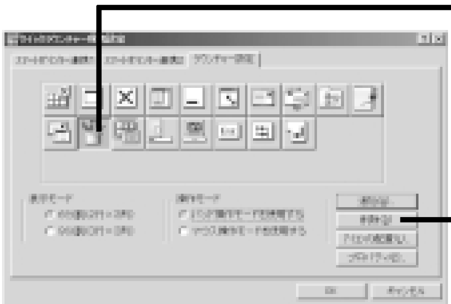


◀ドラッグ＆ドロップで登録する方法と[追加]ボタンで登録する方法の2とおりがあります。（→下記）

登録できるファイル

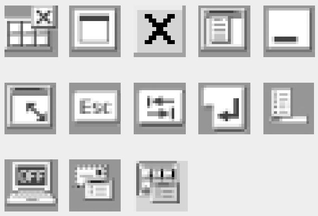
- ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。
- 最大24個まで登録できます。

<アプリケーションソフトを削除する場合>



1. 削除したいアイコンをクリックして青色表示させる。
2. クリック

削除できないアイコン



使いかた

便利

[追加]ボタンで登録する方法

登録したい位置のアイコンをクリックして青色表示させて



[追加]をクリックし、

登録したいアプリケーションを選び、

[開く]をクリックする。

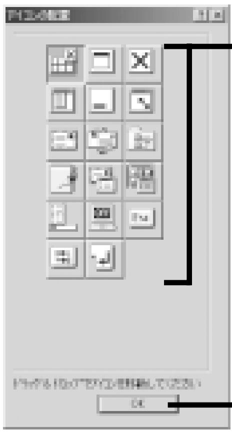
クイックラウンチャー機能

＜ラウンチャー画面のアイコンの順番を並べ替える＞

使う頻度の高い順に並べ替えておくと、ラウンチャー操作がしやすくなります。



1 [アイコンの配置]を クリック



2 アイコンをドラッグ＆ドロップして、位置を変更する。

3 並べ替えが終了したら、[OK]を クリック

アイコンの移動順序

アイコンは右記のように順番付けられています。
例えば、１を４の位置に移動すると、
２が１の位置へ、
３が２の位置へ、
４が３の位置へと
いうように、順に
空いた個所を埋めるように移動します。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16	17	18
19	20	21
22	23	24

＜プロパティを変更する＞



[プロパティ]を クリック

下記の「プロパティの変更」画面が表示されます。

ラウンチャー画面上でアイコンにカーソルを合わせたときに、表示されるメッセージを変更します。

コマンドのリンク先を変更します。

作業フォルダーを変更します。

起動パラメーターを変更します。



アイコン用のファイルを変更します。

変更を取り消します。

変更を保存します。

アイコンファイルに設定されているアイコンの中から、アイコンを選択できます。

「アイコンの変更」で選択したアイコンが表示されます。

4 設定内容を確認して、[OK]をクリックする。



タイトルに「&（半角）」を使用したい場合

半角の「&」は、1つだけ入力しただけではタイトル名に表示できません。「&&」と2つ続けて入力すると、タイトル名に「&」が1つ表示されます。

◀[OK]をクリックすると、設定内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

「スタンバイ」と「休止状態」機能

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了すると、アプリケーションソフトを終了することなく、電源の入/切を行うことができます。電源を入れると、電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されるので、すぐに操作を始めることができます。

＜スタンバイと休止状態の違い＞

	状態の保存先	立ち上がり速度	電源の供給
スタンバイ	メモリー	速い	必要*
休止状態	ハードディスク	やや遅い	不要

* スタンバイ時には、約175 mWの電力を消費します。標準バッテリーパックの場合、満充電していても約5日間でバッテリー残量がなくなります。

お願い

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使う前に、必要なデータは保存してください。

◀休止状態に入るには、内蔵ハードディスク上に、メモリーデータ書き出し用として一定の領域が必要です。領域は、工場出荷時に確保してありますが、ハードディスクのパーティションを変更したときなどには、確保し直す必要があります。（→149ページ）

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了する

1 スタンバイまたは休止状態を設定する。

1. [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を クリック
2. 「電源の管理」を ダブルクリック
3. 「詳細」タブを クリック
4. 「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を 「スタンバイ」または「休止状態」に設定する。
5. [OK]を クリック

お願い

- Windows上では、セットアップユーティリティの「省電力管理」メニューの「パワースイッチ」の設定は、動作しません。
- MS-DOSモードで使用している場合（→130ページ）

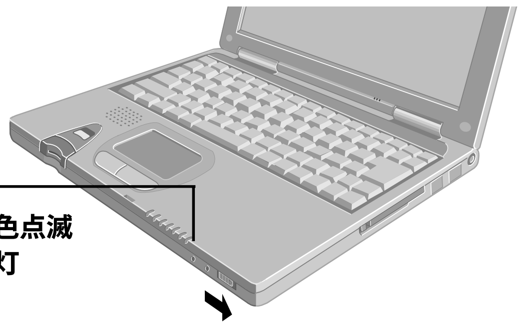
◀工場出荷時には、「スタンバイ」に設定されています。

手順1の④で「休止状態」が表示されない場合

「休止状態」タブをクリックし、「休止状態をサポートする」の左側の□をクリックしてチェックマークを付けた後、[適用]をクリックしてください。

2 スタンバイまたは休止状態を使って終了する。

電源スイッチを右へスライドし、ピッという確認音が鳴ってから手を離す。



電源表示ランプ⏻
スタンバイ時：緑色点滅
休止状態時　：消灯

◀ Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、 Fn + F5 で音量をゼロに設定している場合、音は鳴りません。→134ページ

お願い

電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上スライドし続けると、ピーという連続音が鳴り、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。

他の方法で「スタンバイ」や「休止状態」に入るには

＜スタンバイへの入りかた＞

- Fn + F7 を押す。
- [スタート]→[Windowsの終了]をクリックして「スタンバイ」を選ぶ。

＜休止状態への入りかた＞

- Fn + F10 を押す。（[コントロールパネル]-[電源の管理]-[休止状態]で「休止状態をサポートする」にチェックマークが付いていない場合は、スタンバイに入ります。）

手順1の④で「電源ボタン」の「ポータブルコンピューターを閉じたとき」で設定しておくと、ディスプレイを閉じたときに「スタンバイ」や「休止状態」に入ることができます。（工場出荷時には、「なし」に設定されています。）

使いかた　便利

操作を再開する

1 **電源表示ランプ⏻が緑色点滅または消灯していることを確認し、電源スイッチをスライドし、電源表示ランプが点灯したら手を離す。**

電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されます。



◀電源表示ランプが点灯しているのに画面に何も表示されていない場合は、LCDの電源のみが切れていることが考えられます。その場合は、Ctrl など操作に影響のないキーを押すか、スマートポインターを操作してください。

◀バッテリー容量が少ない状態ではリジュームできない場合があります。その場合はACアダプターを接続してから電源を入れてください。

以下の場合は、スタンバイ（タイムアウト機能を含む）や休止状態に入らないでください

これらの機能や周辺機器およびWindowsが正常に動作しない場合があります。
- データの転送中・オーディオの録音および再生中
- PCカード（SCSI・ATAカード）などの周辺装置を接続している時
- フロッピーディスクドライブ・ハードディスクドライブ・CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブの使用中
- 一部のUSB機器（スピーカーやDVD-RAMなど）を接続している時

上記の周辺機器にアクセスするようなアプリケーションソフトは終了してください。

「スタンバイ」や「休止状態」の処理中およびリジューム時にしてはいけないこと

- 処理中はキーボード、スマートポインターなどを操作しないでください。リジューム後、それらのデバイスが操作できなくなることがあります。その場合、本体を再起動してください。
- 処理中は、リセットスイッチを押さないでください。保存していないデータは失われます。
- リジューム時は、Windowsが完全に起動するまで、キーボード、スマートポインターなどを操作しないでください。

「スタンバイ」や「休止状態」に入れない

- WindowsやMS-DOS以外のオペレーティングシステム（OS）ではディスプレイの電源が正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。
- 常駐ソフトウェアがある場合やスクリーンセーバー実行中は、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。
- BaySwap機能が働いているときは（アイコンがタスクバーに表示されているとき）、Windows起動直後にWindowsパスワードの入力画面が表示されている状態では、スタンバイおよび休止状態に入れません。

リジューム後、しばらく待っても画面に何も表示されない

- 内蔵モデム、LAN、タスクスケジューラによるリジューム機能を使用した場合、画面に何も表示されないことがあります。キーボードまたはスマートポインターを操作すると、元の画面が表示されます。以降、正常にリジュームさせるには、[スタート]→[ファイル名を指定して実行]で[msconfig]と入力して[OK]をクリックし、「スタートアップ」の中の[refdisp]にチェックマークを付けて、コンピューターを再起動してください。
- MS-DOSプロンプト画面が一番手前にある状態でスタンバイや休止状態に入った場合、リジューム時、画面に何も表示されないことがあります。その場合は、Alt ＋ Tab を押してください。

スタンバイや休止状態からのリジューム時は、パスワード入力による保護機能が働きません

(Windowsで使用時)
- セットアップユーティリティでパスワードを設定していても、スタンバイおよび休止状態からのリジューム時にはパスワードの入力が要求されません。
- [コントロールパネル]→[パスワード]でWindows起動時のパスワードを設定し、[コントロールパネル]→[電源の管理]→「詳細」の「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックマークを付けると、リジューム時にパスワード入力画面が表示されます。パスワードを間違うと再入力画面が表示されますが、間違ったパスワードを繰り返し入力すると、再入力画面が表示されるまでの時間が極端に長くなります。
- スタンバイや休止状態からのリジューム時は、プライベートキーのパスワード機能は働きません。

用 語

リジューム　：スタンバイや休止状態から、次に電源を入れたときに元の状態に戻ることを言います。

使いかた

便利

プライベートキーを使う

プライベートキーを使用すると、以下のようなことを行うことができます。
- 無断でコンピューターを起動されないようにする。（→42ページ）
- スクリーンセーバーを実行して画面を見られないようにし、勝手に解除されないようにする。（→42ページ）
- ファイルを暗号化して内容を見られないようにする。（→43ページ）

付属のプライベートキーを使用できるようにするには、初期設定が必要です。下記手順に従って設定してください。初期設定後のプライベートキーの使いかたについては42〜44ページをご覧ください。

お願い

- プライベートキーはなくさないよう大切に保管しておいてください。
- プライベートキーに穴を開けたり、分解や改造をしたりしないでください。正常に動作しなくなります。

プライベートキーの初期設定をする

付属のプライベートキーを使用するには、初期設定を行う必要があります。初期設定は、最初に一度だけ行います。また、付属のプライベートキーの一方を使って初期設定すれば、もう一方も使用できるようになります。ここでは、その方法について説明します。

◀ 初期設定は、コンピューター本体に付属のプライベートキーを使って行ってください。
他のコンピューターに付属のプライベートキーや別売り品では、初期設定を行うことができません。

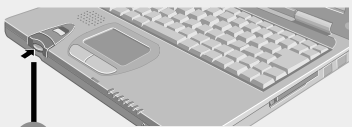
1 コンピューターの電源を入れる。（→『セットアップ編』）

2 付属のプライベートキーをセットする。



「Private key」と書かれた面を上にして、プライベートキーをしっかりと差し込む。

取り出しかた

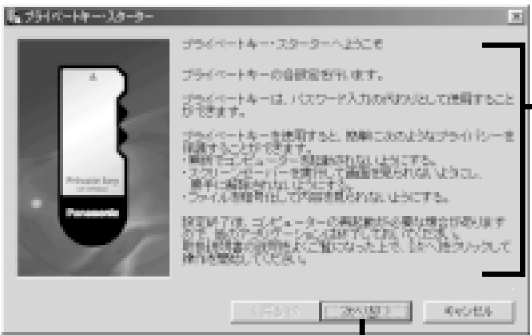


❶ プライベートキーを押す。
プライベートキーが少し飛び出します。
❷ 飛び出した部分を持って、プライベートキーを取り出す。

お願い

プライベートキーをセットしてから取り出すまで、また取り出してからセットするまで、2秒以上あけてください。抜き差しの間隔が短すぎると、プライベートキーの状態を正しく認識できず、誤動作の原因になります。（エラーメッセージが表示された場合は、プライベートキーをセットし直してみてください。）

「プライベートキー・スターター」画面が表示されます。（他のアプリケーションソフトは終了してください。）



❶ 内容をよく読む。

❷ [次へ]を クリック

プライベートキー・スターター

- 必ずプライベートキーをセットしてください。セットしていないと初期設定を行うプログラム「プライベートキー・スターター」が起動しません。また、お買い上げ後、はじめてプライベートキーをセットした場合には表示されません。2回目以降、プライベートキーをセットした場合に表示されます。
- 一度、「プライベートキー・スターター」を使って初期設定を完了した後や、自動的に起動しない設定にしている場合にも表示されません。（→右ページ下段）

◀「キャンセル」をクリックすると、「プライベートキー・スターター」の終了確認画面が表示されます。（→右ページ下段）

使いかた　プライバシー保護

3 必要な機能を選ぶ。

1 使用したい機能にチェックマークを付ける。
- コンピューター起動時のパスワード入力の代わりとして、プライベートキーを使用したい場合は、「コンピュータの起動時に使用する」にチェックマークを付ける。
- プライベートキーを取り出すとスクリーンセーバーを実行し、セットするとスクリーンセーバーを解除できるようにしたい場合は、「スクリーンセーバーの実行/解除に使用する」にチェックマークを付ける。



2 [次へ]を クリック

「スクリーンセーバーの実行／解除に使用する」を選んだ場合
- 「コントロールパネル」の「画面」でスクリーンセーバーを設定しておいてください。設定されていない場合は、自動的に「リボン」のスクリーンセーバーに設定されます。また、スクリーンセーバーの種類によっては、プライベートキーの機能が正常に動作しないことがあります。
- 自動的に「コントロールパネル」の「電源の管理」に新しい電源設定（「プライベートキー用の設定」）が作成され、「モニタの電源を切る」が「なし」に設定されます。

お願い

「モニタの電源を切る」を「なし」以外に変更すると、スクリーンセーバーを正常に解除できないことがあります。スクリーンセーバー使用時は、必ず「モニタの電源を切る」を「なし」に設定しておいてください。

「キャンセル」をクリックした場合



左ページ下部の画面で「キャンセル」をクリックした場合のみ表示されます。それ以降では表示されません。

元の画面に戻ります。

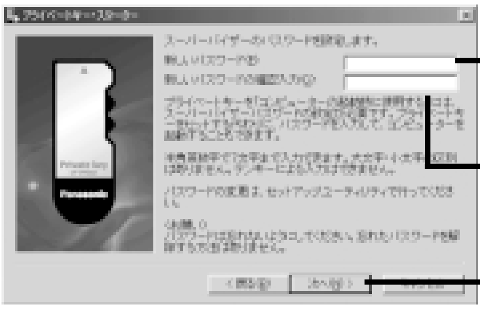
「プライベートキー・スターター」を終了します。

<初期画面（→左ページ下部）で「キャンセル」をクリックした場合のみ>
「プライベートキー・スターター」が自動的に起動しないようにしたい場合は、「今後、プライベートキー・スターターを自動的に起動しない」にチェックマークを付けてから「はい」をクリックしてください。その後、手動で「プライベートキー・スターター」を起動するには、[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[プライベートキー環境設定]をクリックするか、タスクバーのプライベートキーアイコンをダブルクリックしてください。

プライベートキーを使う

<「コンピュータの起動時に使用する」にチェックマークを付けた場合>

4 スーパーバイザーパスワードを設定する。



❶ パスワードを入力して Enter を押す。

❷ 手順❶で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

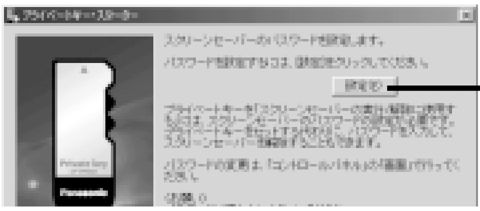
❸ [次へ]を クリック

◀ セットアップユーティリティですでにスーパーバイザーパスワードを設定している場合には表示されません。

◀ スーパーバイザーパスワードとして使用可能な文字は、半角英数字で最大7文字までです。大文字・小文字の区別はありません。テンキーによる入力はできません。
入力したパスワードは「*」で表示されます。

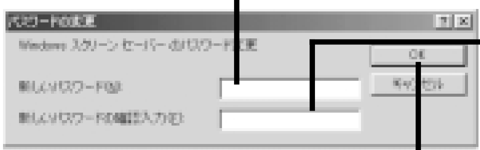
<「スクリーンセーバーの実行/解除に使用する」にチェックマークを付けた場合>

5 スクリーンセーバーパスワードを設定する。



[設定]を クリック

◀「コントロールパネル」の「画面」の「スクリーンセーバー」ですでにパスワードを設定している場合には表示されません。

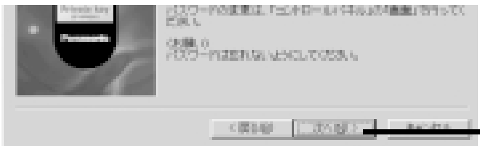


❶ パスワードを入力して Enter を押す。

❷ 手順❶で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

❸ [OK]を クリック

❹ 確認画面で[OK]を クリック



[次へ]を クリック

お願い

パスワードは忘れないようにしてください。スーパーバイザーパスワードを忘れた場合、そのパスワードを変更・解除する方法はありません。スクリーンセーバーパスワードを忘れた場合は、「コントロールパネル」の「画面」で新しく設定しなおすことができます。

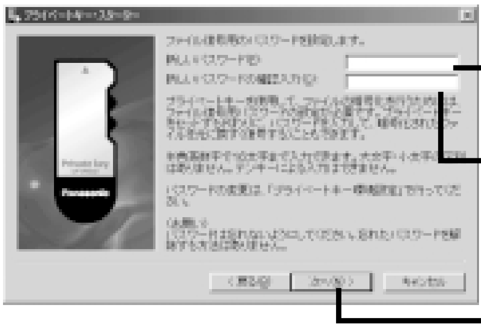
スーパーバイザーパスワードについて

- 「コンピュータの起動時に使用する」機能を使用するには、必ずスーパーバイザーパスワードを設定しておく必要があります。
- プライベートキーが手元にないときには、スーパーバイザーパスワードを入力してコンピューターを起動することもできます。
- 上記で設定したパスワードを変更したい場合は、セットアップユーティリティで行ってください。（→127ページ）

スクリーンセーバーパスワードについて

- 「スクリーンセーバーの実行／解除に使用する」機能を使用するには、必ずスクリーンセーバーパスワードを設定しておく必要があります。
- プライベートキーが手元にないときには、このパスワードを入力してスクリーンセーバーを解除することもできます。
- 上記で設定したパスワードを変更したい場合は、「コントロールパネル」の「画面」の「スクリーンセーバー」で行ってください。

6 ファイル復号用パスワードを設定する。



❶ パスワードを入力して Enter を押す。

❷ 手順❶で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

❸ [次へ]を クリック

◀ ファイルの暗号化と復号→43ページ

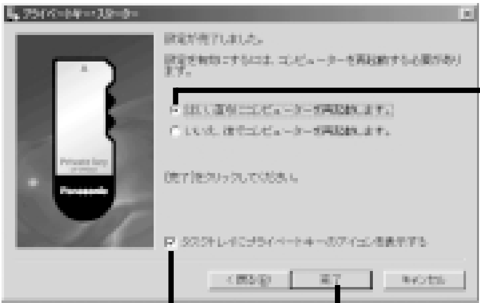
◀ パスワードとして使用可能な文字は、半角英数字で最大16文字までです。大文字・小文字の区別はありません。テンキーによる入力はできません。
入力したパスワードは「*」で表示されます。

◀ パスワードに何も入力しなかった場合、ファイル復号用パスワードは設定されず、ファイルの暗号化機能も使用できません。（→下記）

お願い

パスワードは忘れないようにしてください。ファイルの復号用パスワードを忘れた場合、そのパスワードを変更・解除する方法はありません。

7 コンピューターを再起動する。



❶ [はい...]を クリック

❷ [完了]を クリック

タスクトレイにプライベートキーの使用状況などを示すアイコンを表示したい場合は、ここにチェックマークを付けてください。
（タスクバーのプライベートキーアイコンから「プライベートキー環境設定」を起動することもできます。→44ページ）

◀ コンピューターの再起動後、プライベートキーの初期設定が有効になります。左記の画面で「いいえ...」を選んだ場合は、必ず、後で再起動を行ってください。

◀ 下記のような画面が表示される場合もあります。その場合は再起動をしなくても設定が有効になります。
[完了]をクリックしてください。



ファイル復号用パスワードについて

- プライベートキーを使用して、ファイルの暗号化を行うためには、専用のパスワード（ファイル復号用パスワード）を設定しておく必要があります。
- プライベートキーが手元にないときに、このパスワードを使用して暗号化されたファイルを元に戻す（ファイルを復号する）こともできます。（→43ページ）
- パスワードを後で設定（変更）する場合は、[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[プライベートキー環境設定]をクリックするか、タスクバーのプライベートキーアイコン をダブルクリックして設定してください。（→44ページ）

プライベートキーを使う

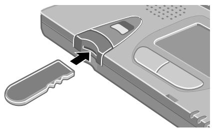
プライベートキーには3通りの使いかたがあります。
ここではプライベートキーのそれぞれの使いかたについて、説明します。
・コンピューターの起動時に使用する。
・スクリーンセーバーの実行や解除に使用する。
・ファイルを暗号化する。また、そのファイルを元に戻す。（→次ページ）

◀ 各機能を使用するには、「プライベートキー・スターター」で初期設定をしておく必要があります。（→38～41ページ）
また、他のコンピューターに付属のプライベートキーや複製を行っていない別売りのプライベートキーは使用できません。

コンピューターの起動時に使用する

操作を終了してコンピューターの電源を切った後、プライベートキーを取り外しておくと、プライベートキーを持っている人かスーパーバイザーパスワードを知っている人以外は、コンピューターを起動できなくなります。
コンピューター起動時、プライベートキーがセットされていない場合は、パスワード入力アイコン が表示されます。

1 プライベートキーをセットする。（→38ページ）



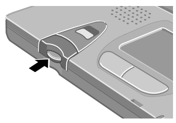
または、スーパーバイザーパスワードを入力する。

コンピューターが起動し、Windowsの画面が表示されます。

◀プライベートキーが正しくない場合（→右ページ下段）

スクリーンセーバーの実行や解除に使用する

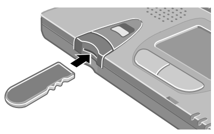
1 プライベートキーを取り出す。（→38ページ）



スクリーンセーバーが実行されます。

◀「コントロールパネル」の「画面」の「スクリーンセーバー」で設定されている時間（工場出荷時は14分）、コンピューターを使用せずに放置すると、プライベートキーをセットした状態でも、スクリーンセーバーが実行されます。その場合は、プライベートキーをいったん抜いてから再度セットすると解除されます。ただし、Windowsのログイン前にスクリーンセーバーが実行された場合は、プライベートキーの抜き差しでは解除できません。キーやスマートポインターを操作し、スクリーンセーバーパスワードを入力してください。

2 プライベートキーをセットする。（→38ページ）



スクリーンセーバーが解除されます。

◀スクリーンセーバーが実行されているときにキーやスマートポインターなどを操作し、パスワード入力画面が表示された場合は、プライベートキーをセットするか、スクリーンセーバーパスワードを入力してください。

◀プライベートキーが正しくない場合（→右ページ下段）

ファイルの暗号化／復号を行う

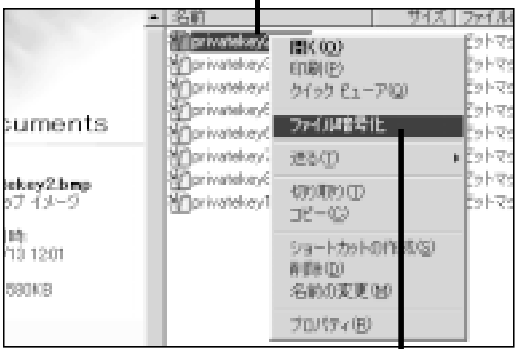
プライベートキーを使って、他人に読まれたくないファイルを読めない形式に変換する（暗号化）ことができます。また、暗号化されたファイルを、元の形式に戻す（復号）ことができます。
以下に暗号化と復号の手順について説明します。

＜ファイルを暗号化する＞

1 プライベートキーをセットする。（→38ページ）

2 ファイルを選んで暗号化する。

❶ エクスプローラなどから、暗号化したいファイルを選んでポインターをあわせて、右ボタンを クリック



❷ [ファイル暗号化]を クリック

◀ 以下の場合、ファイルの暗号化はできません。
・正しいプライベートキーがセットされていない場合
・ファイルの復号用パスワードが設定されていない場合（→41ページ）

◀ フォルダー単位で、フォルダー以下のファイルを一度に暗号化することはできません。

◀「C:\」や「C:\windows」など特定のフォルダー直下のファイルには、暗号化できないものがあります。

◀ 暗号化されたファイルは同じフォルダー内に「.CRYPT」という拡張子を追加した状態で保存され、元のファイルは削除されます。
また、暗号化されたファイルはウィルスチェックプログラムの検索保証外となります。（ウィルスそのものも暗号化されて検出できなかったり、正しいソフトウェアがウィルスと判断されたりすることがあります。）

◀ 暗号化されたファイルを編集することはできません。（読み取り専用です。）

◀ 暗号化したいファイルをデスクトップ上の「ファイル暗号化」アイコンにドラッグ＆ドロップしても、ファイルを暗号化することができます。
ファイル暗号化アイコン 

プライベートキーが正しくない場合

＜コンピューターの起動について＞

正しくないプライベートキーをセットした場合、アイコンが約3秒間表示された後、電源が切れます。
コンピューターを起動し直した後、正しいプライベートキーをセットするか、スーパーバイザーパスワードを入力してください。

＜スクリーンセーバーの実行／解除について＞

正しくないプライベートキーが挿入されている場合、そのキーを抜いてもスクリーンセーバーは実行されません。
スクリーンセーバーが実行されている場合、正しくないプライベートキーをセットしてもスクリーンセーバーは解除されません。パスワード入力画面が表示されますので、正しいプライベートキーをセットし直すか、スクリーンセーバーパスワードを入力してください。

使いかた

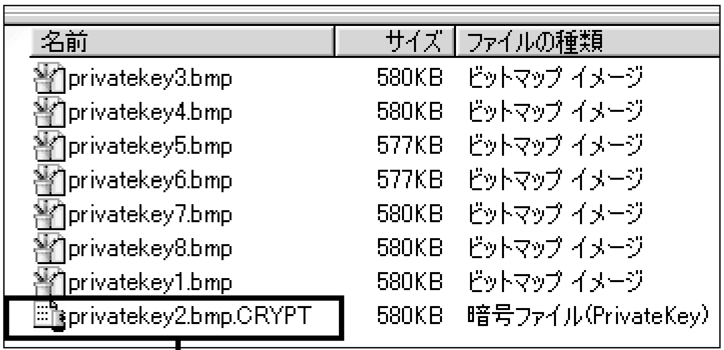
プライバシー保護

プライベートキーを使う

＜ファイルを復号する＞

1 プライベートキーをセットする。（→38ページ）

2 暗号化したファイルを元に戻す（復号する）。



名前	サイズ	ファイルの種類
privatekey3.bmp	580KB	ビットマップ イメージ
privatekey4.bmp	580KB	ビットマップ イメージ
privatekey5.bmp	577KB	ビットマップ イメージ
privatekey6.bmp	577KB	ビットマップ イメージ
privatekey7.bmp	580KB	ビットマップ イメージ
privatekey8.bmp	580KB	ビットマップ イメージ
privatekey1.bmp	580KB	ビットマップ イメージ
privatekey2.bmp.CRYPT	580KB	暗号ファイル(PrivateKey)

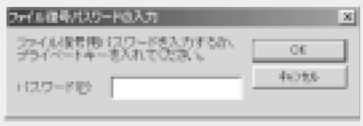
エクスプローラなどから復号したいファイルを **ダブルクリック**

ファイルを復号した後、関連付けられているアプリケーションソフトが起動され、復号されたファイルが開きます。

お願い

復号は、そのファイルを暗号化したコンピューター上で行ってください。違うコンピューター上では復号できません。

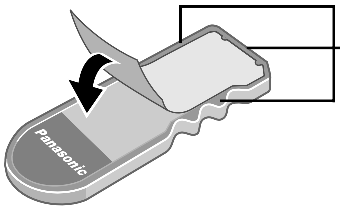
◀ プライベートキーがセットされていない場合、復号用パスワードの入力画面が表示されます。41ページで設定したファイル復号用パスワードを入力してください。



◀ 復号したいファイルにポインターをあわせて右ボタンをクリックして、表示されたメニューから「暗号ファイルを復号」をクリックしても、そのファイルを復号することができます。ただし、その際は、関連付けられているアプリケーションソフトは起動されません。

プライベートキーにラベルを貼る

付属のキーラベルの中からお好みのラベルを貼って、他のキーと区別することができます。



外枠部分にかからないように貼る。

お願い

- ラベルに文字を書く場合は、貼る前に書いてください。
- ラベルを重ねて貼らないでください。

プライベートキーの設定を変更する

プライベートキーの環境設定

環境設定では、以下の設定を行うことができます。

- プライベートキーによるスクリーンセーバーの実行と解除機能の有効/無効を切り換える。
- タスクバーにプライベートキーアイコンを表示するかどうかを設定する。
- ファイル復号用パスワードを変更する。または、はじめて設定する。
- 別売りのプライベートキーを購入した場合に、そのキーに情報を複製する。

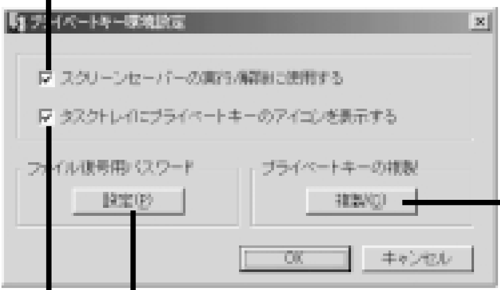
1 プライベートキーをセットする。（→38ページ）

2 「環境設定」プログラムを起動する。

[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[プライベートキー環境設定]を クリック

3 各種設定をする。

プライベートキーによるスクリーンセーバーの実行／解除を行いたい場合にはチェックマークを付けてください。チェックマークを外すとその機能は働かなくなります。



→右記

ファイルの暗号化や復号に必要なパスワードを設定します。（→43ページ）

タスクバーにプライベートキーの使用状況などを示すアイコンを表示したい場合は、ここにチェックマークを付けてください。

◀ プライベートキーが設定されていない場合は、「プライベートキー環境設定」を起動することができません。

◀ タスクバーのプライベートキーアイコン をダブルクリックしても起動することができます。

プライベートキーの複製

別売りのプライベートキーを購入した場合（→154ページ）、そのキーをコンピューターで使用できるようにするために、必要な情報を複製します。[複製]をクリックした後、画面の指示に従って操作してください。

一時的に、プライベートキーの機能を無効にしたい場合

＜「コンピュータの起動時に使用する」機能を無効にする＞

セットアップユーティリティの「セキュリティ」で「キーによる起動」を「禁止」に設定してください。有効に戻したい場合は「許可」に設定しなおしてください。

＜「スクリーンセーバーの実行／解除に使用する」機能を無効にする＞

「プライベートキー環境設定」の「スクリーンセーバーの実行/解除に使用する」のチェックマークを外してください。有効に戻したい場合はチェックマークを付けてください。

初期設定で設定しなかったプライベートキーの機能を、後から設定する場合

＜「コンピュータの起動時に使用する」機能を設定する＞

セットアップユーティリティの「セキュリティ」で以下の設定をしてください。（→127ページ）

- 「起動時のパスワード」を「使用する」に設定する。
- 「キーによる起動」を「許可」に設定する。
- スーパーバイザーパスワードを設定する。

＜「スクリーンセーバーの実行／解除に使用する」機能を設定する＞

①「コントロールパネル」の「画面」で以下の設定をする。
- 「スクリーンセーバー」を「なし」以外に設定する。
- 「パスワードによる保護」にチェックマークを付けて、「変更」でスクリーンセーバーパスワードを設定する。

②「コントロールパネル」の「電源の管理」で「モニタの電源を切る」を「なし」に設定する。「なし」以外に設定すると、スクリーンセーバーを正常に解除できないことがあります。

③「プライベートキー環境設定」の「スクリーンセーバーの実行/解除に使用する」にチェックマークを付ける。

通信を行う前に

インターネットに接続したり、電子メールの送受信を行ったりするためには、まず、通信環境を整える必要があります。
以下に通信を行うための操作の流れについて説明します。

通信機器を準備する（接続・設置） →次ページ

まず、通信機器を電話回線に接続する、適当な場所に設置するなどの準備を行います。「内蔵モデムを使う場合」と「携帯電話やPHS電話を使う場合」の二通りについて説明します。

↓

プロバイダーに加入し、通信の設定をする →53ページ

インターネットを行うためには、いずれかのプロバイダー（接続サービスを行う会社）に加入する必要があります。
「インターネットスターター」を使用する（Panasonic PCオンラインメンバー登録時に「Hi-HOに加入する」を選んだ場合を含む）と、プロバイダーHi-HOにフリーダイヤルでダイヤルアップ接続し、オンライン上で加入手続きを行うことができます。
また、手続き終了後、自動的にインターネットへの接続設定やメールアカウントの設定が行われます。
複雑な通信設定を自分で行う必要がないのでとても便利です。

↓

通信を行う

インターネットに接続したり、電子メールを送受信したりすることができます。

◀Hi-HO以外のプロバイダーに加入される場合は、各プロバイダーにお問い合わせのうえ、加入手続きを行ってください。また、加入後の通信設定も各プロバイダーの指示に従って行ってください。

◀複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたりする場合は、新たに接続先の設定を行ってください。→58ページ

用語

アクセスポイント　：プロバイダーへの接続ポイントです。あなたの使用場所に一番近いところを選びます。

通信機器を準備する

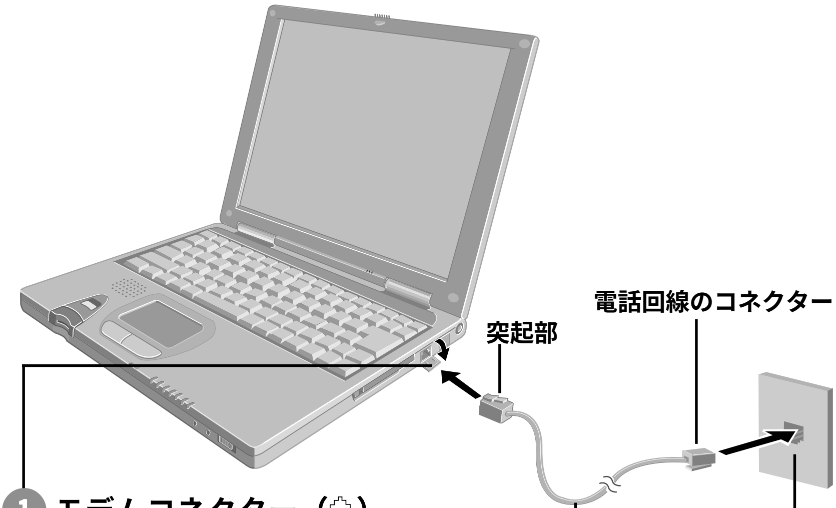
ここでは、次の2通りの場合について説明します。
＜内蔵モデムを使う場合＞
　内蔵されているモデムと電話コンセントを接続して通信を行います。
＜携帯電話やPHS電話を使う場合＞→50ページ
　専用のケーブル（別売り）にお手持ちの携帯電話やPHS電話をつなげば、外出先でも通信ができます。

◀「インターネットスターター」を使って自動的に通信設定を行うためには、内蔵モデムまたはターミナルアダプター*をご使用ください。携帯電話やPHS電話からでは、「インターネットスターター」は使用できません。
*接続や設定のしかたについてはターミナルアダプターの説明書をご覧ください。

内蔵モデムを使う場合

電話回線に接続する

1 内蔵モデムと電話コンセントを接続する。



❶ モデムコネクター（☐）のカバーを開ける。

❷ 付属のモジュラーケーブルでコンピューターと電話コンセントをつなぐ。
突起部をコネクター（☐）の向きに合わせて、カチッと音がするまで差し込んでください。

お願い
右側のLANコネクター（品）に接続しないでください。

◀取り外すときは、突起部を押さえながら引き抜いてください。

◀日本国内の一般電話回線で使用してください。また、電話コンセントの形状によっては工事が必要な場合があります。
→次ページ

⚠注意

モデムは日本国内の一般電話回線で使用する

❗ 会社、事務所等の内線電話回線（構内交換機）やデジタル公衆電話のデジタル側コンセントに接続したり、海外で使用したりすると、火災・感電の原因になることがあります。

通信機器を準備する

使用する電話回線について

モデムは、日本国内の一般電話回線で使用してください。

・会社、事務所等の内線電話回線等には、接続しないでください。
（→前ページの警告表示）

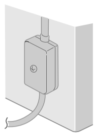
・以下の特性が異なる回線に接続すると、本機が故障する恐れがあります。

NTTのピンク電話の回線
ホームテレホン（接続ボックス）
玄関ドアホン等
日本国外の回線

電話コンセントの種類

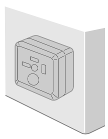
電話コンセントの種類は、モジュラージャック、ローゼット、3端子（または4端子）ジャックなどがあります。電話回線とのつなぎかたは、端子の種類によって異なります。モジュラージャックの場合、付属のモジュラーケーブルをそのままつなぎます。

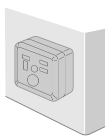
＜ローゼットの場合＞



最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。

＜３端子（または４端子）ジャックの場合＞

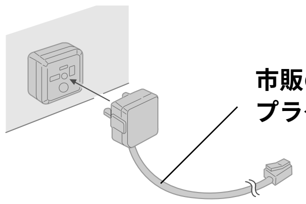




以下の2とおりの方法があります。

・最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。

・一方がモジュラープラグで、他方が3端子（または4端子）プラグのケーブル（市販品）を用意し、以下のようにつなぎます。



本機のご使用にあたって、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTTへご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。詳しくは、局番なしの116番（無料）へお問い合わせください。

まいと～く FAX 2001 Liteについて

本機には、まいと～く FAX 2001 Liteがインストールされています。まいと～く機能を使うと、コンピューター上でファクスの送受信を行うことができます。受信したファクスは印刷したり、そのまま他の人へ送信したりすることができます。詳しくは、付属の別紙『まいと～く FAX 2001 Liteのご案内』をご覧ください。

「インテル®WebOutfitter SMサービスのお申し込みへ！」について（CF-M2Rのみ）

画面上のをクリックすると、無料でインテル® WebOutfitter SMサービスに申し込むことができます。インテル® WebOutfitter SMサービスは、Pentium® IIIプロセッサーのユーザーのみのサービスで、Webサイトへのリンクや Pentium® IIIプロセッサーをさらに活用するための特典などがたくさん用意されています。
お申し込みはインターネットから行ってください。（→62ページ「インターネットに接続する」）プロバイダー（接続サービス会社）への接続料金と電話料金が必要になります。
詳しくは、http://www.intel.co.jpをご覧ください。

内蔵モデムによるリジューム機能（内蔵モデムリングリジューム機能）

スタンバイ状態のときに内蔵モデムの回線に電話がかかると、コンピューターの電源が自動的に入る機能のことです。
不在時のファクス自動受信などを活用する際に便利です。
この機能を使用する場合は、「まいと〜く FAX 2001 Lite」など電話の待ち受け状態を保持できるソフトウェアを起動し、設定しておく必要があります。詳しくは、お使いのソフトウェアに付属の説明書をご覧ください。

＜使用時のお願い＞

- スタンバイ状態からリジュームした場合、画面には何も表示されません。キーボードまたはスマートポインターを操作すると元の画面が表示されます。→37ページ
- 休止状態からはリジュームできません。
- シリアルモデムやPCカードモデムのリングリジュームは動作しません。
- 「電源の管理」の「システムスタンバイ」の設定について
 「システムスタンバイ」は、おおよその通信時間を考慮して設定してください。
 通信中でも設定時間になるとスタンバイ状態に入り、通信が中断される場合があります。
 「なし」に設定しておくと、通信の途中でスタンバイ状態に入ることはありませんが、いったんリジュームした後、長期不在にもかかわらず 電源が入ったままになります。
- 内蔵モデムリングリジューム機能を使用している場合、電話がつながるまで時間がかかります（リジュームで起動する時間相当）。リジュームを行うには通常の電話呼び出しよりも長く呼び出しを行ってください。
 送信側の呼び出しを長く設定できない場合は、電話の待ち受け状態を保存できるソフトウェアで着信までのベル回数を少なく設定してください。
 「まいと〜く FAX 2001 Lite」で設定する場合
 メニューボタンをクリックし、[FAXのプロパティ]→[FAX受信]をクリックして[着信までのベル回数]を設定してください。（工場出荷時は3回に設定されています。）
- 内蔵モデムリングリジューム機能を使用する場合、[コントロールパネル]→[電源の管理]→[詳細]の「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックマークを付けないでください。

通信機器を準備する

携帯電話やPHS電話を使う場合

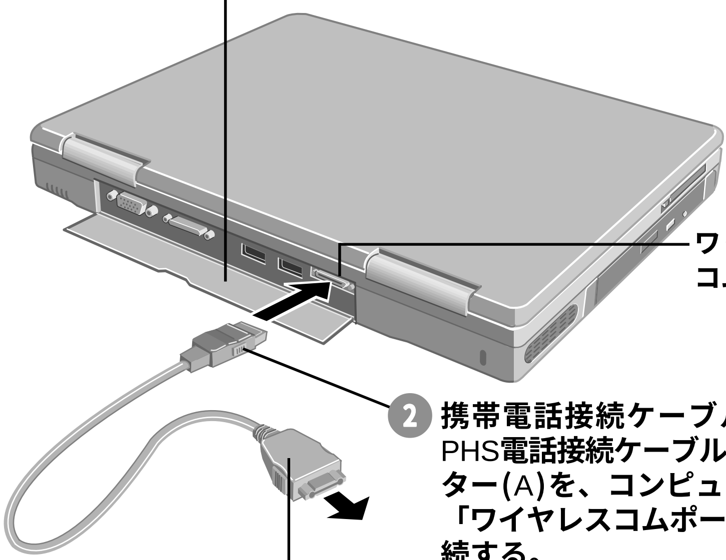
別売りの専用ケーブルでコンピューターと携帯電話またはPHS電話を接続すると、外出先などでも通信を行うことができます。また、メールの自動送受信機能を利用することができます。（→84ページ）

接続のしかた

1 操作を終了し、コンピューター本体の電源を切る。

2 専用ケーブルでコンピューターと携帯電話またはPHS電話を接続する。

❶ カバーを開ける。



❷ 携帯電話接続ケーブルまたはPHS電話接続ケーブルのコネクター(A)を、コンピューターの「ワイヤレスコムポート」に接続する。

❸ 携帯電話接続ケーブルのコネクター(B)、またはPHS電話接続ケーブルのコネクター(C)または(D)を、電話の「外部接続端子」に接続する。

◀別売りの専用ケーブル：
携帯電話接続ケーブル
PHS電話接続ケーブル
詳細は、155ページをご覧ください。利用できる電話機や機能については、156ページをご覧ください。

お願い

PHS電話接続ケーブル（DDIポケット用）に付属しているフロッピーディスクのドライバーを使用しないでください。
コンピューター本体にはPIAFS 32K、PIAFS 64K、無線モデム、無線インターネットなどに対応したドライバーがすでに入っています。

◀接続のしかた／取り外しかたのイラストは、携帯電話接続ケーブルを使用する場合を例にしています。

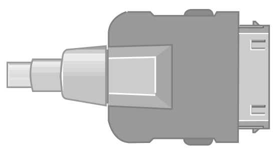
コンピューターの「ワイヤレスコムポート」への接続
ネジが付いている面を下にして、カチッと音がするまで、まっすぐに接続してください。

電話の「外部接続端子」への接続
携帯電話やPHS電話の説明書もご覧のうえ、向きに注意してまっすぐに接続してください。決して無理には押し込まないでください。少しでも抵抗があるときは向きを変えて接続してみてください。

・ケーブルに引っかかるなど、無理な力がかかったときに、コンピューター側のコネクターは外れる構造になっています。無理な力がかかって外れた場合は、ロック機能が弱くなるなど、故障の原因となりますので注意してください。

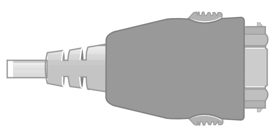
専用ケーブルのコネクターの種類

コネクター（A）
<コンピューターへ>



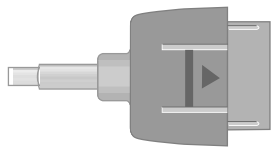
携帯電話接続ケーブル
PHS電話接続ケーブル

コネクター（B）
<携帯電話へ>



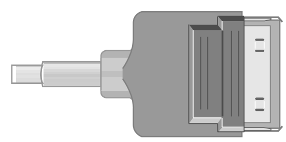
携帯電話接続ケーブル

コネクター（C）
<PHS電話へ>



PHS電話接続ケーブル
（NTTドコモ・アステルに対応）

コネクター（D）
<PHS電話へ>



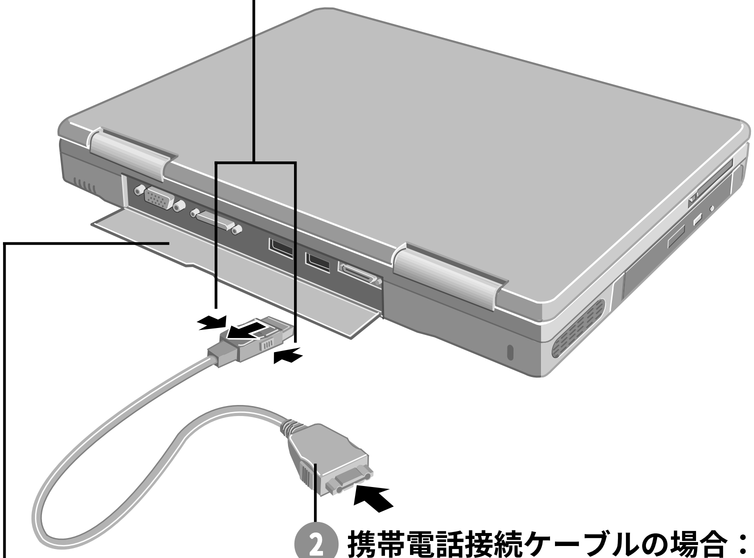
PHS電話接続ケーブル
（DDIポケットに対応）

取り外しかた

通信が終了したらケーブルを取り外しておいてください。

1 操作を終了し、コンピューター本体の電源を切る。

2 専用ケーブルを取り外す。



① コネクター(A)の両サイドのロックボタンを押しながら、まっすぐに引き抜く。

② 携帯電話接続ケーブルの場合：
コネクター(B)の両サイドのロックボタンを押しながら、まっすぐに引き抜く。
PHS電話接続ケーブルの場合：
コネクター(C)では上面の△マーク部分、コネクター(D)では「PUSH」部分を押しながら、まっすぐに引き抜く。

③ カバーを閉じる。

◀ コネクターA～Dについては、前ページをご覧ください。

お願い

無理に引き抜こうとしないでください。故障の原因になります。

専用ケーブルの取り扱い上のお願い

- コネクター部には、強い力をかけないでください。故障の原因になります。
  持ち運ぶ際には必ずケーブルを取り外し、コネクター部に強い力をかけないようご注意ください。
- 端子部分には触れないでください。接触が悪くなったり、故障の原因になります。
- 通信中は磁石などを近づけないでください。磁石などを近づけると、正常に通信できないことがあります。

通信機器を準備する

接続した電話機の電波状況モニターについて

・電波状況モニターのアイコン
電波の状況に応じて、下記のいずれかのアイコンがタスクバーに表示されます。



アイコンをダブルクリックすると、さらに細かな指標が表示されます。（数値は目安です。）

・お使いの電話機の種類によっては、電波状況モニターが正しく動作しないことがあります。（電波状況が表示されない、また接続できているのに未接続と表示されるなど）

メールの自動送受信機能（→84ページ）を使う場合

携帯電話やPHS電話をコンピューターのワイヤレスコムポートに接続すると、メールを自動的に送受信するよう設定することができます。

<メールの自動送受信機能を有効にするには>

①タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをクリックする。
（アイコンが表示されていない場合は、[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックラウンチャー]をクリックしてください。）

②プルダウンメニューから「携帯電話/PHS接続でメールの自動送受信を行わない」を選んでチェックマークを外す。

・メールの自動送受信機能を有効にしていて、メール自動送受信のためのアクセスポイント設定を行っていない場合、携帯電話やPHS電話を接続すると、「アクセスポイントの設定が行われていません...」というメッセージが表示されます。
また、ダイヤルアップの設定を行っていない場合は、設定を行うかどうかのメッセージが表示されます。
プロバイダーへ加入してからでないと、どちらも設定することができません。その場合は、[キャンセル]をクリックしてください。

プロバイダーへの加入→53ページ
ダイヤルアップ接続の設定→58ページ
アクセスポイントの設定→84ページ

PHS電話でファクス送信する（まいと～く FAX 2001 Liteを使う→付属別紙）場合

・アプリケーション側でモデムの設定をする場合は、PHS電話接続ケーブルを取り外した状態で行ってください。

・PHS電話*を使ってファクス送信するには、PTE接続サービスを利用する必要があります。PTE接続サービスについては本書156ページまたはオンラインマニュアルの「ワイヤレスコムポートコマンド一覧」（→132ページ）をご覧ください。
*「まいと～くFAX 2001 Lite」は、NTTドコモのPHS電話にのみ対応しています。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする(初回のみ)

インターネットに接続するにはプロバイダー（接続サービス会社）に加入する必要があります。
「インターネットスターター」を使うと、プロバイダーHi-HO（以後、Hi-HO）への加入手続きが画面上で簡単にできます。また、手続き終了後、インターネット接続やメールの送受信のための複雑な設定が自動的に行われるので、すぐにインターネットが使えて便利です。
ここでは「インターネットスターター」を使ってHi-HOに加入する方法について説明します。

お願い

Hi-HOに加入される場合は必ず、「インターネットスターター」をご利用ください。Hi-HO以外のプロバイダーに加入する場合は、デスクトップの「インターネットに接続」を使用してください。
「インターネットスターター」を使用せずにHi-HOに加入された場合は、付属別紙（Hi-HOのご案内）に記載されている「特典」の対象外となります。

準備するもの

Hi-HOに電話をかけるために電話回線と接続します。（→47ページ）
入会の前に、あらかじめ次の準備をしておきましょう。

<申し込みコースを決める>
「Hi-HOのご案内」のパンフレット（付属）を見て決めておきます。

<ご本人名義のクレジットカードを準備する>
加入操作時、カードの会員番号や有効期限を入力する必要があります。

Hi-HOで利用できるクレジットカード
JCB・VISA・MASTER・DC・UC・ミリオン・NICOS・AMEX・ダイナース・Panaカード・松下カード（2000年5月現在）

<希望するメールアカウントを決める>
電子メールをやり取りするときに必要な「メールアカウント」（利用者を示す名称）の希望を決めておきます。
（「松下太郎」さんのメールアカウントの例）

matsushita_taro
matsushita
m-taro
taro_chan

◀希望のメールアカウントが、すでに誰かに割り当てられている場合、そのメールアカウントは登録できません。

メールアカウントとして使用可能な文字
英小文字・数字・ハイフン（-）・アンダーバー（_）
（半角文字のみ使用可能・ハイフンとアンダーバーは合計２つまで使用可能）
4文字以上、16文字以下で決めてください。

◀メールアカウントは、メールアドレスの一部として使用されます。
（例）
matsushita_taro@dab.hi-ho.ne.jp

「インターネットスターター」による加入、設定について

- Hi-HOにフリーダイヤルで接続するため、加入手続き中の電話料金はかかりません。
- 加入・設定時、携帯電話やPHS電話は使用できません。
- ホームページ閲覧ソフトとして「Internet Explorer 5.0」*、メールソフトとして「Outlook Express 5」*を使用することを前提として、自動的に通信設定を行います。その他のソフトウェアをご使用になる場合は、別途、通信設定を行ってください。
  *工場出荷時、インストール済みです。
- [コントロールパネル]→[パスワード]でWindows起動時のパスワードを設定している場合は、必ずWindows起動時にパスワードを入力しておいてください。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする（初回のみ）

Hi-HOに加入し、通信の設定をする

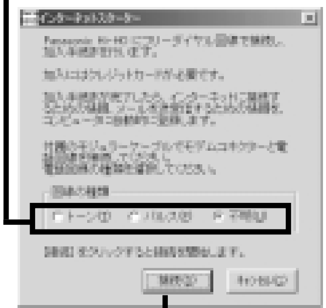
設定が終わるまでに、約15〜20分かかります。
下記手順に従って、続けて操作してください。

1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。



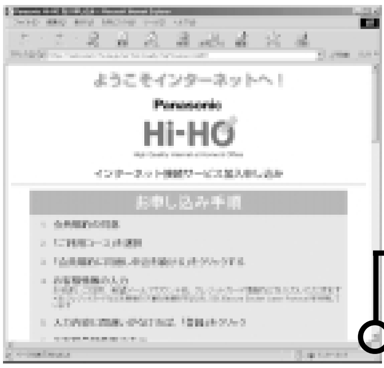
[加入]を クリック

❶ 使用する電話回線の種類を クリック



❷ [接続]を クリック

Hi-HOへ自動ダイヤルし、回線に接続します。



▼ をクリックし、お申し込み手順などを、よく読む。

（次ページへ続く）

お願い

[コントロールパネル]→[パスワード]でWindows起動時のパスワードを設定している場合は、必ずWindows起動時にパスワードを入力しておいてください。

◀「Panasonic PC オンラインメンバー登録」から加入操作を行った場合、左記の画面が表示されます。

◀ターミナルアダプターのドライバーをインストールした場合などは、左記画面にモデムの選択項目が追加されます。その場合は、使用するモデムを選んでください。
「Panasonic Internal Softmodem」
内蔵モデム用
ターミナルアダプターについて詳しくは、各説明書をご覧ください。

電話回線の種類について
- トーン：ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線。
- パルス：ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線。
- 不明　：トーンかパルスかが不明な場合に選んでください。まず、トーンで接続を開始し、つながらなければ、パルスで接続し直すかどうかの確認メッセージが表示されます。

◀このとき、[終了]をクリックすると、接続を切断し、「インターネットスターター」が終了します。

回線がつながらないときは

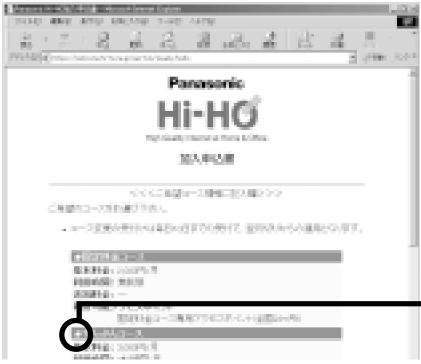
- 話し中の場合（回線が混雑しているとき）は、モジュラーケーブルの接続などを確認し、少し待ってから「インターネットスターター」の操作をし直してください。
- 電話回線の種類や使用するモデムの設定が正しいか確認してください。



❶ ▼をクリックし、会員規約を、よく読む。

❷ [会員規約に同意し…]を クリック

2 コースを選ぶ。



加入したいコースを選び、○を クリック



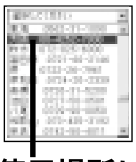
[次へ]を クリック

3 「加入申込書」に必要事項を入力する。

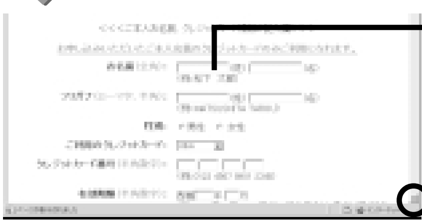
各欄の入力例や説明をよく読んで入力してください。



❶ ▼を クリック



❷ 使用場所に一番近いアクセスポイントを クリック



❶ Tab を押すとカーソルが表示されるので、入力する。

❷ ▼をクリックし、最後まで入力する。

お願い

- 加入申込書には「ご自宅ファックス」、「お勤め先・学校名」、「お勤め先電話番号」以外は必ずご記入ください。「ご自宅住所」には、ビル名や部屋番号など郵便物が届くのに必要な情報をきちんと入力してください。きちんと入力していないと、Hi-HOから資料などを郵送できないことがあります。
- Hi-HO加入申し込み画面の内容は、本書の説明と異なる場合があります。その場合は、画面の指示に従って操作してください。

全角と半角（ローマ字・数字）

各項目とも、指定の通りに入力してください。Alt + 半角/全角 を押すごとに全角入力モードと半角入力モードが切り換わります。

項目間のカーソル（エ）移動

Tab を押す：次の項目へ

Shift + Tab を押す：前の項目へ

「性別」

該当する方の○をクリックし、◉にします。

数字を入力する項目

「生年月日」やクレジットカードの「有効期限」など、１桁の数字を入力する場合、「03」のように数字の前に0を付けてください。

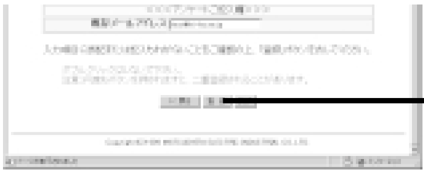
入力を間違えたら

間違えた文字の右側をクリックすると、カーソルが表示されます。Back space を押すと、カーソルの左となりの文字を消すことができます。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする（初回のみ）



[次へ]を クリック



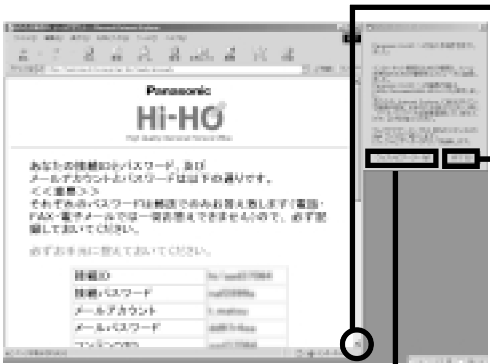
入力内容をよく確認し、
[登録]を クリック

加入手続きが終わると、Hi-HOに登録された情報が表示され、その情報がコンピューターに自動で設定されます。

お願い

[登録]ボタンは、2回クリックしないでください。2重に登録されることがあります。

4 登録内容をメモに取る。（→下記）



▼ をクリックし、最後まで内容を確認し、メモを取る。

<操作を終わるとき>
[終了]を クリック

<ウェブナビゲーターを操作するとき>
[ウェブナビゲーター]を クリック
68ページへ進んでください。
（フリーダイヤルによる接続は、上記の画面までです。ウェブナビゲーターでインターネットに接続する場合は、料金が発生します。）

お願い

- 接続ID、パスワード、メールアカウントなどは忘れないように必ずメモを取って残しておいてください。
- メールアカウントが使えるようになるまで約2時間かかります。

◀「ウェブナビゲーター」では、幅広いジャンルのホームページを一覧表示してご紹介します。

必ずメモしておいてください

接続ID、パスワード、メールアカウントなどの登録内容は必ず、取扱説明書『セットアップ編』の裏表紙の前ページにメモしておいてください。
メールパスワードは、電子メール操作時に入力する必要があります（→78ページ）ので特に気をつけてメモしてください。（その他の登録情報は、インターネットスターターが自動でコンピューターに設定してくれます。）
また、この情報は、「マイドキュメント」フォルダーに「hi-ho.txt」というファイル名で保存されています。このファイルを開いて、参照することもできます。（→『セットアップ編』「文書の呼出（ファイルを開く）」）

用語

接続ID：プロバイダーへの接続時に会員を識別するためのものです。
接続パスワード：他人が自分の接続IDを使ってプロバイダーに接続するのを防ぐためのパスワードです。
メールアカウント：電子メールをやり取りするときに、利用者を示します。（→78ページ）
メールパスワード：メールサーバー上の電子メールを他人に無断で読み出されるのを防ぐためのパスワードです。
電子メールアドレス：電子メールの宛先（実際はプロバイダーが設置している「メールサーバー」というコンピューターの中の番地）です。

正式な会員証が届いたら

加入後、約10日後に、正式な会員証や説明書などの書類が郵送されます。
加入時にメモした登録情報と郵送された書類に違いがないか確認してください。
サーバー管理などのため、まれに「接続パスワード」などが、変更されていることがあります。そのような場合は、下記を参照して設定を変更してください。

お願い
郵送された書類は、大切に保管してください。

設定内容を変更するとき

接続パスワードが変更になったときやコンピューターの再インストール後、通信の設定を再度行いたいときには、「インターネットスターター」を使用して再設定することができます。

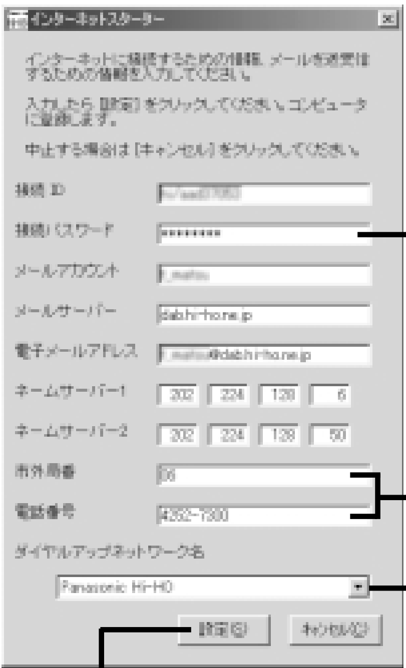
1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。

◀再インストール後（→147ページ）、再設定する場合は、まず「ダイアルアップネットワーク」で新しい接続を作成してから（→次ページ）、左記の操作を行ってください。



[再設定]を クリック

2 設定内容を変更する。



① 変更する項目を クリック し、入力し直す。

セキュリティ保護のため「*」で表示されます。

アクセスポイント電話番号

「インターネットスターター」によって、自動設定されたダイヤルアップネットワーク名

② 内容の変更が終わったら[設定]を クリック
その後、メッセージに従って操作してください。

ダイヤルアップネットワーク名
ダイアルアップネットワークとは、プロバイダーに接続する際のアクセスポイントとアクセスポイントへの接続方法（電話回線の種類、モデムなど）を設定したものです。
「インターネットスターター」では「Panasonic Hi-HO」という名前で自動設定されます。

◀再インストール後の再設定時には、▼をクリックして、新しく作成したダイヤルアップネットワーク名を選んでください。

新しく接続先を設定する

複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたり（家では内蔵モデムを使って通信し、外出先では携帯電話やPHS電話を使って通信するなど）する場合、「ダイヤルアップネットワーク」で新しい接続先を作成します。ここでは、その方法について説明します。

1 [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ダイヤルアップネットワーク]をクリックする。

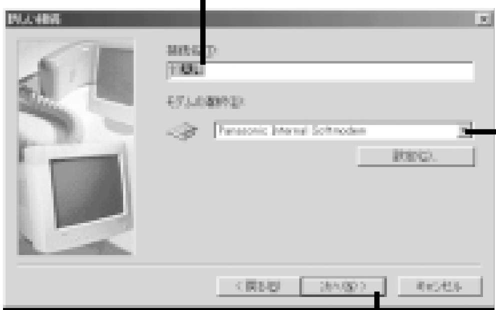
2 新しく接続先を作成する。



ダブルクリック

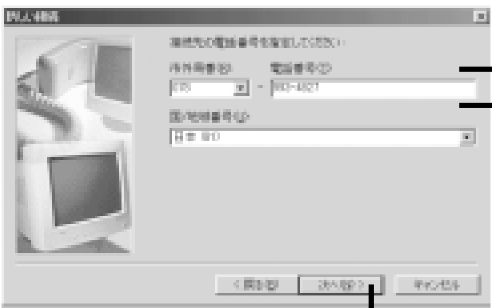
◀初めて「新しい接続」をダブルクリックしたときには、「ダイヤルアップへようこそ」画面が表示されるので、[次へ]をクリックしてください。

❶ 新しく作成する接続先に名称を付ける。



❷ 使用する機器にあったモデムを選択する。

❸ [次へ]を クリック



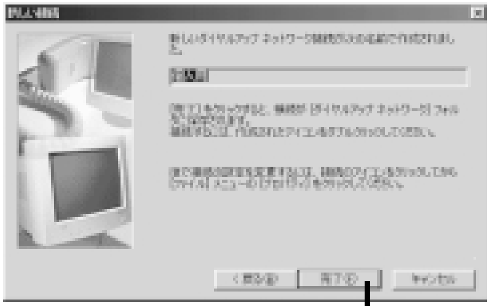
❶ アクセスポイントの電話番号を半角数字で入力する。

❷ [次へ]を クリック

（次ページに続く）

モデムの選択

Panasonic Internal Softmodem：
　内蔵のモデムを使用する場合に選ぶ。
Panasonic Wireless Comm Port
　携帯電話やPHS電話を使ってデータ通信する場合に選ぶ。
　接続先のアクセスポイントの番号にダイヤルパラメーターを追加してください。（→156ページ）

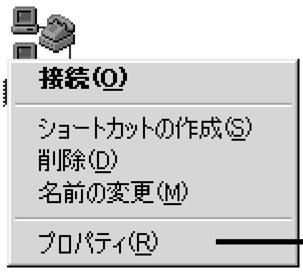


[完了]を クリック

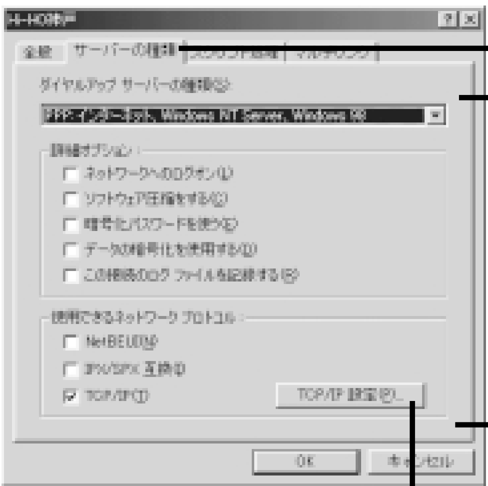
設定した接続名を持つアイコンが追加されます。

3 サーバー情報を設定する。

❶ 新アイコンを右ボタンで クリック



❷ [プロパティ]を クリック



❶ [サーバーの種類]を クリック

❷ プロバイダーからの説明書に従って設定する。

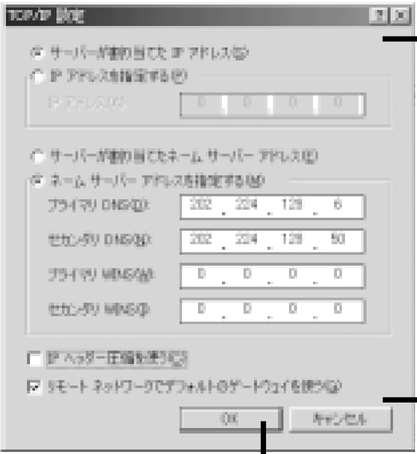
❸ [TCP/IP設定]を クリック

（次ページに続く）

使いかた

コミュニケーション

新しく接続先を設定する



❶ プロバイダーからの説明書に従って設定する。

❷ [OK]を クリック

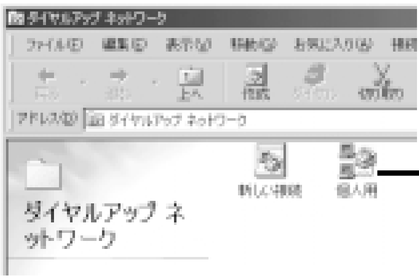


[OK]を クリック

使いかた

コミュニケーション

設定した接続先につなぐとき



ダブルクリック



❶ ユーザー名とパスワードを入力する。

チェックマークを付けると、次回接続時からパスワードを入力する手間が省けます。ただし、パスワードを知らない人でも接続可能になりますので、注意してください。

❷ [ダイヤルのプロパティ]をクリックして、ダイヤル方法を設定する。（→次ページ）

❸ クリック

ダイヤル方法を設定する

発信元の使用環境や使用する通信機器にあわせて、ダイヤル方法（回線の種類）などを設定する必要があります。

1 [コントロールパネル]の[モデム]をダブルクリックする。

2 電話回線の種類を設定する。



「ダイヤルのプロパティ」を クリック



❶ 必要な項目を入力する

❷ [OK]を クリック



[OK]を クリック

お願い

「ダイヤルのプロパティ」の設定は、すべてのモデムに共通です。「ダイヤル方法」が使用環境により異なる場合は、その都度、変更する必要があります。

◀ダイアルアップネットワークの接続アイコンをダブルクリックしても、「ダイアルのプロパティ」の設定をすることができます。

◀「登録名」に入力した名称で、設定内容を保存できます。「ダイアルアップネットワーク」からの接続時、「発信元」としてここで設定した登録名を選択できます。(→前ページ)

◀「国名/地域」では「日本」を選んでください。

◀「市外局番」には使用場所の市外局番を入力してください。
携帯電話やPHSをお使いになる可能性がある場合は、「0」を入力してください。「市外局番」に何も入力しなければ、画面を閉じることができません。

◀「ダイヤル方法」では、回線の種類を正しく選んでください。
- トーン：ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線
- パルス：ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線
- 携帯電話をご使用時は、どちらに設定しても通信できます。
- PHS電話でファクス送信を行う場合などは「パルス」を、それ以外は「トーン」を選んでください。
- ご使用中の電話回線の種類がわからない場合、お近くのNTTにお問い合わせください。

使いかた

コミュニケーション

内蔵モデムの通信時の音量を調節するには

「ボリュームコントロール」画面（タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリック）の「Phone」を使ってください。

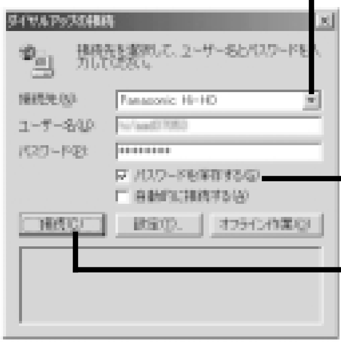
インターネットに接続する

通信機器を接続し、プロバイダーへの加入と通信の設定（→47〜57ページ）が終わったら、「Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）」を使ってインターネットに接続してみましょう。

◀「Internet Explorer」は、ホームページを見るためのソフトウェア（ブラウザー）の一つです。
◀LAN 経由の場合→ 95 ページ
設定についてはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

「Internet Explorer」を起動する

1 デスクトップの[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックする。

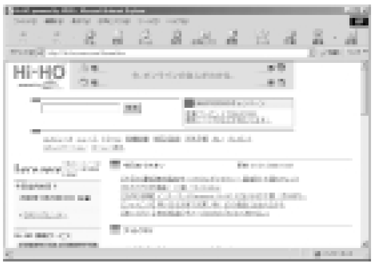


① ▼をクリックして、接続先を選ぶ。

チェックマークを付けると、次回接続時からパスワードを入力する手間が省けます。ただし、パスワードを知らない人でも接続可能になりますので、注意してください。

② [接続]を クリック

プロバイダーへの接続が始まります。接続が終わると、Internet Explorerで、最初に表示するページとして設定されているホームページが表示されます。



◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティ保護のため「*」で表示されます。
（ダイヤルアップ接続の作成方法→58ページ）
◀左記は、「インターネットスタータ ー」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

メールの自動送受信機能を使用してメールを送受信したい場合
必ず「パスワードを保存する」にチェックマークを付けておいてください。

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

「Internet Explorer」を終了する

次のようにして、確実に接続を切断します。



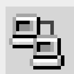
① [ファイル]を クリック

② [閉じる]を クリック



「今すぐ切断する」を クリック

◀接続終了の確認
接続を終了すると、画面右下のタスクトレイにある次のアイコンの表示が消えます。



（接続時）

◀ウィンドウ右上の☒をクリックしても、「Internet Explorer」を終了することができます。

◀この画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

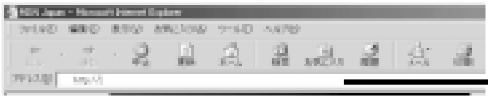
雑誌で見つけたホームページを見る

雑誌やカタログなどで目にする「http://」というURL（ホームページの番地）を入力すると、見たいページを表示することができます。ここでは、Hi-HOのホームページを表示します。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→前ページ）

2 URLを入力する。

◀Hi-HOのURLは、「http://home.hi-ho.ne.jp」です。（2000年5月現在）



① アドレスの欄を クリック

② Back space を押して、不要な文字を消す。



① URLを入力する。

② Enter を押す。

◀必ず半角の英数字で入力します。半角の英数字にならないときは Alt ＋ 半角/全角 を押して、英数字入力モードに切り換えます。

しばらくすると、指定したホームページが表示されます。



◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

◀Internet Explorerを終了するには →前ページ

表示が極度に遅いときには

画像の多いホームページを表示している、メモリーが不足している、または接続しようとした時間帯にホームページが非常に混雑しているなどが考えられます。

URL によく使われている記号の入力方法

- チルダ（～）は Shift ＋ [¯ ^ へ]
- スラッシュ（/）は [? ・ / め]、ピリオド（.）は [> 。 . る]、コロン（:）は [* ケ : け]
- アンダーバー（_）は Shift ＋ [_ ろ]

用 語

URL：インターネット上でホームページなどのデータの場所を示す番地のようなものです。

インターネットに接続する

ホームページの見かた

現在開いているホームページの番地（URL）が表示されています。



スクロールバー

ポインターが矢印から手の形になる所を クリック
その先のホームページ(リンク先)を表示できます。

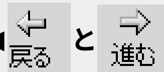
[戻る]を クリック
一つ前のホームページに戻ることができます。



◀画面を最大にする

□をクリックすると、ホームページのウィンドウを最大にすることができます。（→取扱説明書『セットアップ編』）

◀スクロールバーをドラッグ、または▼▲をクリックすると、下または上に続いているホームページを見ることができます。

◀

いくつかのホームページを開いたときに、簡単に前に戻ったり、次に進んだりすることができます。いろいろなページを開いてみましょう。

◀Internet Explorerを終了するには
→62ページ

オフライン(回線断)の状態でホームページの内容を読む

ホームページをじっくり見るときは、[ファイル]→[オフライン作業]をクリックする（ウィンドウ上部に「オフライン作業」と表示される）と、回線を切断した状態で[Internet Explorer]を表示することができます。（料金を節約することができます。）別のホームページに進もうとすると、下記のメッセージが表示されますので、[接続]をクリックします。



そのほかの便利な機能


：インターネット接続時に最初に表示されたホームページに戻ります。


：キーワード（言葉）をもとに、見たいホームページを表示します。（→次ページ）


：よく見るホームページを登録し、すぐに表示することができます。（→66ページ）


：表示したホームページのURLの履歴を見ることができます。

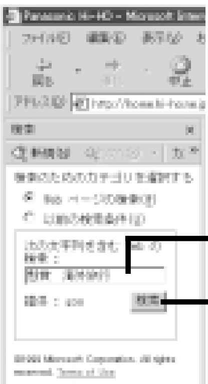
見たいページを探す

「こんなホームページが見たいな」という場合、キーワードを入力して、ホームページを探すことができます。
たとえば、「海外旅行の懸賞に応募したい」ときは「懸賞」「海外旅行」などをキーワードとして見たいページを探せます。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→62ページ）

[検索]を クリック





① キーワードを入力する。

② [検索]を クリック



検索条件に合致したホームページの件数が表示されます。

[×]をクリックすると、検索を終了することができます。

検索結果が表示されるので、いずれかのホームページタイトルを クリック

2 インターネットへの接続を終わる。（→62ページ）

◀「どんなホームページがあるのかな」という場合には、「ウェブナビゲーター」が便利です。（→67ページ）

◀ Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに日本語入力モードと英数字入力モードを切り換えられます。

キーワード入力のコツ
検索されたページが多すぎて探しにくい場合は、複数のキーワードを入力してください。その際、スペースや | で区切るのが一般的です。

◀インターネットへ情報を送信する場合、いくつか、警告のメッセージが表示される場合があります。確認後、[はい] をクリックします。

◀[戻る]をクリックすると、検索を始める前の画面に戻ることができます。

インターネットに接続する

気に入ったページを登録する

よく利用するホームページは、「お気に入り」に登録しましょう。「お気に入り」に登録しておくと、「URL」を入力することなくメニューから選ぶだけで簡単に表示できます。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→62ページ）

2 お気に入りに登録したいホームページを表示させる。

3 登録する。

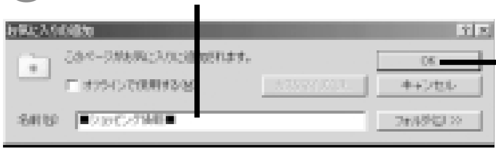


① [お気に入り] を クリック

② [お気に入りに追加]を クリック

◀  をクリックして登録することもできます。

① タイトルを入力、確定する。



② [OK]を クリック

◀名前の欄をクリックすると、文字を入力できるようになります。

<登録したページを表示するには>



① [お気に入り] を クリック

② 登録したタイトルを クリック

◀「お気に入り」のメニューから削除したいときは [お気に入りの整理]をクリックし、削除したいタイトル名をクリックして、[削除]→[はい]→[閉じる]をクリックします。

4 インターネットへの接続を終わる。（→62ページ）

最初に表示するページを設定するには

①最初に表示したいホームページを表示する。
②[ツール]→[インターネットオプション]をクリックする。
③[全般]→[現在のページを使用]をクリックし、[OK]をクリックする。

ウェブナビゲーターでホームページを見る

ウェブナビゲーターを使用する前に

ウェブナビゲーターを使用するには、以下の準備が必要です。

・通信機器を接続してプロバイダーに加入し、通信の設定をしてください。（→47〜57ページ）
・画面のプロパティで、画面の領域を1024×768ピクセル、色をHigh Color（16ビット）以上、詳細設定を「小さいフォント」に設定してください。

◀工場出荷時は、1024×768ピクセル、High Color （16ビット）、「小さいフォント」に設定されています。

ウェブナビゲーターの楽しみかた

＜まずは、ネットサーフィン＞

どんなホームページがあるの、 どうしたらもっとホームページを楽しめるの？というときに。 （標準ビュー）

ウェブナビゲーターを起動してホームページ情報を取得します。取得後は、オフラインになるので料金がかかりません*。

１画面に６グループのホームページを一覧できます。
（右の画面は一例です。）



標準ビューでは、登録されている性別や年齢などをもとに「ニュース」「旅行」などのジャンル別ホームページや、「おまかせ」としてあなたに合いそうなホームページを提案します。

ホームページ情報の取得とは
・本機にはあらかじめたくさんの厳選されたホームページリスト（URL集）が登録されています。
・ホームページリストをもとにインターネットに接続し、最大24個（工場出荷時は18個）のホームページ情報を自動で取得します。（登録されているURLが提供者側で休止、終了された場合、そのホームページの内容を取得・表示できなくなることがあります。）

*リンク先のホームページを表示する場合、インターネットに接続するため、料金がかかります。また、オンライン状態からホームページの更新を行った場合などは、取得後もオンライン状態が続きます。その場合は接続を切断し、オフライン状態にしてから閲覧するようにしてください。

＜さらに使い込む＞

興味を持った分野（ジャンル）のホームページをたくさん探したいときに。（探険ビュー）

興味を持ったホームページを指定するだけで、６つのグループすべてに同じジャンルのホームページを取得することができます。

◀標準ビュー、探険ビュー、カスタムビューは、簡単に切り換えることができます。（各ビューのホームページの内容は保持されます。）

気に入ったホームページを残しておきたいというときに。 （カスタムビュー）

標準ビューや探険ビューで見つけたホームページや、「Internet Explorer」（→62ページ）の「アドレス」や「お気に入り」、また「スタート」メニューの「お気に入り」など、あちこちにあるお気に入りのホームページを簡単な操作でウェブナビゲーターの「カスタムビュー」に集めて登録できます。（→71ページ）

＜ホームページの更新＞

必要に応じて簡単にホームページの情報を更新できます（→76ページ）。また、ホームページリスト（URL集）も更新できますので、最新の情報を入手することができます（→77ページ）。

ウェブナビゲーターでホームページを見る

ウェブナビゲーターを起動する

インターネットスターター（56ページの画面）に続けて操作する場合は手順2から、デスクトップから操作する場合は手順*1* から操作してください。

1 [ウェブナビゲーター2]アイコンをダブルクリックする。

<インターネットスターターを使って通信設定を行った場合（初回のみ）>

「ウェブナビゲーターへようこそ」画面で[OK]をクリックする。

<インターネットスターターを使わずに通信設定を行った場合（初回のみ）>



① ▼をクリックして、性別、年齢を選ぶ。

これらの情報は、ウェブナビゲーター用としてのみ使用されます。

② [OK]を クリック

この後、画面の指示に従って[OK]をクリックする。

2 ホームページの情報を取得する（初回のみ）。



① 取得しないグループがあれば、クリックしてチェックマークを外す。

② [OK]を クリック

③ 「ダイヤルアップの接続」画面で[接続]を クリック
（「自動的に接続する」にチェックマークを付けている場合、[接続]をクリックする必要はありません。）

画面右側の「ホームページの更新」画面に取得中のホームページが表示されます。１つ取得するごとに、６分割された画面にはめ込まれていきます。

2回目以降は、前回に取得した情報をもとに、すぐにウェブナビゲーターの画面（前回終了時のビュー）が表示されます。

3 更新終了のメッセージが表示されたら、[OK]をクリックする。

<ウェブナビゲーターを終了する場合>

ホームページの更新中は、終了できません。



① [ファイル]を クリック

② [終了]を クリック

・ウィンドウ右上の☒をクリックしても、終了することができます。

◀６つのグループをすべて取得するかどうかを選ぶことができます。表示されているグループ名は、登録されている年齢、性別などにより異なります。

◀プロバイダー経由のホームページ取得はインターネットへ接続するため、接続料金、電話料金がかかります。（オンライン）

接続時間は自分で設定することができます。（工場出荷時は最長約14分間接続します。→77ページ）

◀画面右側の「ホームページの更新」画面で[スキップ]をクリックするとそのホームページの取得が中断され、次のホームページの取得が始まります。

お願い

・回線の状況などにより、１つのホームページを1分以内に取得できない場合、そのホームページは表示されません。
・認証、Javaアプレットのロードなどにより、取得できないホームページや、Javaアプレットやスクリプトなどによって表示内容が自動的に変化するようなホームページは表示されません。

使いかた

コミュニケーション

ウェブナビゲーターの基本機能

標準ビュー

初めてホームページを取得した直後に表示される画面です。登録した性別、年齢をもとに、また、使用を重ねるうちにどのようなホームページをよく見ているかを記録し、コンピューターがあなたに合ったジャンルやホームページを選んで表示します。

ビュー名

実際には、各ジャンルのホームページ情報が表示されます。



グループ名

更新日時

取得したホームページ情報

表示するジャンルやホームページの選択方法を変更（→74ページ）

画面上のホームページの内容を最新に（→76ページ）

興味を持った分野のホームページをたくさん探したいときに（→次ページ）

気に入ったホームページを登録しておきたいときに（→71ページ）

各ビューの表示に切り換えます。
（光っているボタンが現在表示中のビューです。）

画面上のホームページのリスト（タイトルのみ）を表示

◀この画面では、インターネットに接続していませんので、電話料金、接続料金はかかりません。（オフライン）

お願い

オンライン状態からホームページの更新を行った場合などは、取得後もオンライン状態が続きます。その場合は接続を切断し、オフライン状態にしてから閲覧するようにしてください。

◀１つのグループに、ホームページが３種類ずつ、一定間隔で順番に表示されます。（工場出荷時は約1秒間隔に設定されています。→77ページ）

それぞれのホームページを詳しく見る
いずれかのホームページをダブルクリックすると、「Internet Explorer」が起動し、その内容が開きます（通常、オフライン）。（→62ページ）

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

ビューの切り換え
[探険]や[登録]を実行していない場合、探険ビュー、カスタムビューをクリックすると、ホームページの枠内は空欄になります。

使いかた

コミュニケーション

各グループの「ホームページ選択方法」について

＜おまかせ＞
登録した性別、年齢やどのようなホームページをよく見ているかの記録などをもとに、コンピューターがあなたにあったホームページを選んで表示します。

＜お知らせ＞
当社の製品情報などをお知らせするホームページを表示します。

＜その他＞
グループ名が「おまかせ」「お知らせ」以外のグループでは、ジャンル別にホームページを表示します。表示するジャンルやホームページを変更することもできます。「おまかせ」や「お知らせ」と区別して、これらのグループを「ジャンル選択」グループといいます。

- グループ１～３は「おまかせ」､「お知らせ」に変更できません。
- グループ４～６は「ジャンル選択」､「おまかせ」､「お知らせ」に変更することができます。（→74ページ）

ウェブナビゲーターでホームページを見る

探険ビュー

興味を持ったホームページを選択して「探険」をクリックするだけで、６つのグループすべてに同じジャンルのホームページを探して取得することができます。

1 「標準ビュー」の画面から[探険]を実行する。



❶ 目的のページを クリック

❷ [探険]を クリック

❸ メッセージを確認して[はい]を クリック

❹ 「ダイヤルアップの接続」画面で[接続]を クリック

画面右側の「ホームページの更新」画面に取得中のホームページが表示されます。
更新終了のメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

＜「探険ビュー」の画面＞



表示されているホームページのジャンル

表示するホームページやジャンルの変更（→74ページ）

画面上のホームページの内容を最新に（→76ページ）

気に入ったホームページを登録しておきたいときに（→71ページ）

各ビューの表示に切り換えます。
（光っているボタンが現在表示中のビューです。）

◀[探険]は「標準ビュー」の画面から行います。探険を行っても標準ビューのホームページ情報は消えません。「探険ビュー」にホームページ情報がある状態で探険を行うと、その内容は消えます。

その他の始めかた
「標準ビュー」で目的のページを右クリックして、「このホームページを探険」を選びます。

◀「自動的に接続する」にチェックマークを付けている場合、[接続]をクリックする必要はありません。

◀プロバイダー経由のホームページ取得はインターネットへ接続するため、接続料金、電話料金がかかります。（オンライン）

◀すべてのグループが指定したホームページと同じジャンルになります。各グループを「おまかせ」や「お知らせ」に変更することはできません。

お願い

- オンライン状態からホームページの更新を行った場合などは、取得後もオンライン状態が続きます。その場合は接続を切断し、オフライン状態にしてから閲覧するようにしてください。
- 標準ビューに戻った後、再度[探険]を実行すると、前回の探険で取得した内容は消えてしまいます。残しておきたいホームページは、カスタムビューに登録します。

それぞれのホームページを詳しく見る
いずれかのホームページをダブルクリックすると、「Internet Explorer」が起動し、その内容が開きます（通常、オフライン）。（→62ページ）

カスタムビュー

標準ビューや探険ビューで見つけたホームページや、「Internet Explorer」（→62ページ）の「アドレス」や「お気に入り」、また「スタート」メニューの「お気に入り」など、あちこちにあるお気に入りのホームページを簡単な操作で「カスタムビュー」に登録できます。

＜「標準ビュー」「探険ビュー」のホームページを登録する場合＞

1 ホームページを登録する。



❶ 目的のページを クリック

❷ [登録]を クリック

◀「標準ビュー」や「探険ビュー」でホームページの更新を行うと、異なるホームページが取得されます。気に入ったホームページは登録して残しておくことができます。

2 登録位置を指定する。

指定したページの「タイトル」



❶ ▼をクリックし、どの位置に登録するかを選ぶ。

❷ [OK]を クリック

◀「タイトル」の右横の▼をクリックすると、そのグループ内のページのタイトル一覧が表示されます。目的のホームページを選び直すことができます。

◀「ユーザー設定1」～「ユーザー設定6」は「グループ1」～「グループ6」に対応します。

＜「カスタムビュー」の画面＞



グループ名は「設定」で変更できます。（→74ページ）

表示するホームページの変更・削除・追加（→74ページ）

画面上のホームページの内容を最新に（→76ページ）

各ビューの表示に切り換えます。
（光っているボタンが現在表示中のビューです。）

その他の登録のしかた
「標準ビュー」または「探険ビュー」で目的のページを右クリックし、登録位置を[ユーザー設定1へ登録]～[ユーザー設定６へ登録]の中から選びます。この場合、各グループにあといくつ登録することができるかが表示されます。（最大４つまで）

◀1つのグループに登録できるホームページは４つまでです。すでに４つ登録されているグループに登録しようとすると、代わりにどのホームページを削除するかを選択する画面が表示されます。その画面で削除するホームページを選ぶか他のグループに登録するかしてください。

それぞれのホームページを詳しく見る
いずれかのホームページをダブルクリックすると、「Internet Explorer」が起動し、その内容が開きます（通常、オフライン）。（→62ページ）

（次ページへ続く）

ウェブナビゲーターでホームページを見る

カスタムビュー（つづき）

<「Internet Explorer」のアドレス欄などから登録する場合>

「Internet Explorer」のアドレス欄やお気に入りに登録したホームページから、また「スタート」メニューの「お気に入り」から「カスタムビュー」にドラッグ＆ドロップするだけで、お気に入りのホームページを集めることができます。

1. 登録したいURLを、目的のグループにドラッグ＆ドロップする。

<Internet Explorerのアドレス欄からの場合>



2. メッセージを確認して、[OK]を クリック
3. 登録したホームページを更新する。（→76ページ）

<「カスタムビュー」のホームページを整理する>

次のようにして簡単にホームページを移動できます。

1. 移動したいページが表示されたときに矢印をあわせ、左ボタンを押す。



2. 左ボタンを押したまま、移動先のグループ上へドラッグし、左ボタンを離す。
（ドラッグ＆ドロップ）

3. メッセージを確認して、[OK]を クリック

◀この方法でホームページを登録できるのは「カスタムビュー」だけです。「標準ビュー」や「探険ビュー」にドラッグ＆ドロップしてもそのホームページを登録できません。

◀1つのグループに登録できるホームページは４つまでです。必要に応じて、ホームページを削除してから登録してください。（→下記）

登録されているホームページを削除する
→次ページ

◀URLを登録しても、更新を行わないと、そのホームページの内容や左側しおり欄の名称*は表示されません。
* 左側しおりの名称欄には「新しいホームページ」と表示される場合があります。更新を行うと、そのホームページの名称が表示されるようになります。

◀この方法でホームページを移動できるのは「カスタムビュー」だけです。

◀1つのグループに登録できるホームページは４つまでです。必要に応じて、移動先のグループのホームページを削除してください。

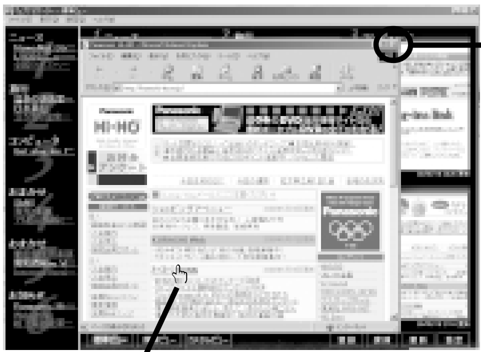
登録されているホームページを削除する
→次ページ

「Internet Explorer」で詳しく見る

標準ビュー/探険ビュー/カスタムビューでいずれかのホームページをダブルクリックすると、「Internet Explorer」が起動し、その内容が開きます。（通常、オフライン）

❶ 目的のホームページが表示されたら、そのホームページ上を ダブルクリック

＜標準ビューの画面例＞



☒をクリックすると、「Internet Explorer」を終了します。

矢印が の形に変わった所をクリックすると、その項目に関連する（リンク先の）ページが表示されます。

- 画面取得後に、実際のホームページが変更になり、指定したリンク先がない場合があります。その場合は、メッセージが表示されます。必要に応じて、ホームページの更新を行ってください。（→76ページ）
- 「データ更新中」と表示されることがあります。これは、どのようなホームページをよく見ているかの情報を集め、次回の標準ビューの「おまかせ」に生かすためです。

◀ホームページによってはインターネットへの接続が必要な場合があります。その場合、接続するかどうかを確認するメッセージが表示されます。また、Internet Explorerなどがすでに起動されていてオンライン状態の場合は、オンライン状態で開きます。

◀取得したホームページは特別なフォルダーにファイルとして一時的に蓄えられます。これらのファイルを消す*とInternet Explorerでホームページ情報を見ることができなくなります。

* 「Internet Explorer」の[ツール]→[インターネットオプション]→[ファイルの削除]を実行するとファイルが消えます。また、ファイルが一定容量を超えると古いものから順に自動的に削除されます。

◀リンク先のページを表示する場合、インターネットに接続しますので、電話料金、接続料金がかかります。（オンライン）

インターネットへ接続する際には、電話回線の接続を確認してください。（→47ページ）

◀Internet Explorerの使いかたについて詳しくは→62ページ

ホームページを削除する

標準ビュー/探険ビュー/カスタムビューで不要になったホームページを次のようにして削除できます。

❶ 削除するホームページ上で右ボタンをクリックし、[このホームページを削除]を選択する。



❷ 確認のメッセージが表示されたら[OK]を クリック

表示するジャンルやホームページを変更する（設定）

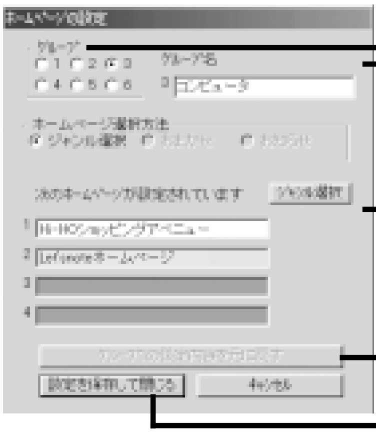
各ビューで画面に表示するジャンルやホームページを、約60ジャンル、約500種類の中から選んで、変更することができます。

標準/探険/カスタムの各ビューによって、設定できる内容が異なります。

1 

クリック

＜「標準ビュー」から始めた場合＞



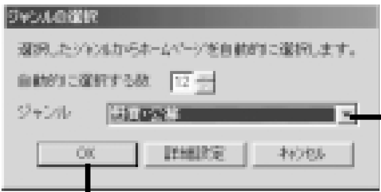
❶ 変更するグループの ◯を クリック

❷ 必要に応じて、変更する。
（→右記、次ページ）

変更した設定を元に戻すことができます。

❸ クリック

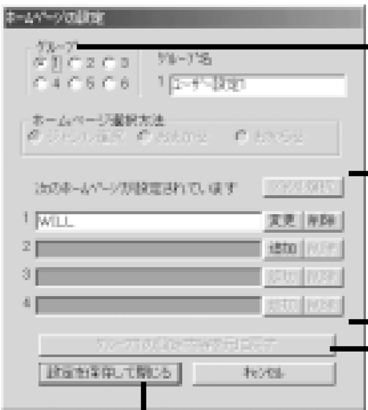
＜「探険ビュー」から始めた場合＞



次ページ

設定後、[OK]を クリック

＜「カスタムビュー」から始めた場合＞



❶ 変更するグループの ◯を クリック

❷ 必要に応じて、変更する。
（→右記）

変更した設定を元に戻すことができます。

❸ クリック

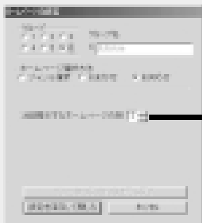
◀ウィンドウ左上の[設定]→[ホームページの設定]でも、左記の設定画面を表示することができます。

グループ
＜標準ビュー､カスタムビューのみ＞
設定を変更するグループの番号（画面上の6グループの位置と対応）を選びます。

グループ名
＜標準ビュー､カスタムビューのみ＞
選択中のグループのグループ名が表示されます。また「カスタムビュー」の場合のみ、グループ名を変更できます。（空白にすると、設定を保存できません。）

ホームページ選択方法
＜標準ビューのみ＞
各グループごとに表示するホームページの選択方法を変更できます。ただし「グループ」で1〜3を選んだ場合、選択できるのは「ジャンル選択」のみです。また、「お知らせ」に設定できるのは、4〜6の1つのグループのみです。

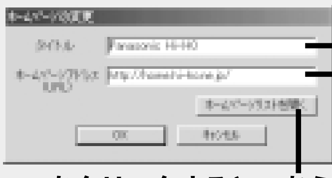
「おまかせ」または「お知らせ」を選んだ場合
＜標準ビューのみ＞



表示するホームページの数を選びます。

ホームページの変更・追加・削除
＜カスタムビューのみ＞
左記の画面で[変更]または[追加]をクリックすると次の画面が表示されます。

タイトルやURLを変更できます。（空白のままでは設定を終了できません。）



ここをクリックすると、あらかじめ登録されているホームページリストの中から選ぶことができます。

ジャンル選択について

＜標準ビュー、探険ビューのみ＞

（自動設定）

❶ 標準ビューの[設定]をクリックし、[ジャンル選択]をクリックする。
または、探険ビューの[設定]をクリックする。（→前ページ）

❷ ここをクリックして、ジャンルを選ぶ。

❸ ここをクリックして、自動で選択するホームページの数を選ぶ。



❹ [OK]をクリックする。

（詳細設定）

❶ 上記画面で、[詳細設定]をクリックする。

❷ ここをクリックして、ジャンルを選ぶ。

❸ 目的のホームページにチェックマークを付ける。



❹ [OK]をクリックする。

自動設定画面（→上記）に戻ります。

2 ジャンルなどを変更したグループのホームページ情報を更新する（→次ページ）。

◀グループのジャンルを変えることができます。

自動設定
選んだジャンルのホームページをコンピューターに自動的に選択させる場合に、その数を設定します。

詳細設定
自分でホームページを選択したい場合は、「詳細設定」を選択します。

選択できるホームページの数
・標準ビュー：最大4個*
・探険ビュー：最大24個*
*ジャンルにより、登録されているホームページの数が選択できる最大数より少ない場合があります。

ウェブナビゲーターでホームページを見る

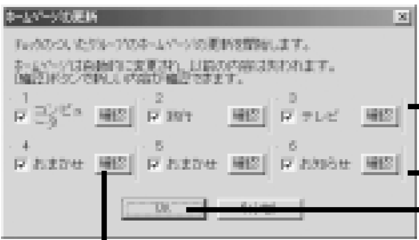
ホームページの更新

インターネットに接続し、表示中のビューのホームページ情報を更新することができます。ウェブナビゲーターの２回目以降の起動時に、必要に応じて更新してください。（URLがホームページの提供者側で休止、終了された場合、そのホームページを取得できなくなる場合があります。）



クリック

＜標準ビューでの操作例＞



1 更新しないグループがあれば、クリックしてチェックマークを外す。

2 [OK]を クリック

標準ビューの場合のみ、２回目以降の更新時、[確認]ボタンが表示されます。クリックすると、新たに取得するホームページを確認できます。

＜[確認]をクリックしたときの画面例＞



「おまかせ」「お知らせ」の場合、取得するホームページを変更することができます。（「ジャンル選択」では変更ボタンは表示されません。）

3 更新完了のメッセージが表示されたら[OK]を クリック

◀**ホームページの更新は、インターネットに接続しますので、電話料金、接続料金がかかります。**
インターネットへ接続する際には、電話回線の接続を確認してください。（→47ページ）

更新について
制限時間内（工場出荷時最長約14分*、１つのホームページあたり最長約１分以内）にすべて更新できなかった場合でも、途中までのデータは蓄えられます。そのため、２回目以降は同じページを速く更新できます。
*次ページの詳細設定で接続時間の制限（時間制限）を変更できます。

◀更新中、スクリーンセーバーは起動しません。

◀更新するとホームページは変更され、以前の内容は失われます。現状のホームページを残しておきたい場合、「カスタムビュー」の特定のグループに登録してそのグループは更新しないでください。（→71ページ）

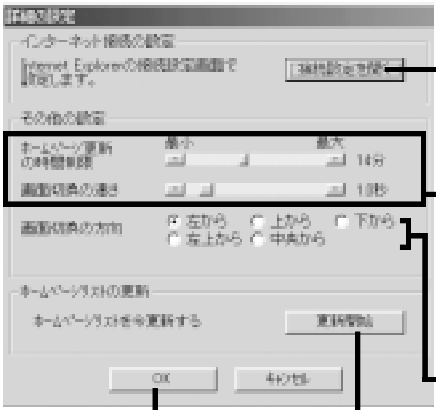
表示スピードや更新時の条件を変更する（詳細設定）

画面上でホームページが切り換わる速さを変えたり、ホームページ更新時のさまざまな条件を変更できます。また、最新のホームページリスト（URL集）に更新できます。



❶「設定」を クリック

❷「詳細設定」を クリック



設定されている「ダイヤルアップの設定」を選んだり、「新しい接続」を設定したりすることができます。

◀▶をクリックするか、□をドラッグして設定します。
時間制限：3分〜30分
切り換えの速さ：0.5秒〜5.0秒

画面切り換えの表示方法を選びます。お好みに応じて変更してください。

インターネットに接続して、Hi-HOのホームページから最新のホームページリスト（URL集）を取得します。画面の指示に従って操作してください。

クリック

◀接続設定が正しくないと、ホームページを更新できません。「Internet Explorer」などを使って、この設定でインターネットに接続できること確認した後、ウェブナビゲーターを起動してください。

◀ホームページのデータ量や更新時の回線の状態によっては、インターネットへ接続する時間を延長する必要がある場合があります。

◀ホームページリストの更新は、インターネットに接続しますので、電話料金、接続料金がかかります。URL集は、データ料金なしで取得できます。

電子メールを送受信する

通信機器を接続し、プロバイダーに加入し、通信の設定が終わったら（→47～57ページ）、メールソフトの「Outlook™ Express 5（アウトルックエクスプレス）」を使って、メールを送受信してみましょう。

◀以降Outlook Expressと記載します。

電子メールを送信する

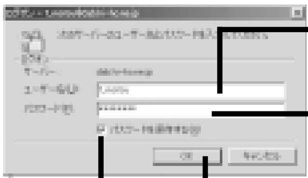
1 デスクトップの「Outlook Express」アイコンをダブルクリックする。



❶ 変更する場合は、▼ をクリックし、接続先を選ぶ。

(→右記)

❷ 「接続」を クリック



❶ 登録したメールアカウントになっていることを確認する。

❷ メールパスワードを入力する。（→56ページ）

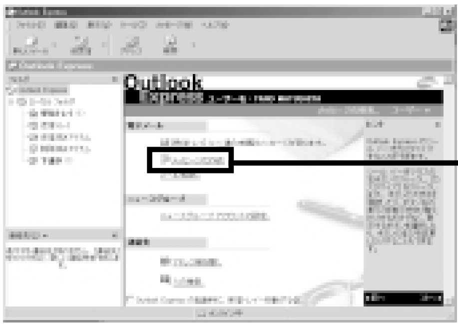
(→右記)　❸ 「OK」を クリック

◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティ保護のため「*」で表示されます。
（ダイヤルアップ接続の作成方法→58ページ）

◀左記は、「インターネットスタータ ー」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

パスワードを保存する
チェックマークを付けると、次回接続時からパスワードを入力する手間が省けます。ただし、パスワードを知らない人でも接続可能になりますので、注意してください。

2 メッセージを作成する画面を表示する。



＜初期画面＞

「メッセージの作成」を クリック

3 「宛先」を入力する。

❶ 「宛先」にポインターをあわせて クリック



＜メッセージの作成画面＞

❷ メールアドレスを半角の英数字で入力する。

◀最初は試しに自分宛にメールを送ってみましょう。

◀ Alt + 半角/全角 を押して英数入力モードに切り換えると、英数字を入力できるようになります。

メールアドレスに使われる記号の入力方法

・アットマーク（@）は [@ ` ¢] 、ピリオド（．）は [> 。 . る] 、ハイフン（-）は [= £ - ほ]
・アンダーバー（＿）やチルダ（～）については→63ページ

4 「件名」を入力する。

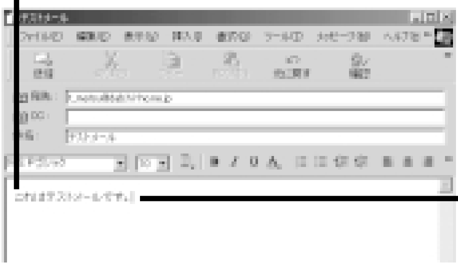
❶ ポインターをあわせて クリック



❷ 件名（タイトル）を入力する。

5 「本文」を入力する。

❶ ポインターをあわせて クリック



❷ 本文を入力する。

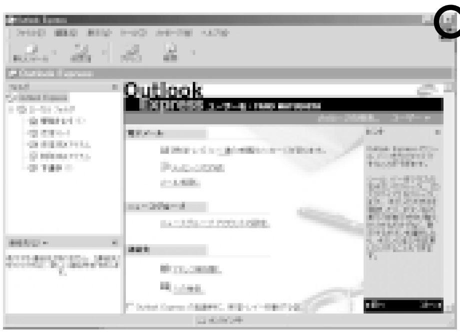
6 送信する。

[送信]を クリック



送信中はこのマークが回転します。回転が止まるまでOutlook Expressを終了しないでください。終了すると、送信されません。

＜「Outlook Express」を終わるには＞



☒を クリック



「今すぐ切断する」を クリック

◀電子メールには、半角のカタカナと丸付き数字（①②）などの特殊文字は使わないでください。相手先で読めなくなる場合があります。必ず、前ページ手順*2*の画面で、[ツール]→[オプション]→[送信]で「テキスト形式」にチェックマークを付けておいてください。

◀オフライン状態で[送信]ボタンをクリックするとメールは[送信トレイ]に入ります。[送受信]ボタンをクリックすると前ページ手順*1*の画面が表示されます。

◀送信と同時にメッセージの作成画面を終了し、「Outlook Express」の初期画面に戻ります。

送信トレイにメールを入れるには
[送信]ボタンをクリックするかわりに、[ファイル]→[後で送信する]をクリックしてください。

[送信トレイ]の中のメールの送信
[送受信]ボタンをクリックすると送信されます。
また、Outlook Express終了時に[送信トレイ]にメールが残っている場合は、送信するかどうかの確認メッセージが表示されます。

◀この画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

◀すでにインターネットに接続している状態でOutlook Expressを起動した場合、この画面が表示されません。手動で接続を終了してください。

使いかた

コミュニケーション

電子メールを送受信する

アドレス帳を利用する

よくメールを送る相手のメールアドレスは、アドレス帳に登録しておくと便利です。

アドレス帳に登録する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。（→78ページ）

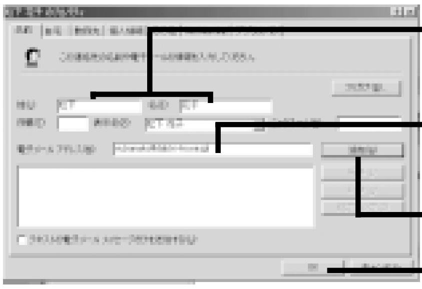


[アドレス]を クリック

2 アドレス帳に新規登録する。

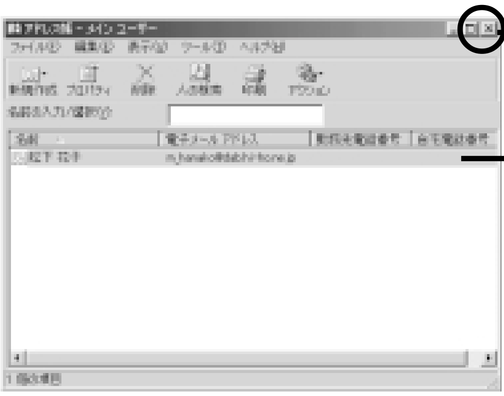


① [新規作成]を クリック
② [新しい連絡先]を クリック



① 「姓」「名」を入力する。
② メールアドレスを入力する。
③ [追加]を クリック
④ [OK]を クリック

3 アドレス帳を終わる。



☒を クリック

登録したアドレス

◀メッセージの作成画面（→78ページ）からアドレス帳に登録する場合は、「ツール」→「アドレス帳」を順にクリックしてください。

◀受信メール一覧画面（→83ページ）でも[アドレス]をクリックしてアドレス帳に登録することができます。

◀ Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに、日本語入力モードと英数字入力モードが切り換わります。

◀表示名
姓名の欄に入力した内容がそのまま「表示名」に表示されます。必要に応じて変更してください。「表示名」は、アドレス帳からメールアドレスを入力したときに、「宛先」として表示されます（→次ページ）。

使いかた

コミュニケーション

登録したメールアドレスを入力するには

1 「Outlook Express」のメッセージの作成画面を表示する。
（→78ページ）

2 アドレス帳のメールアドレスを宛先に入力する。



クリック



1 メールを送る相手を クリック

2 [宛先]を クリック

3 [OK]を クリック



「宛先」には、登録した「表示名」が表示されます。

アドレス帳からメールアドレスを削除するには

1 アドレス帳の画面を表示する。（→前ページ、手順*1*）

1 削除するアドレスを クリック



2 [削除]を クリック

3 確認メッセージが表示されたら[はい]を クリック

2 アドレス帳を終わる。



クリック

電子メールを送受信する

メールにファイルを添付して送る

まとまった量の文書や画像の入った文書をメールに添付して送ることができます。

1 **メッセージの作成画面を表示し、宛先、件名、メッセージを入れる。（→78、79ページ）**

2 **ファイルを添付する。**



① [挿入]を クリック

② [添付ファイル]を クリック



ファイルの保存場所を ダブルクリック



① 添付するファイルを クリック

② [添付]を クリック



[送信]を クリック

添付ファイル名が表示されます。

◀「マイ ドキュメント」フォルダーに保存したファイルを添付する例で説明します。

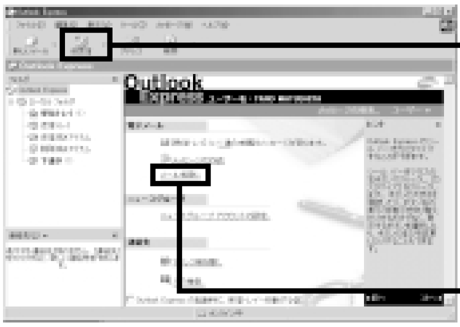
◀フォルダーを開く方法について詳しくは→取扱説明書『セットアップ編』

◀「Outlook Express」を終わるには→79ページ

◀「メッセージの作成画面」のみを開いた状態で、添付ファイル付きのメールを送信すると、送信後自動的に切断するように設定していても、切断の確認画面が表示される場合があります。このときすでに接続は切断されています。「今すぐ切断する」をクリックしてください。

電子メールを受信する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。
(→78ページ)

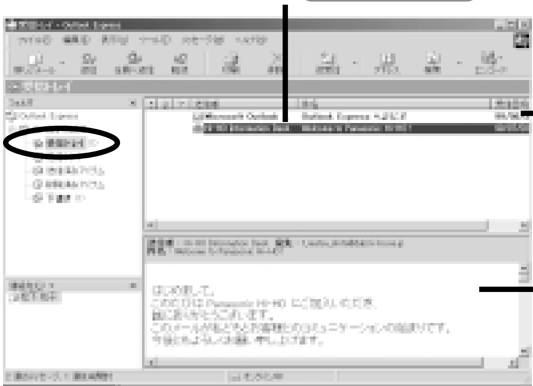


❶「送受信」を **クリック**
メールを受信すると同時に、「送信トレイ」にメールがある場合は、送信します。

❷ [メールを読む]を **クリック**

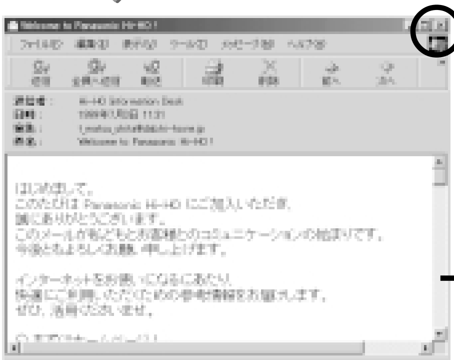
2 受け取ったメールを読む。

<受信メール一覧画面>
目的のメールの件名を **ダブルクリック**



未読メールは太字で表示されます。

反転しているメールの一部が表示されます。



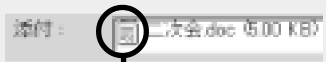
メールを読み終わったら ☒ を **クリック**

▼ ▲ で上下に隠れている部分を読んでください。

トレイの種類
・受信トレイ
受信したメールが保管されます。
（左記画面）
・送信トレイ
作成したメールを一時的に保管する場所です。複数個のメールが送信トレイにたまったら[送受信]をクリックして、まとめてメールを送信できます。
（送信トレイにメールを入れるには→79ページ）
・送信済みアイテム
送信したメールが保管されます。
・削除済みアイテム
削除したメールはここに一時保管されます。（→下記）

◀表示するトレイを変更する場合、目的のトレイをクリックしてください。

添付ファイルを受け取ったら



添付ファイルのアイコンをダブルクリックし、画面の指示に従って添付ファイルを開くか、保存するかしてください。その際はウィルスチェックプログラムを常駐させておくことをおすすめします。

受け取ったメールを削除するには

受信メール一覧画面で削除したいメールに矢印をあわせて、Del を押すか[削除]ボタンをクリックします。その時点で、削除済みアイテムに一時保管されます。
削除済みアイテムからも削除するにはそのメールに矢印をあわせて、Del を押すか[削除]ボタンをクリックしてください。また、「Outlook Express」終了時にまとめて削除するよう設定することもできます。

受け取ったメールに返事を出すには

受信メール一覧で[返信]ボタンをクリックします。

電子メールを送受信する

メールの自動送受信機能を使う

「メールの自動送受信」機能を使うと、自動でメールの送受信を行うことができます。この機能を使用するには、「アクセスポイントの設定」を行った後、「スタート」メニューから「メールの自動送受信」を選んでください。また、専用のケーブルで携帯電話やPHS電話を接続したときには自動的にこの機能が働くよう設定することができます。（→50、52ページ）

◀別売りの専用ケーブル：
携帯電話接続ケーブル
PHS電話接続ケーブル
詳しくは、155ページをご覧ください。

お願い
Outlook Express以外のメールソフトについては動作を保証しません。

アクセスポイントの設定

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[アクセスポイント設定]をクリックする。

◀ラウンチャーを起動し（→29ページ）、アクセスポイント設定アイコン をダブルタップしても同様の操作をすることができます。

2 「アクセスポイント一覧」から自動接続したいダイヤルアップ接続を選んで、[追加]をクリックする。

LANを使用する場合は、「ダイヤルしない」の左側の□にチェックマークを付けてください。

追加ボタンで選んだダイヤルアップ接続の名称は、「自動接続する優先順位」に移動します。「自動接続する優先順位」の上位に表示されているものから、優先的に接続されます。

「アクセスポイント一覧」には、登録済みのダイヤルアップ接続の名称が表示されています。



◀携帯電話またはPHS電話を接続した場合は、自動接続する優先順位に表示されているものの中で、モデムの種類が「Panasonic Wireless Comm Port」に設定されている接続先に上から順番に接続します。携帯電話用の接続先だけ、またはPHS電話用の接続先だけに接続することはできません。

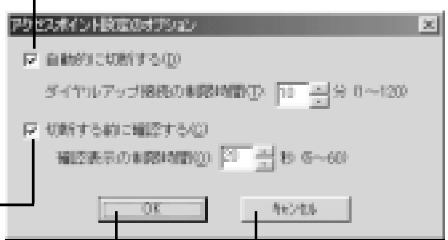
3 「自動接続する優先順位」に表示されているダイヤルアップ接続を選んで、[オプション]をクリックする。

お願い
Outlook Expressの[ツール]→[アカウント]→[メール]→[プロパティ]→[接続]で「このアカウントには次の接続を使用する」のチェックマークを外しておいてください。
「インターネットスターター」で自動設定した場合、このチェックマークは外されています。

4 オプション設定をする。

メールの送受信後に回線を自動切断したい場合は、チェックマークを付けてください。また「...接続の制限時間」で設定した時間が経過すると、メールの送受信中であっても強制的に回線が切断されます。（工場出荷時は10分に設定されています。）

回線を自動的に切断する際に、確認メッセージを表示したい場合は、チェックマークを付けて時間を設定してください。（工場出荷時は20秒に設定されています。）



変更を保存します。

変更を取り消します。

5 アクセスポイント設定画面で[OK]をクリックする。

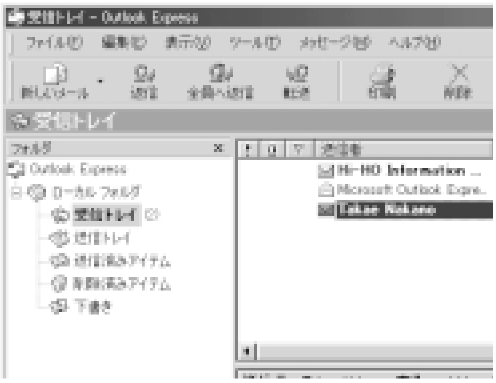
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに終了します。

メールを自動送受信する

1 **[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[メール自動送受信]をクリックする。**



自動的にOutlook Expressが起動し、メールを受信します。
また、送信トレイに送信用メールがある場合は、そのメールを送信します。



メールの送受信が終了したら、回線の切断を確認する画面が表示されます。



◀ラウンチャーを起動し（→29ページ）、アクセスポイント設定アイコンをダブルタップしても同様の操作をすることができます。

◀相手が話し中の場合は、1分間隔で3回まで接続を試みます。3回とも話し中の場合やその他のエラーが発生した場合は次のアクセスポイントへの接続を開始します。

◀すでに、他の接続が行われている場合は、確認画面で[継続]をクリックしてください。

◀その接続へはじめてつなぐ場合、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されますので、それぞれを入力して「パスワード保存」にチェックを付け、[接続]をクリックしてください。

お願い

- メールの送受信が完了するまで、キーやスマートポインターは操作しないでください。
- メールの送受信中にエラーメッセージ画面が表示された場合は、「非表示」ボタンをクリックしてください。回線の切断を確認する画面が表示されます。

◀アクセスポイントのオプション設定で設定している場合のみ
→前ページ

送信トレイにメールを入れるには
Outlook Expressの[ツール]→[オプション]→[送信]設定で、「メッセージを直ちに送信する」のチェックマークを外しておき、メール作成後、[送信]をクリックしてください。

イラストメールを送信する

イラストメール機能を使って、文字で形作られたイラストサンプルの中から好きなイラストを選んで、電子メールで送ってみましょう。
たくさんのイラストサンプルの中から、用途やそのときの気分に合ったものを選ぶことができます。また、イラストの登録や削除を自由に行い、自分専用のイラスト集を作ることもできます。

◀ 選んだイラストは、いったんクリップボードにコピーして文書に貼り付けることもできます。

イラストメールを送信する

ここでは、選んだイラストを電子メールに挿入して送信するまでの手順について説明します。

1 使用するメールソフトの環境を設定する。

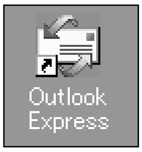
使用するメールソフトで、フォントを「MSゴシック」などの等幅フォントに設定し、送信の形式をテキスト形式に設定してください。
また、[E-メール]ボタンを使ってメールソフトを起動するには（→91ページの手順7）、メールソフトをMAPI対応に設定しておく必要があります。

◀ 字詰めを行う「MS Pゴシック」などを使用すると、イラストがくずれる場合があります。また、HTML形式に設定していると、一部の文字が別の制御コードに変換され、イラストが正しく表示されないことがあります。

MAPI対応の設定
メールソフトによっては、はじめからMAPI対応になっているものもあります。また、MAPI対応にはできないものもあります。

◀ その他の主なメールソフトについては、イラストメール画面で[ヘルプ]→[イラストメールのヘルプ]をクリックして、「表示フォントの設定方法」と「MAPIの設定方法」をご覧ください。

＜Outlook Express 5を使用する場合の設定方法＞



を ダブルクリック



❶ [オフライン作業]を クリック

❷ エラーメッセージが表示されたら、[表示しない]を クリック

（次ページへ続く）

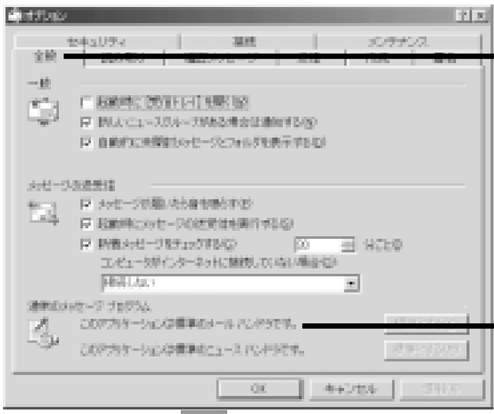
用 語

MAPI (Messaging API)：電子メッセージジングアプリケーションソフトのための標準システムインターフェースのことで、アプリケーションソフトが個別に持っている情報を一元的に管理します。



❶ [ツール]を クリック

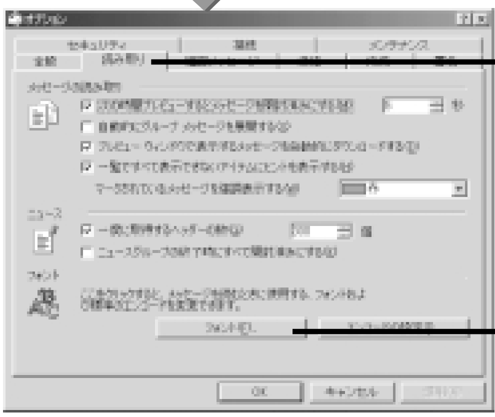
❷ [オプション]を クリック



❶ [全般]を クリック

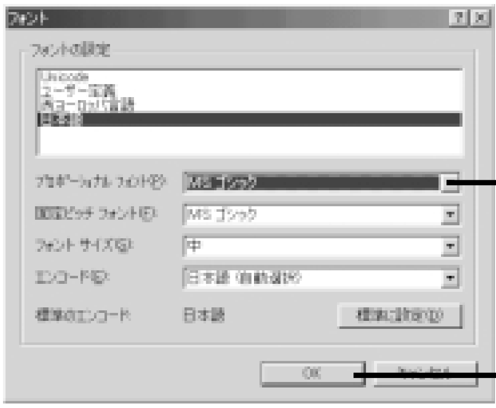
❷ 「このアプリケーションは標準のメールハンドラです。」と表示されていることを確認する。

◀ [通常のメッセージプログラム]に「このアプリケーションは標準のメールハンドラではありません。」と表示されている場合は、[標準とする] をクリックしてください。（MAPI対応に設定されます。）



❶ [読み取り]を クリック

❷ [フォント]を クリック



❶ 「MS ゴシック」を選ぶ。

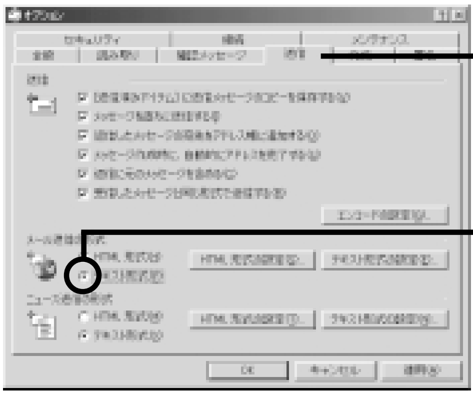
❷ [OK]を クリック

（次ページへ続く）

使いかた

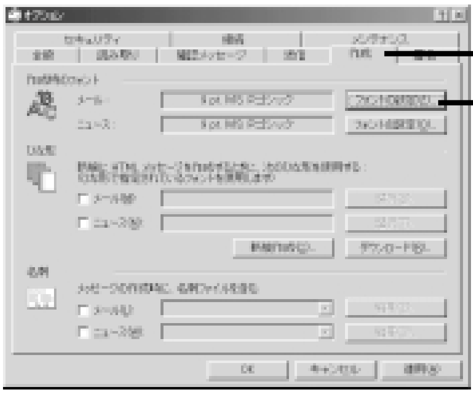
コミュニケーション

イラストメールを送信する



1 [送信]を クリック

2 「テキスト形式」にチェックマークを付ける



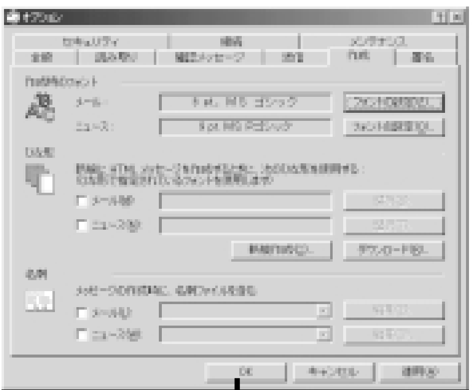
1 [作成]を クリック

2 [フォントの設定]を クリック

1 「MSゴシック」を選ぶ。

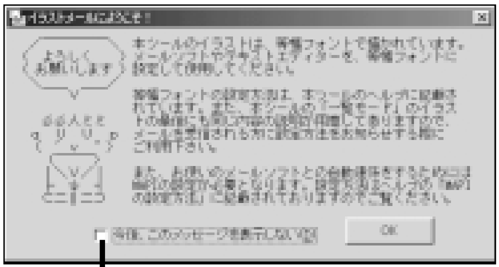


2 [OK]を クリック



[OK]を クリック

2 **デスクトップの[イラストメール]アイコンをダブルクリックする。**



次回起動時からこの画面を表示したくなければ、ここにチェックマーク✓を付ける。

◀[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[イラストメール]をクリックしても、起動することができます。

3 **画面の説明を読んで、[OK]をクリックする。**



イラストのジャンルを示す「フィーリングマップ」を切り換えます。

表示中のイラストをクリップボードにコピーします。

電子メールのメッセージ作成画面を起動します。

イラストの候補を表示します。

自分でテキストイラストを作り、登録します。

◀ここでコピーしたイラストは、メールソフトのメッセージ作成画面やワードパッドの文書などに「貼り付け」や「ペースト」機能を使って挿入することができます。

4 **[フィーリングマップ]をクリックして、マップの種類を選ぶ。**

マップには、下記の3種類があります。

春夏秋冬：季節にあったイラストを選ぶことができる。
喜怒哀楽：感情や感性にあったイラストを選ぶことができる。
用途別　：「祝福」や「案内」など様々な用途にあったイラストを選ぶことができる。

◀[フィーリングマップ]をクリックするごとに、3種類のマップが順に切り換わります。

5 **フィーリングマップ上をクリックしてイラストを選ぶ。**

例えば「春」と表示された周辺をクリックすると、春らしいイラストを選ぶことができ、「夏」と表示された周辺をクリックすると、夏らしいイラストを選ぶことができます。

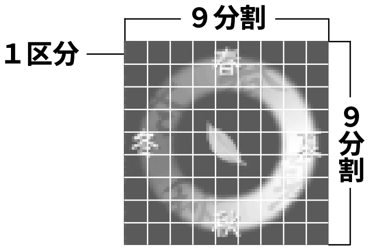
◀クリックした位置にポインター（、♡、）が移動します。

イラストメールを送信する

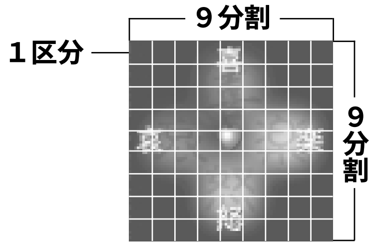
フィーリングマップの区分について

各区分に対して、複数個のイラストが登録されています。
[次候補]をクリックすると、選んだ区分に登録された次の候補が表示されます。[前候補]をクリックすると1つ前の候補が表示されます。

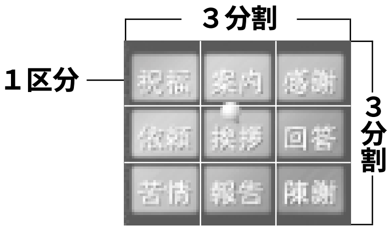
「春夏秋冬」の場合



「喜怒哀楽」の場合



「祝福」「案内」など用途別の場合



◀ポインター（ 、 、 ）は、[←]、[→]、[↑]、[↓]で各区分ごとに移動させることもできます。

学習機能について

学習機能とは、使用頻度の高いイラストが優先的に表示されるように、フィーリングモードでの表示順序を入れ替える機能です。一覧モード（→下記）の順番は入れ替えません。学習機能を使用する場合は、イラストメール画面で[設定]→[学習ON]をクリックしてチェックマークを付けてください。工場出荷時には学習ONに設定されています。

<表示順序を工場出荷時の状態に戻すには>
イラストメール画面で[設定]→[学習内容のリセット]をクリックしてください。ただし「学習ON」にチェックマークが付いていない状態では、「学習内容のリセット」を選ぶことができません。

一覧モードでイラストを選ぶ方法

表示モードを切り換えてイラストを一覧から選ぶこともできます。

①[表示]→[一覧モード]をクリックする。
イラストが一覧で表示されます。[次ページ][前ページ]をクリックすると、ページ単位で画面表示が切り換わります。

②好きなイラストをクリックする。または、[←]、[→]、[↑]、[↓]を使って選ぶ。
選択されたイラストは青色の枠で囲まれます。
フィーリングモードに戻したい場合は、[表示]→[フィーリングモード]をクリックしてください。

6 **［設定］をクリックし、「E-メール連携ON」にチェックマーク✓が付いていることを確認する。**

工場出荷時には、すでにチェックマークが付けられています。

◀ チェックマークが付いていない場合は、「E-メール連携ON」を選んでチェックマーク✓を付け、確認のメッセージが表示されたら[OK]をクリックしてください。

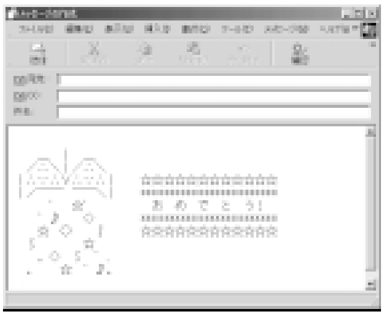
お願い

［E-メール］ボタンを使ってメールメッセージ作成用画面を起動したい場合は、必ず「E-メール連携ON」にチェックマークを付けてください。

7 **［E-メール］をクリックする。**

確認のメッセージが表示された場合は、内容を確認のうえ、[はい]をクリックしてください。
選んだイラストが挿入された状態で、メールメッセージ作成用の画面が起動します。

（例）「Outlook Express」を使用する場合



お願い

［E-メール］ボタンを使ってメールメッセージ作成用画面を起動するには、メールソフトをMAPI対応に設定しておいてください。（→86、87ページ）

◀ ［E-メール］ボタンを使用時には、メールメッセージ作成用画面に署名を自動で追加することはできません。

◀ ［コピー］をクリックすると、選んだイラストがクリップボードにコピーされます。2つ以上のイラストをメッセージに挿入する場合や、イラストを文書に貼り付ける場合などにご利用ください。

8 **宛先、メッセージ等を書き加えて、メールを送信する。**

◀ 送信のしかたなどについて詳しくは78ページをご覧ください。

テキストイラストを挿入した文書を読む

- フォントを「MSゴシック」などの等幅フォントに設定しておく必要があります。字詰めを行う「MS Pゴシック」などを使用すると、イラストがくずれる場合があります。
イラストサンプルの中に、主なメールソフトの等幅フォントの設定についての説明文を用意しています。（一覧表示モードの最後のほうにあります。）テキストイラストをはじめて読むかたには、メッセージにその説明文を挿入して送ると便利です。内容は[ヘルプ]→[イラストメールのヘルプ]の「表示フォントの設定方法」と同じです。
- 一部のメールソフトやワープロソフト、また携帯電話のメール機能では、連続するスペースを省略するなど自動的に文字列を変換するものがあります。その場合、等幅フォントに設定しても、イラストが正しく表示されないことがあります。

イラストメールを送信する

自分専用のテキストイラスト集を作る

自分で作成（変更）したイラストを登録する

1 フィーリングモードまたは一覧モードから元となるイラストを選んで（86ページ手順1〜89ページ手順5）、[登録]をクリックする。

2 イラストを編集する。

他のテキストエディター（メモ帳など）で作成したテキストイラストを登録したい場合には、いったんそのイラストをクリップボードにコピーした後、[貼り付け]を クリック



表示されているイラストを削除して、新規にイラストを作成する場合は、[クリア]を クリック

◀桁数：全角24文字、行数：10行の範囲内で編集してください。
また、半角カタカナ、ローマ数字、丸数字や一部の記号など、通常、電子メールソフトで正しく表示されない文字は使用しないでください。
送信したイラストが正しく表示されない場合があります。

3 イラストが完成したら、[次へ]をクリックする。

◀1つ前の画面に戻るには、[戻る]をクリックしてください。

◀登録操作を途中で中断して終了するには、[キャンセル]をクリックしてください。

4 「春夏秋冬」のマップ上に登録する。



① フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

② [次へ]を クリック

◀表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

使いかた　コミュニケーション

5 「喜怒哀楽」のマップ上に登録する。



1 フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

2 [次へ]を クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

6 用途別のマップ上に登録する。



1 フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

2 [次へ]を クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

7 イラストにタイトルなどを付ける。



1 「タイトル」と「製作者」を入力する。

2 [完了]を クリック

◀ 「タイトル」は全角16文字以内、「製作者」は全角8文字以内で入力してください。
◀ 最初、「製作者」にはWindowsのログイン名が表示されています。

フィーリングマップ上の指定した位置に、イラストが登録されます。
一覧モードでは、一番最後の位置に登録されます。

イラストメールを送信する

登録されているイラストを削除する

1 フィーリングモードまたは一覧モードから、削除したいイラストを選んだ状態で、[編集]→[イラスト削除]をクリックする。

2 確認メッセージが表示されるので、よければ[はい]をクリックする。

お願い

一度削除したイラストは、元に戻すことはできません。よく確認してから削除してください。

LANに接続する

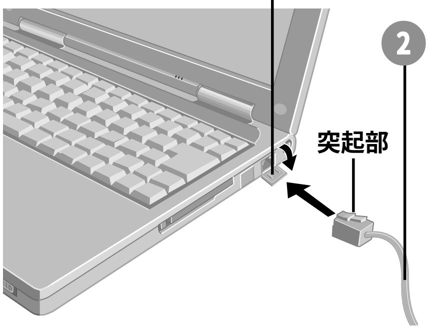
LAN(Local Area Network)とは、会社や学校など小規模な範囲で運用されるネットワーク環境をいいます。
本機はLAN機能を内蔵しているため、LANカードなどを使用することなく、ネットワークコンピューターとして使うことができます。

LANへの接続・設定を行う

工場出荷時のWindows上の設定では、LAN機能は使用できない設定になっています。以下の手順に従い、LANの設定を行ってください。

1 ケーブルを接続する。

① LANのコネクター部（品）のカバーを開ける。



② LANケーブルで本機とネットワークシステム（サーバー、HUBなど)を接続する。
突起部をコネクターの向きに合わせて、カチッと音がするまで差し込んでください。

お願い

コネクター部分にカバーが付いているLANケーブルは、接続できない場合があります。事前にご確認ください。

◀ネットワークを正常に動作させるために100 m未満のカテゴリー5のツイストペアケーブルを使用してください。

2 電源を入れてセットアップユーティリティを起動し、「内蔵LAN」を「有効」に設定する。（→122、126ページ）

◀工場出荷時は、セットアップユーティリティの「内蔵LAN」は「有効」に設定されています。

3 内蔵LANドライバーを使用可能に設定する。

① [コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]を選ぶ。

② [ネットワークアダプタ]→[Intel 8255X-based PCI Ethernet Adapter (10/100)]をダブルクリックする。

③ 「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」のチェックマークを外し、[OK]を選んで設定を終了する。

◀終了処理に多少時間がかかることがあります。

4 接続するLAN環境に合わせて、プロトコルなどの各種設定を行う。
詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

◀手順2〜3を実行しないでプロトコルの設定を行うと、プロトコルの種類によってはWindowsの起動ができなくなる場合があります。
プロトコルの設定を行う前に必ずLAN機能を使用可能に設定してください。

データ転送中の場合

スタンバイや休止状態に入ると正常に通信できません。スタンバイや休止状態には入らないでください。

LANを使用可能に設定した後、LANケーブルに接続しない場合

Windowsの起動、リジュームおよびPCカードを取り付けた後のPCカードの認識に要する時間が長くなることがあります。LANを使用しないときは、セットアップユーティリティで「内蔵LAN」を「無効」に設定しておくことをおすすめします。

内蔵LANによるリジューム機能（内蔵LAN Wake Up機能）

ネットワークサーバーからのアクセスによりスタンバイまたは休止状態のコンピューターをリジュームさせる機能です。MS-DOSモードで使用している場合は、電源オフからもリジュームすることができます。（セットアップユーティリティで「パワースイッチ」の動作を「パワーオフ」に設定し、電源スイッチをスライドして電源を切った場合のみ。）
この機能を使用するには、LANによるスタンバイまたは休止状態からのリジュームが可能なネットワーク環境が必要です。
＜使用時のお願い＞
・必ず、ACアダプターを接続し、電力の供給が可能な状態にしてください。
・LANを使用可能に設定してください。
（Windowsで使用している場合→前ページ、MS-DOSモードで使用している場合→130ページ）
・パスワードについて
ーWindowsで使用している場合、セットアップユーティリティでパスワードを設定していても、リジューム時にはパスワードの入力が要求されません。
ー[コントロールパネル]→[電源の管理]→[詳細]の「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックマークを付けないでください。
・以下の場合、LAN Wake Up機能は動作しません。
ー「Windowsの終了」画面から、または4秒間電源スイッチをスライドして電源を切った場合。
ーMS-DOSモードで使用時、パスワード入力に失敗して再度スタンバイまたは休止状態に入った場合。
・リジューム時、画面には何も表示されません。キーボードまたはスマートポインターを操作すると元の画面が表示されます。→37ページ
詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。
＜設定の方法＞
①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]をクリックする。
②[ネットワークアダプタ]の[Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)]をダブルクリックする。
③[電源の管理]をクリックし、「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」の左側の□をクリックしてチェックマークを付ける。
再度クリックしてチェックマークを外すと無効になります。

ネットワークコンピューターとして使う場合

用途に応じてその他いくつかの設定が必要となります。詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

スクリーンセーバーを使用する場合

スクリーンセーバーを使用する場合（プライベートキーをスクリーンセーバーの実行／解除に使用する場合を含む→39ページ）は、「モニタの電源を切る」を「なし」以外に設定すると、ディスプレイの電源が正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態から正常にリジュームできなかったりする場合があります。
「コントロールパネル」の「ネットワーク」でファイルやプリンターの共有を行った場合には、自動的に「コントロールパネル」の「電源設定」が「常にオン」に設定されますので、「モニタの電源を切る」を「なし」に変更してください。（→99ページ）

HUBユニットのリンクランプが点灯せず、ネットワーク機能が使えない場合

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[ネットワーク]を選ぶ。
②[Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)]をダブルクリックする。
③[詳細設定]を選ぶ。
④「プロパティ」から「Link Speed & Duplex」を選び、「値」をお使いのHUBユニットにあった通信速度に設定して[OK]をクリックする。
⑤「ネットワーク画面」で[OK]をクリックし、再起動の確認メッセージが表示されたら[はい]をクリックする。

用 語

HUBユニット　：主にネットワーク環境などで、複数のコンピューターや機器を接続するときに使われる集積装置。

インターネットの接続設定を切り換える

インターネット接続切り換えソフトウェア「クイックコネクションセレクター」を使うと、インターネットエクスプローラの接続設定を簡単に切り換えることができます。
会社ではLANに接続し、自宅ではモデムを使ってインターネット接続を行う場合など、いろいろな環境でネットワーク接続を行う場合に便利です。

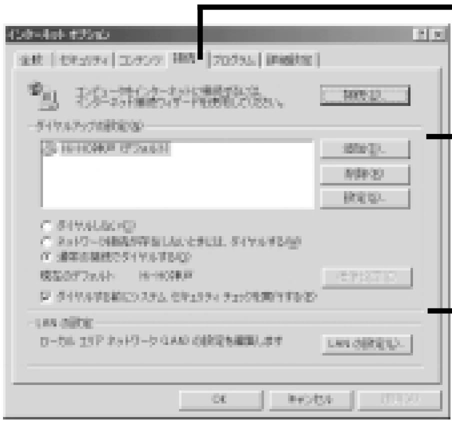
◀ Internet Explorer 5.0（工場出荷時、インストール済み）以外のブラウザーでは動作しません。

LANまたはモデムの接続設定を登録する

1 登録したい接続設定にする。

「Internet Explorer」を起動する。（→62ページ）

「ツール」メニューから「インターネットオプション」を選ぶ。



① [接続]を クリック

② 登録したい接続設定になっていることを確認する。

◀ 接続設定は、最大8つまで登録することができます。
手順*1*、*2*を繰り返してください。

お願い

「ネットワーク接続が存在しないときには、ダイヤルする」にチェックを付けないでください。クイックコネクションセレクターに登録できません。

2 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックコネクションセレクター]を クリック



[使用中の接続設定を登録]を クリック

次回から、素早く起動するために
[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックコネクションセレクター]を右ボタンでクリックし、[送る]→[デスクトップ（ショートカットを作成）]をクリックします。デスクトップ上にアイコンが作成されますので、次回からは、このアイコンをクリックして素早く起動できます。

インターネットの接続設定を切り換える



❶ 登録する設定名を入力する。

❷ [OK]を クリック



ダイヤルアップネットワーク名

[閉じる]を クリック

◀ 登録完了後、表示されているダイヤルアップネットワーク名を変更すると接続ができなくなります。

使いかた

コミュニケーション

接続設定を切り換える

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックコネクションセレクター]をクリックする。

◀ 他のアプリケーションソフトでプロキシサーバーを設定している場合、クイックコネクションセレクターを使ってモデムからLANに設定を切り換えても、うまく切り換わらない場合があります。その場合は、他のアプリケーションソフトのプロキシサーバーの設定をいったん解除してください。



❶ 切り換える接続先を選ぶ。

❷ [この設定を適用]を クリック

確認メッセージが表示されますので、[はい]を クリック



[閉じる]を クリック

省電力機能を使う

外出先などコンセントのない場所では、コンピューターをバッテリーだけで使うことが多くなります。次のようなことに注意して、バッテリーを効率よく使いましょう。

省電力機能のコツ

●使わないときは電源を切る　→取扱説明書『セットアップ編』

● Fn + F1 でディスプレイの明るさを調整（暗く）する→134ページ

● Fn + F7 でスタンバイ状態、または Fn + F10 で休止状態にしてから席を外す→36ページ
操作を再開するときは、電源スイッチをスライドしてください。

●「電源の管理」で省電力機能を設定する　→下記
しばらくの間コンピューターを放置したときに自動的にスタンバイ状態に入ったり、LCDやハードディスクドライブの電源を切ったりすることができます。

●インテル® SpeedStep™ テクノロジアプレットを使う（CF-M2Rのみ）
→ 102ページ

お願い

データの転送中などは、スタンバイや休止状態に入らないでください。（→37ページ）

◀ACアダプターとバッテリーパックの使用状態に合わせてパフォーマンスを切り換え、消費電力を抑えることができます。

「電源の管理」の省電力機能

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[電源の管理]を ダブルクリック

2 [電源設定]タブを クリック

◀タスクバーの「電源の管理」アイコン（ACアダプター接続時）または（バッテリーで使用時）を右ボタンでクリックし、「電源のプロパティの調整」をクリックしても起動することができます。

「電源設定」から選ぶ



❶ ▼をクリックして、「ホーム/オフィスデスク」「ポータブル/ラップトップ」「常にオン」の中から選択します。

❷ [OK]を クリック

◀CF-M2Rには、[Intel(R) Speed Step(TM)テクノロジ]タブがあります。（→102ページ）

◀工場出荷時は「ポータブル／ラップトップ」に設定されています。

お願い

システムスタンバイなどのタイムアウト機能の設定を変更した後、再度、工場出荷時の設定に戻す場合は、次ページを参照して設定しなおしてください。

プライベートキー・スターターを使ってプライベートキーの設定を行った場合
「モニタの電源を切る」を「なし」に変更した「プライベートキー用の設定」が、電源設定に追加されます。

省電力機能を使う

「電源設定」の工場出荷時の設定は以下のとおりです。

- 「ポータブル／ラップトップ」

項目	電源に接続	バッテリーを使用中
システムスタンバイ	なし	5分後
モニタの電源を切る	15分後	2分後
ハードディスクの電源を切る	15分後	3分後

お願い

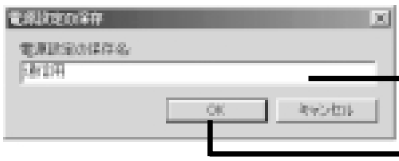
「コントロールパネル」の「画面」でスクリーンセーバーを設定する場合（プライベートキーをスクリーンセーバーの実行/解除に使用するときを含む）は、「モニタの電源を切る」を「なし」に設定してください。「なし」以外に設定すると、ディスプレイの電源が正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態から正常にリジュームできなかったりする場合があります。

「電源設定」を追加する

「電源設定」を追加して、タイムアウト機能を新しく設定することができます。



クリック



1 名前を入力する。

2 [OK]を クリック

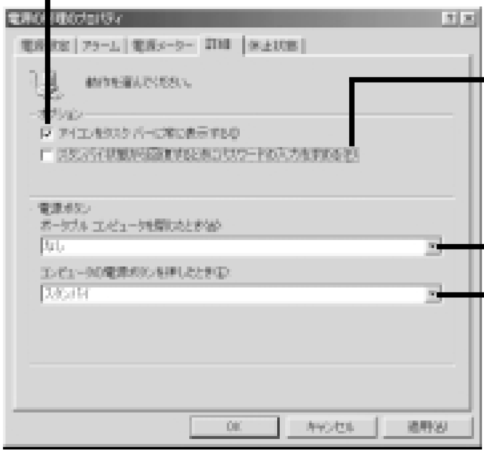


1 各タイムアウト機能を設定する

2 [OK]を クリック

「詳細」画面

左側の□にチェックマークを付けると、タスクバーに「電源の管理」アイコンが表示されます。



左側の□にチェックマークを付けると、スタンバイおよび休止状態からのリジューム時にパスワード入力が要求されます。（→37ページ）

→11、36ページ

→36ページ

◀「電源の管理のプロパティ」の「詳細」タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

◀工場出荷時には、表示するように設定されています。

◀工場出荷時には、設定されていません。

各タイムアウト機能について

＜システムスタンバイ＞
コンピューターを放置してから、設定した時間後に、メモリー以外のすべての電源を切ります。操作を再開するときは、電源スイッチをスライドしてください。

＜モニタの電源を切る＞
コンピューターを放置してから、設定した時間後に、ディスプレイの電源を切ります。ディスプレイの電源を入れるときは、キーボードやマウスを操作してください。

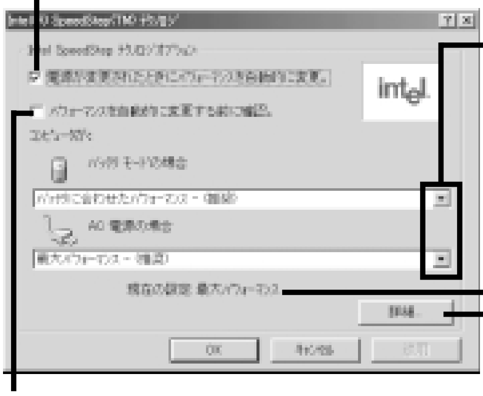
＜ハードディスクの電源を切る＞
コンピューターを放置してから、設定した時間後に、ハードディスクの電源を切ります。ハードディスクの電源を入れるときは、ハードディスクへのアクセスが必要です。

インテル®SpeedStep™テクノロジアプレット*（CF-M2Rのみ）

インテル®SpeedStep™テクノロジアプレット*を使用すると、ACアダプター接続時とバッテリーパックのみで使用時とでパフォーマンスを自動的に切り換え、消費電力を抑えることができます。

1 タスクバーのをダブルクリックする。

ACアダプター接続時とバッテリーパックのみで使用時とで自動的にパフォーマンス（バッテリモードの場合⇔AC電源の場合）を切り換える場合は、ここにチェックマークを付けます。



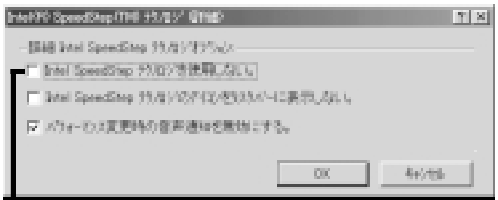
をクリックし、パフォーマンスの種類を設定します。

現在、採用されている設定が表示されます。

クリックすると下記の「詳細」画面が表示されます。

パフォーマンスを自動的に切り換えるときに確認メッセージを表示させたい場合は、ここにチェックマークを付けます。

＜「詳細」画面＞



ここにチェックマークを付けると、アプレットの設定画面からはパフォーマンスの設定ができなくなります。パフォーマンスの種類の設定は、セットアップユーティリティの「省電力」メニューの「インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」から行うことができます。ただし、ACアダプターの抜き差しにより自動的にパフォーマンス（バッテリモードの場合⇔AC電源の場合）を切り換える機能は働きません。

2 各項目を設定後、[OK]をクリックする。

*以降、アプレットと表記します。

◀アプレットの設定はセットアップユーティリティの「省電力」メニューの「インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」の設定と連動しています。（→下記）

◀現在の設定に従ってアイコンの形が異なります。
最大パフォーマンス
バッテリに合わせたパフォーマンス

その他の起動方法
- を右クリックして[プロパティ]をクリックします。
- [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[電源の管理]で[インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ]タブを選択します。

◀「パフォーマンス変更時の音声通知を無効にする」のチェックマークを外していても、キーボードによる操作や「ボリュームコントロール」画面でミュートになっている場合には、音声通知が聞こえません。

セットアップユーティリティの「省電力」メニューの「インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」との対応

Intel®SpeedStep™テクノロジアプレット		セットアップユーティリティ
バッテリモードの場合	AC電源の場合	Intel(R)SpeedStep(TM)テクノロジ
バッテリに合せたパフォーマンス	最大パフォーマンス	自動設定
最大パフォーマンス	最大パフォーマンス	常に最大速
バッテリに合わせたパフォーマンス	バッテリに合わせたパフォーマンス	常に省電力

セットアップユーティリティの「インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」を変更すると（→130ページ）、上記対応表に従って、アプレットの設定が変更されます。また、アプレットの設定を変更してもセットアップユーティリティの「インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ」の設定が変更されます。
アプレット設定で「バッテリモードの場合」を「最大パフォーマンス」に設定し、「AC電源の場合」を「バッテリに合わせたパフォーマンス」に設定した場合（セットアップユーティリティには対応する設定なし）は、コンピューターを再起動すると、その一つ前に設定した状態に戻ります。

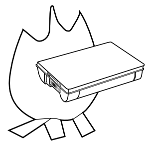
バッテリーパックを使う

ここでは、バッテリーパックの取り扱いについての注意事項や取り付けかた、充電のしかたなどについて説明します。

バッテリーパックに関する注意 ⚠**危険**

火中に投入したり加熱したりしない

禁止



発熱･発火･破裂の原因になります。

ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしない

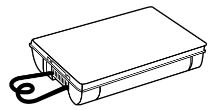
禁止



発熱･発火･破裂の原因になります。

プラス(＋)とマイナス(－)を金属などで接触させない

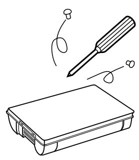
禁止



発熱･発火･破裂の原因になります。

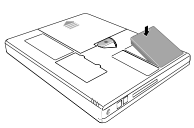
クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解･改造をしたりしない

禁止



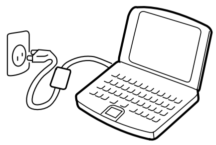
発熱･発火･破裂の原因になります。

付属の充電式電池は、必ず本機で使用する



CF-M2シリーズ専用の充電式電池です。本機以外に使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

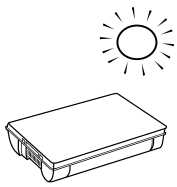
指定された方法で充電する



取扱説明書に記載された方法で充電しないと、発熱･発火･破裂の原因になります。

火のそばや炎天下など、高温の場所で充電･使用･放置をしない

禁止



発熱･発火･破裂の原因になります。

取り扱い上のお願い

- 交換用のバッテリーパックをポケットやカバンに入れて持ち運ぶときは、端子部分がショートするのを防ぐために、ビニール袋に入れることをお薦めします。
- 水などで濡らさないでください。端子がさびる原因となります。
- 端子部分には触れないでください。端子が汚れると、接触が悪くなったり十分に充電できなかったりすることがあります。
- 万一、破損によって電解液が流出し、皮膚や衣服についた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。もし、身体に異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

使用温度についての留意点

- 使用環境温度5 ℃～35 ℃の範囲で操作してください。
  使用環境温度が低い場合、バッテリーの稼働時間が短くなります。
- 通常の使用時にあたたかくなることがありますが、異常ではありません。

バッテリーパックを使う

取り付けかた/取り外しかた

本機で使用できるバッテリーパックは、付属のバッテリーパックと以下の別売りのバッテリーパックです。
別売りバッテリーパック
・標準バッテリーパック　：品番　CF-VZSU16J**（同等品が付属）**
・拡張バッテリーパック　：品番　CF-VZSM2J

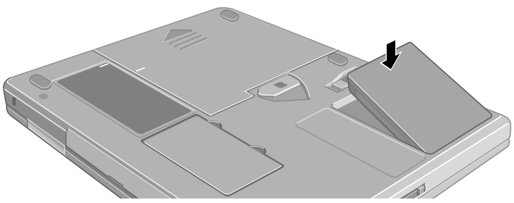
1 **操作を終わり、電源が切れたことを確認してACアダプターを取り外す。**

2 **本体を裏返す。**

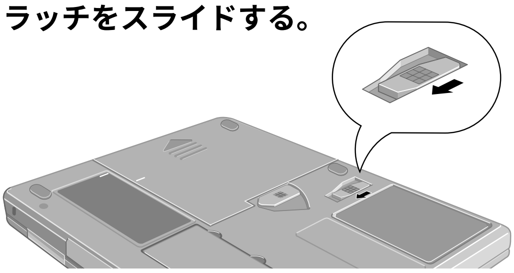
3 **バッテリーパックを取り付ける／取り外す。**
<取り付ける場合>

●標準バッテリーパック

① **標準バッテリーパックをコネクターのない側から挿入し、カチッと音がするまで矢印の方向に軽く押し込む。**



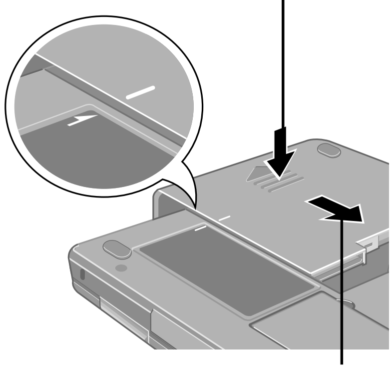
② **ラッチをスライドする。**



●拡張バッテリーパック（別売り）

① CD-ROM**ドライブまたは**CD-R/RW**ドライブを取り外す。****（→111ページ）**

② **拡張バッテリーパック上の目印と本体側の線が合うようにバッテリーパックを置く。**



③ **カチッと音がするまで矢印の方向にしっかりと差し込む。**

お願い

指定のバッテリーパック以外は使用しないでください。

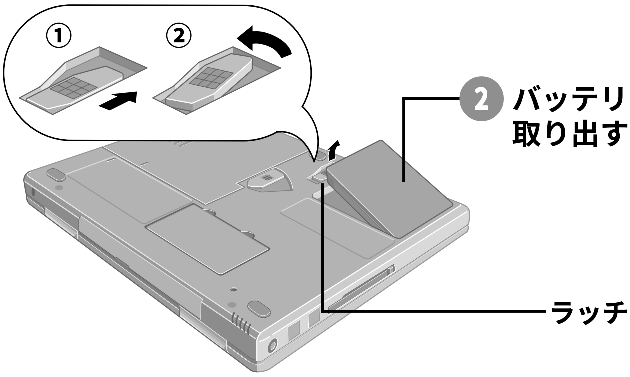
お願い

- BaySwap**機能（→111ページ）を使用しない場合や**MS-DOS**上で**CD-ROM**ドライブまたは**CD-R/RW**ドライブを取り外す場合は、必ず電源を切ってから行ってください。**
- **スタンバイや休止状態で**CD-ROM**ドライブまたは**CD-R/RW**ドライブを取り外さないでください。**

<取り外す場合>

●標準バッテリーパック

❶ **ラッチを矢印①②の方向にスライドする。**
(バッテリーパックの先端が少し浮き上がります。)

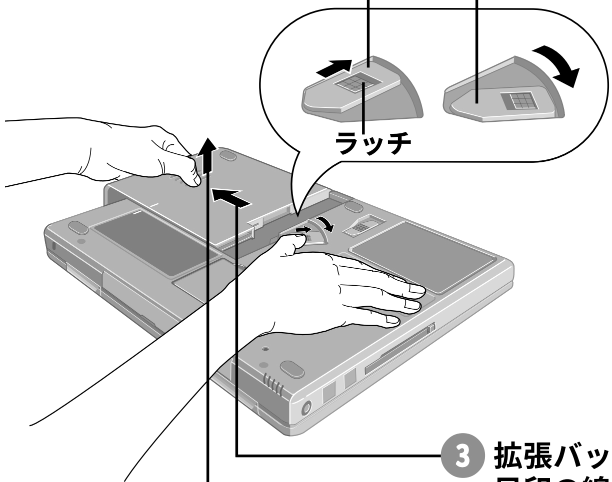


❷ **バッテリーパックを取り出す。**

●拡張バッテリーパック(別売り)

❶ **ラッチを矢印方向にスライドする。**

❷ **レバーを約30°回転させる。**



❸ **拡張バッテリーパックを目印の線まで引き出す。**

❹ **拡張バッテリーを持ち上げて取り出す。**

不要になった充電式電池(バッテリーパック)は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

Li-ion

使用済み充電式電池(バッテリーパック)の届け先

- **お買い上げの販売店、または最寄りの充電式電池リサイクル協力店へ。詳しくは、社団法人電池工業会にご確認ください。**
  電話:03-3434-0261
  ホームページ:http://www.baj.or.jp/

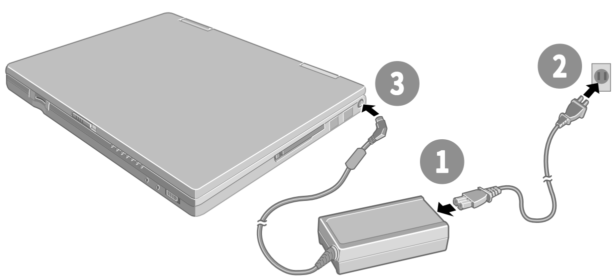
お願い

拡張バッテリーパックを取り外した後はCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブまたはウェイトセーバーを取り付けておいてください。取り付け/取り外しの方法は拡張バッテリーパックと同じです。
何も取り付けられていないときに上から強い力をかけないでください。

充電のしかた

付属の標準バッテリーパックは、工場出荷時には充電されていません。コンピューター本体にバッテリーパックを取り付けた状態でACアダプターを接続すると、自動的に充電が始まります。

1 ACアダプターを接続する。

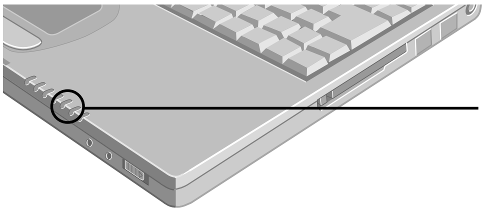


◀**標準バッテリーパックと拡張バッテリーパックの両方を取り付けている場合は、標準バッテリーパックから先に充電されます。**

◀**ACアダプターを取り外す場合は、❸→❷→❶の手順で行ってください。**

バッテリーパックを使う

2 充電状態を確認する。



◀充電が完了するとバッテリー状態表示ランプが緑色に点灯します。
標準バッテリーパック：A側
拡張バッテリーパック：B側

＜充電時間＞

		標準	標準＋拡張*1
電源	入	約2.5 時間	約5.7時間
	切	約2.5 時間	約5.7時間

＜稼働時間＞

	標準	標準＋拡張*1
CF-M2C	約1.6時間	約6.3時間
CF-M2R	約1.7時間	約6.9時間

充電時間
使用条件により長くかかることがあります。（低温の場合など）
また、左記の電源入時の充電時間は、最短の場合です。コンピューターの動作状態により変わります。

稼働時間
左記はLCDバックライト輝度最低時の稼動時間です。稼動時間はその他使用条件によって異なります。

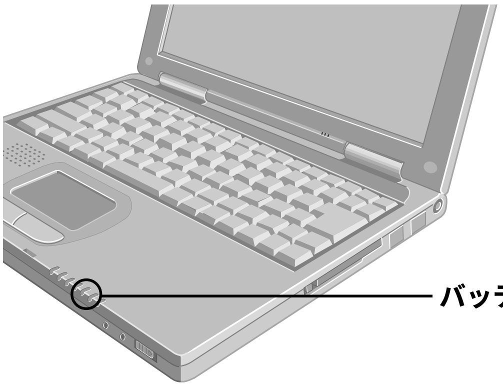
*1 標準バッテリーパックが満充電状態なったら、拡張バッテリーパックの充電が始まります。放電は拡張バッテリーパック→標準バッテリーパックの順に行われます。

充電についてのお願い

- 長期間（約1か月以上）使わない場合は、バッテリーパックの性能維持のため、30％〜40％程度の充電状態でコンピューターから取り外し、冷暗所に保管してください。
- バッテリーパックを長期間放置していた場合は、使用前に必ず充電してください。この場合、通常の時間で充電が終了しないことがありますが、故障ではありません。
- 本機では過充電を防ぐため、一度、100％になったあとは、満充電に近い状態では再充電できないようになっています。電池残量が90％前後になるまで放電してから充電するようにしてください。
- バッテリーパックは消耗品です。バッテリーの駆動時間が著しく短くなり、充電を何度繰り返しても性能が回復しない場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいものと交換してください。
- 使用環境温度（5 ℃〜35 ℃）の範囲内で充電してください。使用環境温度の範囲外では、また、使用環境温度の範囲内であっても、使用条件によりバッテリーパックの温度が高温あるいは低温になりすぎているときには、充電できないことがあります。（このとき、バッテリー状態表示ランプはオレンジ色に点滅します。）このようなときは、室温を調節したり、しばらくコンピューターの使用を控えるなどしてください。バッテリーパックの温度が範囲内に戻ると、自動的に充電が始まります。
- 充電中、バッテリー状態表示ランプが赤色に点滅した場合は、内部の保護回路が働き、充電が中止された可能性があります。このような場合は、いったん、ACアダプターとバッテリーパックを本体から取り外し、再度、取り付けてください。また、このような現象が繰り返し起こる場合は、故障ということが考えられますので、お買い上げの販売店、または「ご相談窓口」にご相談ください。
- 次のような場合、バッテリーパックから微量の電流が放電されます。そのため、電池残量が多少減っていることがあります。
  ACアダプターを接続してコンピューターを使用中
  - バッテリーパック（標準、拡張）が満充電に近い状態のため、充電が行われていないとき
  - 拡張バッテリーパックが充電待ち状態のとき

  拡張バッテリーパックでコンピューターを使用中のため、標準バッテリーパックから放電されていないとき

バッテリー状態表示ランプについて



- 標準バッテリーパック：A側
- 拡張バッテリーパック：B側
- 標準バッテリーパックと別売りの拡張バッテリーパックの両方を取り付けている場合は、標準バッテリーパックから先に充電されます。標準バッテリーパックが満充電状態になったら、拡張バッテリーパックの充電が始まります。（ただし、放電は拡張バッテリーパック→標準バッテリーパックの順に行われます。）

バッテリー状態表示ランプの状態	充電状態
オレンジ色に点灯	充電中
緑色に点灯	充電完了
赤色に点灯（同時にアラーム音が鳴ります。）	バッテリー残量なし 充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。 充電せずに電源を入れたままにしておくと、スタンバイ状態などに入ります。（[コントロールパネル]→[電源の管理]→[アラーム]の設定により、動作は異なります。）
オレンジ色に点滅	充電できない ・バッテリーパックの温度が使用環境温度の範囲外にあるため、充電できない可能性があります。充電可能な温度に戻してから、再度、充電を始めてください。 ・消費電力が大きすぎると、充電できなくなる場合があります。消費電力の大きい周辺機器（コンピューター本体から電源供給されるCD-ROMドライブなど）を使用している場合には、それらの周辺機器の使用を控えるなどしてください。
赤色に点滅	バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。再度正しく装着し直してください。それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
消灯	バッテリーパックが装着されていません。あるいはACアダプターが接続されていません。 また、ランプBは拡張バッテリーパックの充電待ち状態（標準バッテリーパックの充電中）にも消灯します。

バッテリーパックを使う

バッテリー残量の確認

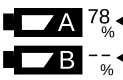
バッテリーのみで使用することが多い場合、こまめに残量確認するようにしてください。バッテリー残量が少なくなったら、ACアダプターを接続してください。
バッテリー残量を確認するには、以下の4つの方法があります。

- キー操作（Fn + F9）で確認する。
- 電源メーターで確認する。
- アラームで確認する。
- バッテリー状態表示ランプで確認する。

◀電源が切れている状態でも、約60 mWの電力を消費します。標準バッテリーパックの場合、満充電していても約2週間でバッテリー残量がなくなります。

キー操作(Fn＋F9)による残量確認

電源が入っている状態で Fn キーを押しながら F9 キーを押している間、画面上にバッテリーの残量を示すアイコンが表示されます。

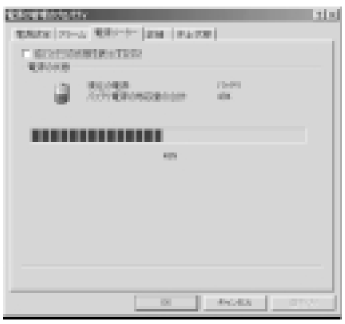


← 標準バッテリーパックの残量
← 拡張バッテリーパックの残量

◀バッテリーパックが装着されていない場合は、「- -%」と表示されます。左記は、拡張バッテリーパックが装着されていない時の一例です。
◀数値と、実際の残量は多少異なる場合があります。
◀本機のバッテリーパックは、残量補正機能を持っています。そのため、急に残量表示が変化することがあります。
残量補正機能とは
使用環境などの影響により、不正確になった残量表示を正確な値に戻す機能をいいます。

電源メーターによる残量確認

[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「電源メーター」をクリックして確認することができます。



◀バッテリーパックを2つ取り付けている場合は、全容量に対する残量が表示されます。
「各バッテリの状態を表示する」にチェックマークを付けると、標準バッテリーパックと拡張バッテリーパックのそれぞれの残量を確認することができます。
◀CF-M2Rには、[Intel(R) Speed Step(TM)テクノロジ]タブがあります。（→102ページ）

アラームによる残量確認

アラーム機能により確認することもできます。
[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「アラーム」をクリックして設定します。



◀ Fn + F4 や Fn + F5 のキー操作で音量をミュートしている場合、アラームは鳴りません。

＜バッテリ低下アラーム＞

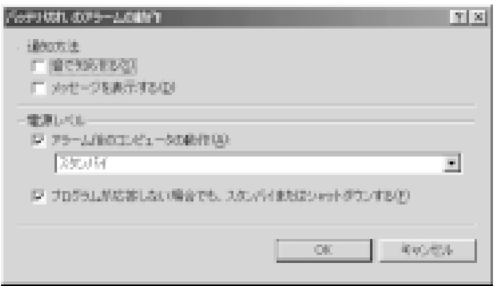
バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリーの低下をアラームで知らせるよう設定します。「電源レベルが次に達したらバッテリ低下アラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は設定されていません。

アラームが鳴ったら
充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。

＜バッテリ切れアラーム＞

バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリー切れをアラームで知らせるよう設定します。
「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「5 %」に設定されています。

また、「アラーム動作」ボタンをクリックすると、「通知方法」と「電源レベル」を設定することができます。



通知方法　「音で知らせる」「メッセージを表示する」から選択します。工場出荷時は設定されていません。

電源レベル　工場出荷時は、「バッテリ低下アラーム」ではこの機能は設定されていません。「バッテリ切れアラーム」では「スタンバイ」に設定されています。

お願い

「通知方法」の「メッセージを表示する」にチェックマークを付けないでください。リジュームできない場合があります。

「アラーム後のコンピュータの動作」を設定した場合は
- 「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」の左側の□にチェックマークを付けておいてください。
- この機能により、コンピューターがシャットダウン、休止状態またはスタンバイ状態になったときは、ACアダプターを接続してください。ACアダプターを接続せずに起動およびリジュームすると、Windowsが正常に動作しなかったり、以降アラーム動作が働かなくなる場合があります。

バッテリー容量を正確に表示させるために

本機のバッテリーパックには、バッテリー容量を計測し、記憶・学習するための機能があります。この機能を正しく働かせて、バッテリー残量を正確に表示させるため、以下の手順に従って、満充電→完全放電→満充電の操作を行ってください。
この操作は、お買い上げ後、一度は行っておいてください。また、長くバッテリーパックをお使いの間には、バッテリーパックの劣化などにより残量が正確に表示されなくなる場合があります。その場合も、再度、この操作を行ってください。

◀標準バッテリーパックと別売りの拡張バッテリーパックの両方を装着しておくことができます。その他の周辺機器はすべて取り外しておいてください。

1 **バッテリーパック装着後、ACアダプターを接続する。**
充電が始まります。

お願い
下記手順2の操作が完了し、バッテリー状態表示ランプが緑色になるまでは、ACアダプターを取り外さないでください。バッテリー容量を正しく計測できなくなります。

◀拡張バッテリーパック装着時にはバッテリー状態表示ランプA（標準）の後にB（拡張）が点灯します。両方のランプが点灯していることを確認してください。

2 **バッテリー状態表示ランプが緑色になったら、放電ツールを実行する。**

1. [スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[MS-DOSモードで再起動する]を選んで[OK]をクリックする。
2. MS-DOSのプロンプト（C:\WINDOWS>）に続けて、以下のように入力して放電ツールを実行する。
   battref2 /g Enter
3. 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。
   この後、以下のように自動的に処理が流れます。

バッテリー状態表示ランプが消灯する
↓
バッテリー状態表示ランプが赤点灯する
↓
自動的にコンピューターの電源が切れる
↓
充電が始まる
バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点灯したらコンピューターの電源を入れて使用できます。

お願い
- 放電ツール実行後、自動的に電源が切れるまではコンピューターを操作しないでください。
  - 標準バッテリーパックのみ　約1時間
  - 拡張バッテリーパックのみ　約3時間
  - 標準＋拡張バッテリーパック　約4時間
- 充電開始時、バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点滅した場合は、「充電についてのお願い」（→106ページ）をご覧ください。

◀拡張バッテリーパック装着時には、標準バッテリーから先に充電され、標準バッテリーパックが満充電になったら、拡張バッテリーパックの充電が始まります。

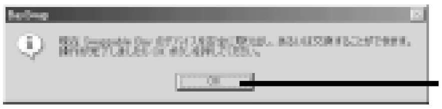
周辺機器を拡張する

ここでは、CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブ、USB機器（フロッピーディスクドライブなど）および別売りの周辺機器（I/Oボックス、外部ディスプレイ、プリンターなど）の接続のしかた、PCカード、CFカードのセットのしかたなどについて説明します。

CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブの取り付け/取り外し

BaySwap機能を使うと、Windowsが起動している状態で電源を切らずにCD-ROMドライブやCD-R/RWドライブの取り付け/取り外しを行うことができます。

1 タスクバーの を左ボタンでクリックし、[Swappable Bayのデバイス（IDE）の交換]を クリック



下記手順2、3を終了してから、[OK]をクリックしてください。

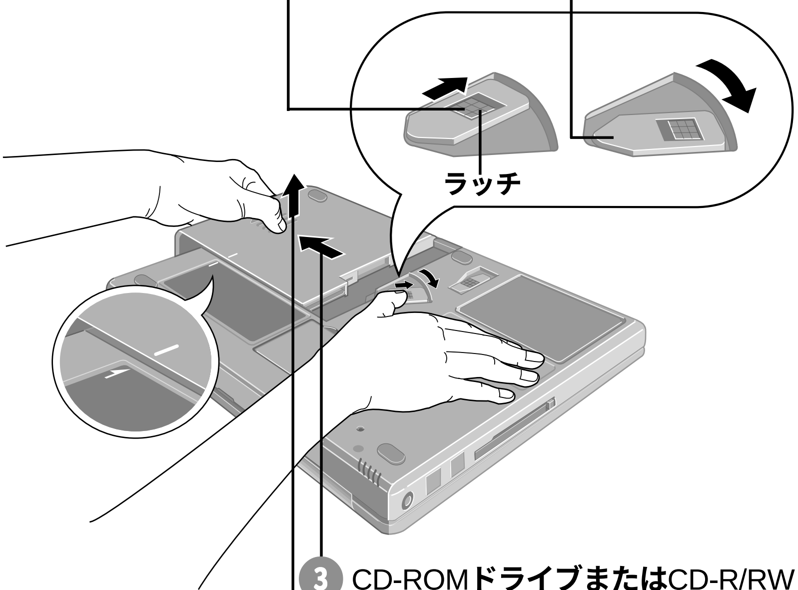
2 ディスプレイを閉じて、本体を裏返す。

3 CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを取り外す/取り付ける。

＜取り外す場合＞

① ラッチを矢印方向にスライドする。

② レバーを約30°回転させる。



③ CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを目印まで引き出す。

④ CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを持ち上げて取り出す。

次ページに続く

お願い

- BaySwap機能を使用しない場合やMS-DOS上でCD-ROMドライブやCD-R/RWドライブの取り付け/取り外しを行う場合は、必ず電源を切ってから行ってください。
- スタンバイや休止状態ではCD-ROMドライブやCD-R/RWドライブの取り付け/取り外しを行わないでください。

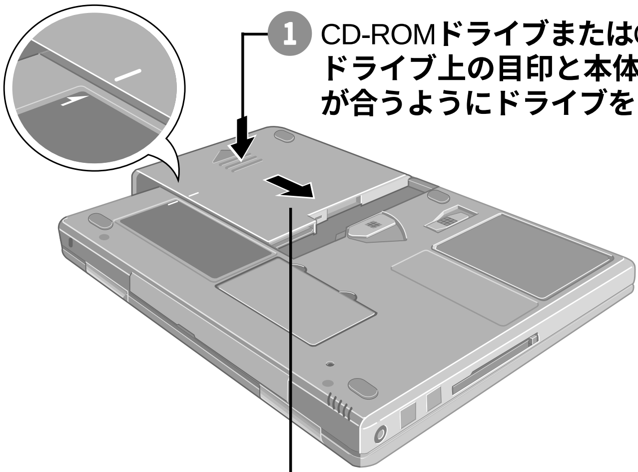
◀ 左の画面が表示されているとき、スタンバイや休止状態に入ることはできません。

お願い

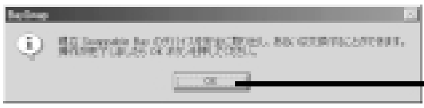
- CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブのコネクター部に手を触れないでください。
- 何も取り付けられていないときに上から強い力をかけないでください。
- CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブを取り外した後はウェイトセーバーまたは拡張バッテリーパック（別売）を取り付けておいてください。取り付け/取り外しの方法はCD-ROMドライブやCD-R/RWドライブと同じです。

周辺機器を拡張する

<取り付ける場合>



4 **本体を表に返し、ディスプレイを開ける。**



◀ピポという音（下記）がしたら、CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブが使用できます。

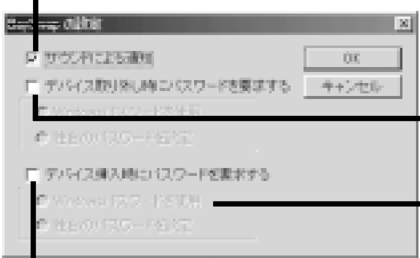
タスクバーにが表示されない場合

タスクバーのをクリックしてプルダウンメニューを表示している状態で、スマートポインターでアクティブウィンドウの終了操作を行ったり、Alt ＋ F4 を押したりすると、タスクバー上からが消えてBaySwapが終了します。再起動すると元に戻ります。

「BaySwapの設定」を変更するには

タスクバーのを右ボタンでクリックし、［BaySwapの設定］をクリックすると以下の画面が表示され、パスワードの設定などを行うことができます。

チェックを外すと音はしません。
また、キーボードによる操作や「ボリュームコントロール」画面でミュートになっている場合も音はしません。



チェックを付けると、CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブを取り外すときにパスワードの入力が要求されます。

「Windowsパスワードを使用」を選んだ場合は、「コントロールパネル」の「ネットワーク」で「Microsoftネットワーククライアント」を削除しないでください。削除すると、パスワード機能が正常に動作しません。

チェックを付けると、CD-ROMドライブやCD-R/RWドライブを取り付けるときにパスワードの入力が要求されます。

USB機器（フロッピーディスクドライブなど）を使う

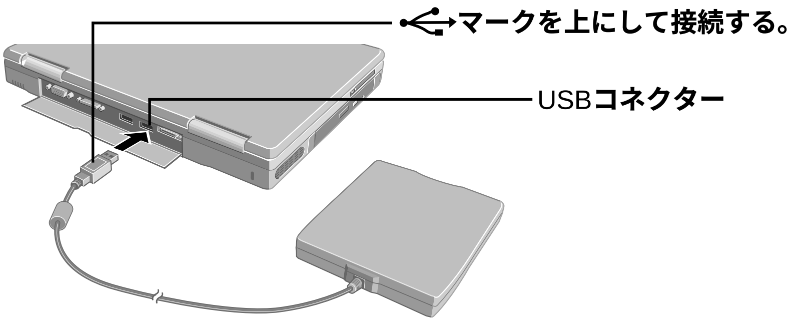
付属のフロッピーディスクやプリンター、イメージスキャナーなどUSB対応のいろいろな周辺機器を使用することができます。

◀USB機器の取扱説明書もご覧ください。

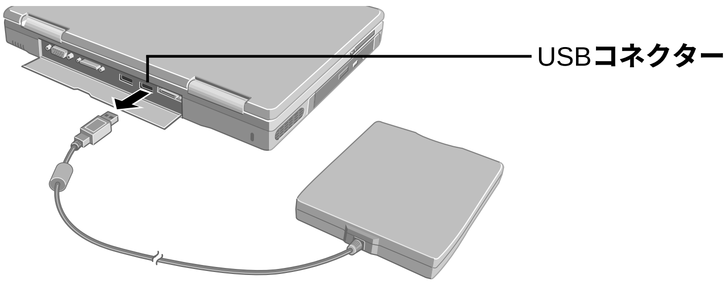
フロッピーディスクドライブの取り付け/取り外し

付属のフロッピーディスクドライブ(外部FDD：CF-VFDU03)をご使用ください。

<取り付ける場合>



<取り外す場合>



◀ドライバーをインストールする必要はありません。

◀USB機器は本体の電源を切らなくても取り付け/取り外しができます。

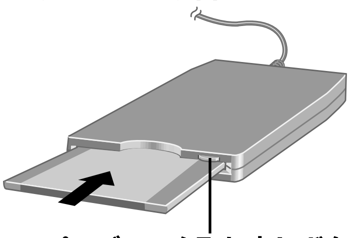
◀フロッピーディスクドライブを取り付けると[マイコンピュータ]に（A:）が表示されます。
また、フロッピーディスクドライブを取り外すと、（A:）は表示されなくなります。

お願い

- MS-DOSモードでお使いの場合は、セットアップユーティリティで「レガシーUSB」を「有効」に設定しておいてください。（工場出荷時は「有効」に設定されています。→126ページ）また、スタンバイ・休止状態に入らないでください。
- 同時に2つのフロッピーディスクドライブを使用することはできません。

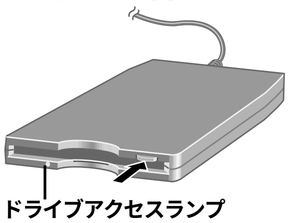
フロッピーディスクのセット／取り出し

<セットする場合>



フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入する。

<取り出す場合>



ドライブアクセスランプが点灯していないことを確認した後、取り出しボタンを押す。

お願い

- ドライブアクセスランプ点灯中はフロッピーディスクを取り出したり、フロッピーディスクドライブを取り外したりしないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れる恐れがあります。
- フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときや保管しておくときには、必ず、フロッピーディスクは取り出してください。

使用できるフロッピーディスクの種類と記録容量

フロッピーディスクには「2HD」と「2DD」の２種類があります。それぞれの記憶容量は次のとおりです。

2HD: 1.44 Mバイト/1.2 Mバイト
2DD: 720 Kバイト

用 語

読み出し：フロッピーディスクのデータを本体のメモリー上に送ることを「読み出し」といいます。
書き込み：メモリー上のデータをフロッピーディスクに送り、記録することを「書き込み」といいます。
フォーマット：新しいディスクは、磁気的に区画整理する必要があります。この作業を「フォーマット」(初期化)といいます。

周辺機器を拡張する

I/Oボックスを使う

プリンターや外部マウスなどを接続するときは、まず、別売りのI/Oボックス（→154ページ）を本体に取り付けてください。

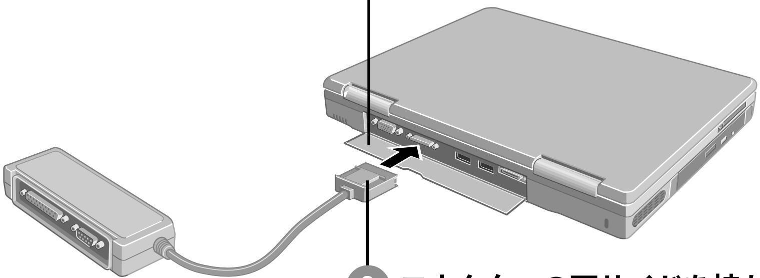
1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

2 I/Oボックスを取り付ける／取り外す。

＜取り付ける場合＞

❶ 背面のカバーを開ける。

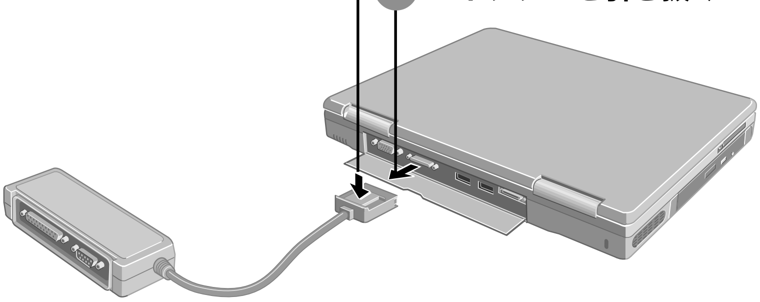


❷ コネクターの両サイドを持ち、「PUSH」と書かれた面を上にして両側のロックがかかるまで差し込む。

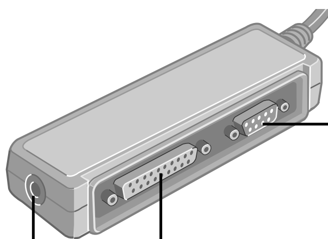
＜取り外す場合＞

❶ 「PUSH」の部分を押しながら

❷ コネクターを引き抜く



3 各周辺機器を接続する。



シリアルコネクター

シリアルマウスやターミナルアダプターなどを接続します。
「コントロールパネル」の「ハードウェアの追加」で、必要なドライバーをインストールしてください。

パラレルコネクター

プリンターなどを接続します。

マウス/外部キーボード端子

PS/2タイプのマウス、外部キーボードを接続します。

◀各周辺機器の設定・準備などについては、各周辺機器に付属の説明書をお読みください。

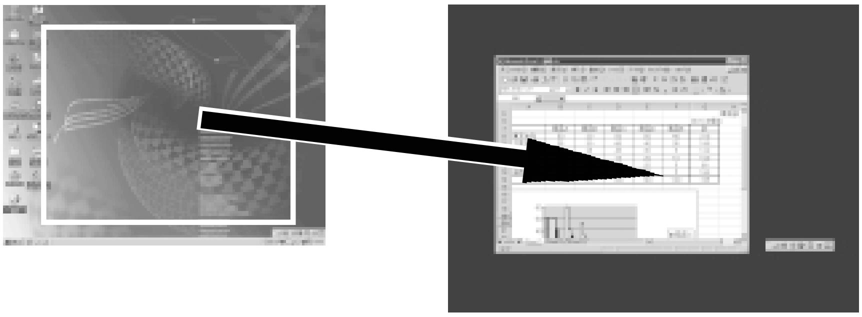
マウスとスマートポインターを併用する場合
マウスまたはドライバーの種類によっては、マウスやスマートポインターが正しく動作しない場合があります。

インテリマウス™とスマートポインターを併用する場合
インテリマウスのホイールスクロール機能は使用できません。ホイールスクロール機能を使用する場合はセットアップユーティリティの「メイン」メニューで「スマートポインター」を[無効]に設定してください。ただし、スマートポインターは使用できなくなります。

デュアルディスプレイモードを使う

別売りの外部ディスプレイを接続している場合、デュアルディスプレイモードを使うと内部LCDと外部ディスプレイを連続した表示領域として使うことができます。

内部LCD　　　　外部ディスプレイ



内部LCDから外部ディスプレイにウィンドウのドラッグ移動ができます。
（上記はサンプル画面です。実際の画面と異なる場合があります。）

◀アプリケーションソフトによっては、デュアルディスプレイモードを使用できない場合があります。

デュアルディスプレイモードを設定する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[画面]をダブルクリックする。

2 ① [設定]→[詳細]→[NeoMagic]を クリック



② 「デュアルディスプレイ設定」にチェックマークを付ける

③ [OK]を クリック

3 コンピューターを再起動する。

「Windowsを再起動して変更が効果を表すようにします...」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックしてください。

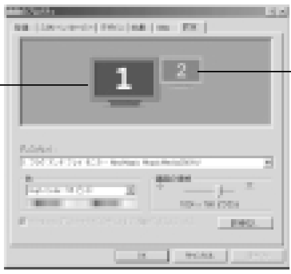
再起動後、デュアルディスプレモードにならない場合
[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で外部ディスプレイ[2]を右ボタンでクリックし、「使用可能」メニューにチェックマークを付けて[適用]をクリックしてください。

4 画像の領域・色数を設定する。

[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で設定します。
内部LCDと外部ディスプレイにはそれぞれモニター番号が付けられています。内部LCD[1]と外部ディスプレイ[2]をクリックし、それぞれに対して画面領域・色数を指定してください。

画面領域・色数について
→117ページ

[1]：内部LCD



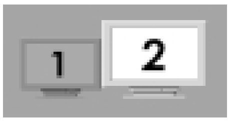
[2]：外部ディスプレイ

5 拡張表示位置を設定する。

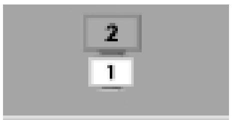
モニター番号をドラッグ＆ドロップし、実際の外部ディスプレイの配置位置にあわせると、操作がしやすくなります。

外部ディスプレイの配置例：

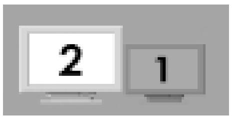
右側に配置する場合



後側に配置する場合



左側に配置する場合



6 [OK]をクリックする。

モニター番号を確認するには

画面のプロパティのモニター番号をクリックしたままにしておくと、その番号に対応したモニター側に下のように番号が表示されます。



使いかた

拡張

デュアルディスプレイモードを設定すると

・最大化ボタンをクリックするとどちらか一方のディスプレイに最大表示されます。
・最大化したウィンドウをもう一方のディスプレイに移動することはできません。
・デュアルディスプレイモードを設定しても、電源を切った状態で外部ディスプレイを取り外し、起動するとデュアルディスプレイモードは自動的に解除されます。
・デュアルディスプレイモードを使うと、各種アプリケーションソフト（インターネットエクスプローラなど）のスクロール速度が少し遅くなります。

起動アプリケーションソフトが画面に表示されないとき

アプリケーションソフトが外部ディスプレイ（モニター２）にある状態、または外部ディスプレイでそのアプリケーションソフトを終了したあとで、拡張表示位置を変更したりデュアルディスプレイモードを終了したりすると、次回、起動したアプリケーションソフトが画面に表示されない場合があります。

＜拡張表示位置を変更したあと、表示されなくなった場合＞

起動したアプリケーションソフトは変更前の拡張表示位置に表示されています。
いったん、拡張表示位置を変更前の状態に戻してから、アプリケーションソフトを内部LCD（モニター１）に移動したあと、拡張表示位置を変更してください。

＜デュアルディスプレイモードを終了したら、表示されなくなった場合＞

起動したアプリケーションソフトは外部ディスプレイ（モニター２）に表示されています。再度、デュアルディスプレイモードに設定し、アプリケーションソフトを外部ディスプレイ（モニター２）から内部LCD（モニター１）に移動した後、デュアルディスプレイモードを終了してください。

壁紙、アイコン位置がずれるとき

壁紙：　　壁紙を設定しなおしてください。
アイコン：アイコンの自動整列を実行してください。

次ページ下部につづく

画面領域・色数について

デュアルディスプレイモードで設定できる画面領域・色数の組み合わせは以下のとおりです。

内蔵LCD		外部ディスプレイ 256色		
		640×480	800×600	1024×768
640×480	256色	○	○	○
640×480	High Color	○	○	○
640×480	True Color	○	○	○
800×600	256色	○	○	○
800×600	High Color	○	○	○
800×600	True Color	○	○	○
1024×768	256色	○	○	○
1024×768	High Color	○	○	-
1280×1024	256色	○	○	○

内蔵LCD		外部ディスプレイ 65,536色(High Color)		
		640×480	800×600	1024×768
640×480	256色*1	-	-	-
640×480	High Color	○	○	○
640×480	True Color	○	○	-
800×600	256色*1	-	-	-
800×600	High Color	○	○	-
800×600	True Color	○	-	-
1024×768	256色*1	-	-	-
1024×768	High Color	○	-	-

*1選択できますが外部ディスプレイの色数は256色になります。

色数について

High Color：65,536色

True Color：約1,600万色

使いかた

拡張

プライベートキーでスクリーンセーバーを解除できない

プライベートキーで解除できるように設定していても（→38ページ）、スクリーンセーバーの種類によっては、プライベートキーでは解除できない場合があります。その場合は、キーやスマートポインターなどを操作し、パスワード入力画面が表示されたらスクリーンセーバーパスワードを入力してください。

省電力機能を使うとき

「電源の管理」（→99ページ）の「電源設定」で「モニタの電源を切る」を「なし」に設定してください。「なし」以外に設定すると、正常に表示できない場合があります。

マウスポインターにアニメーションポインターを使っているとき

「コントロールパネル」の「デスクトップテーマ」でテーマを変更したときなど、スタンバイや休止状態からリジュームしたときにエラーが発生することがあります。このような場合は、次の手順でマウスポインターを標準のポインターに変更してください。

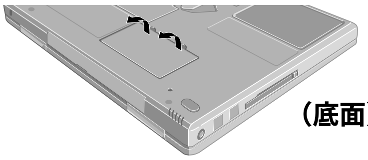
①「コントロールパネル」の［マウス］をダブルクリックする。
②「ポインタ」タブをクリックする。
③「デザイン」の中から「3Dポインタ」を選択する。
④［OK］をクリックする。

RAMモジュール（カード）を使う

現在のメモリー容量は、セットアップユーティリティの「メイン」メニュー（→124ページ）で確認することができます。
工場出荷時は、64 Mバイトです。さらに別売りのRAMモジュールを増設することによってメモリー容量を拡張することができます。RAMモジュールを増設または取り外す場合は、以下の手順に従って操作してください。

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認し、ACアダプターを取り外す。

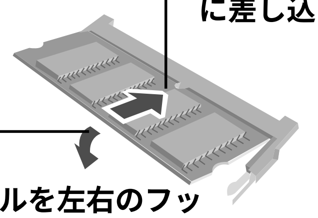
2 本体を裏返してバッテリーパックを取り外し、矢印の方向にカバーを開ける。



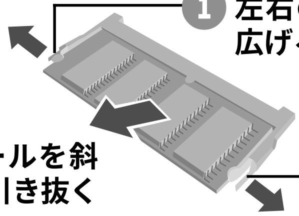
（底面）

3 RAMモジュールを取り付ける/取り外す。

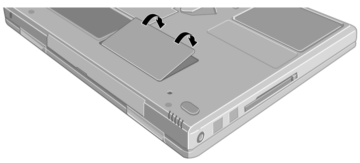
<取り付ける場合>



<取り外す場合>



4 手順2で取り外したカバーを取り付ける。



5 ACアダプター、バッテリーパックを取り付ける。

お願い

下記指定以外のRAMモジュールを使用すると、正常に動作しないだけでなく故障の原因になる場合があります。

64 Mバイト RAMモジュール
　品番：CF-BAF1064J
128 Mバイト RAMモジュール
　品番：CF-BAF0128J

推奨RAMモジュール仕様
144ピン、SO-DIMM、3.3 V、SDRAM、100 MHz *

* 66 MHzのRAMモジュールは使用しないでください。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

お願い

・スタンバイや休止状態のときは、機器の取り付け・取り外しを行わないでください。機器が破損したり、正常に動作しないことがあります。
・拡張バッテリーパックを取り付けている場合は、取り外してください。

◀向きと角度に注意して差し込んでください。向きやミゾとの角度を間違うとうまく入りません。

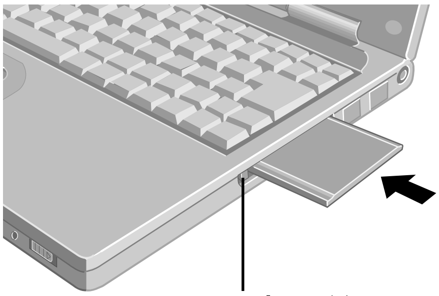
お願い

RAMモジュールは、静電気に対して非常に弱い部品で、人間の体内にたまった静電気により破壊される場合があります。取り付けおよび取り外しのときは、端子などに触れないようにしてください。また、本体内部の部品や端子などにも触れないでください。

PCカードを使う

本機にはPCカード用スロットが１つあります。
市販されているPCカードを使うことによりLANや携帯電話を使った通信機能を利用したり、SCSI機器などの周辺機器を接続することができます。
カードは厚みによってタイプⅠ（3.3 mm）、タイプⅡ（5.0 mm）、タイプⅢ（10.5 mm）の３つの種類に分けられます。
本機で取り付けることができるのは、タイプⅠまたはタイプⅡのカードです。

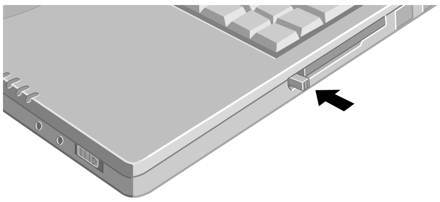
＜取り付ける場合＞



カードをPCカードスロットにしっかりと差し込む。

＜取り外す場合＞

1. [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックする。
2. [PCカード（PCMCIA）]をダブルクリックし、「PCカードのプロパティ」画面で取り出すカードを選んで[停止]をクリックする。
3. 「このデバイスは安全に取り外せます」というメッセージが表示されたら[OK]をクリックする。
4. 「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」画面で[OK]をクリックする。
5. 取り出しボタンを押すと、取り出しボタンが飛び出すので（下図）、再度押してカードを取り出す。



お願い

ご使用の前に
- 必ず、PCカードの消費電力を確認してください。PCカードスロットの許容電流（許容電流：3.3 Vで750 mA,5 Vで500 mA,12 Vで75 mA）を超えて使用すると、故障の原因となりますのでご注意ください。
- PCカードの操作方法は、PCカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- スタンバイや休止状態時には、取り付け・取り外しは行わないでください。
- 本機はZVカードには対応していません。

お願い

CardBusおよびネットワークカードを取り出す場合は、必ず電源を切ってから取り外してください。

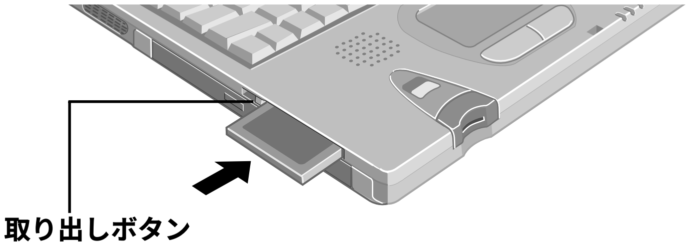
周辺機器を拡張する

CFカードを使う

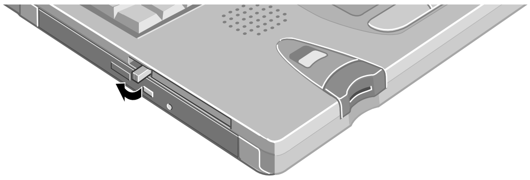
本機にはCFカード用スロット（ワイヤレススロット）が1つあります。
CF（コンパクトフラッシュ）カードやCFカードタイプのワイヤレス通信カードなどを、アダプターを使用せずに接続できます。
本機で取り付けることができるのはタイプⅠ（厚さが3.3 mm）またはタイプⅡ（厚さが5.0 mm）のCFカードです。

＜取り付ける場合＞

1. **カードをワイヤレススロットにしっかりと差し込む。**
   取り出しボタンが飛び出ます。

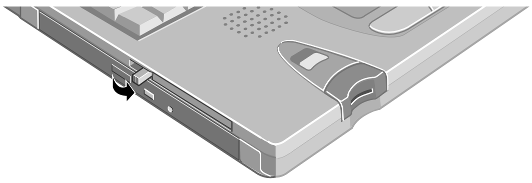


2. **取り出しボタンを折り曲げて収納する。**

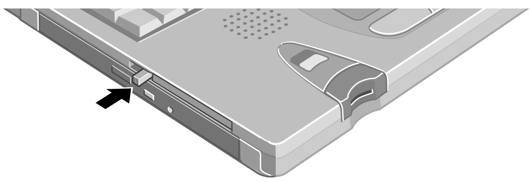


＜取り外す場合＞

1. **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックする。**
2. **[PCカード（PCMCIA）]をダブルクリックし、「PCカードのプロパティ」画面で取り出すカードを選んで[停止]をクリックする。**
3. **「このデバイスは安全に取り外せます」というメッセージが表示されたら[OK]をクリックする。**
4. **「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」画面で[OK]をクリックする。**
5. **取り出しボタンの折り曲がり部分を起こす。**



6. **取り出しボタンを押し、カードを取り出す。**



お願い

ご使用の前に
- CFカードの操作方法は、CFカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- スタンバイや休止状態時には、取り付け・取り外しは行わないでください。

挿入しにくいときは
無理に押さないでください。カードの向きを確認後、カードを水平にした状態でもう一度挿入してみてください。

必要なときに

セットアップユーティリティの設定のしかたやオンラインマニュアルの見かたなど、必要に応じてご覧いただきたいことについて説明しています。

もくじ

セットアップユーティリティ

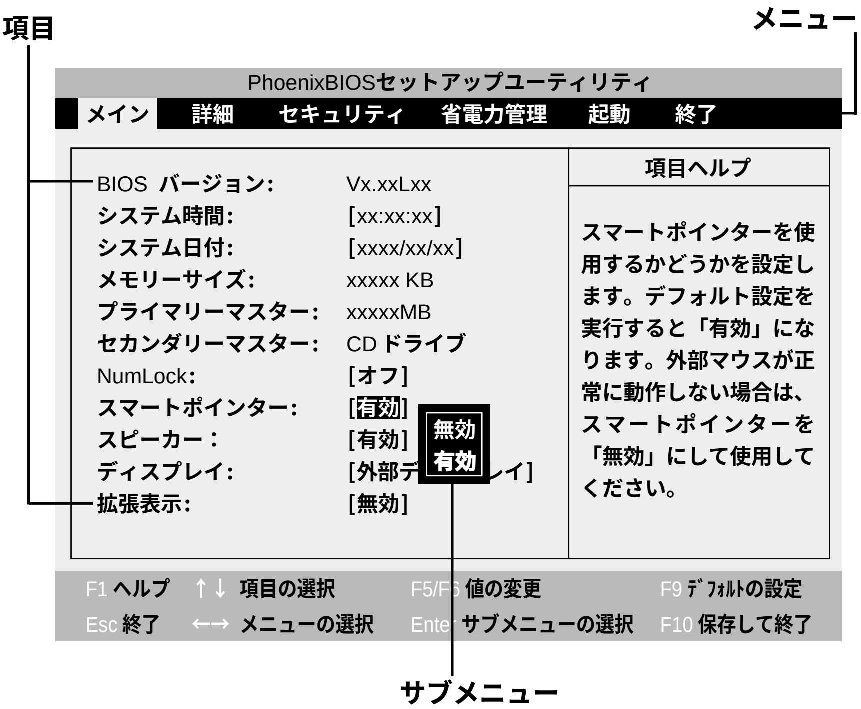
ここでは、動作環境を設定するためのユーティリティ（セットアップユーティリティ）について説明します。

起動する

1 **Windowsを終了して再起動する。**

[スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[再起動する]を選んで[OK]をクリックする。

2 **「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに F2 を押す。**



◀ F2 を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティは起動しません。その場合、Windowsを終了して再度やり直してください。

◀「パスワードを入力してください」と表示されたら、パスワードを入力してください。
ただし、ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードの両方を設定している場合、ここでユーザーパスワードを入力すると表示されないメニューや項目があります。（→127ページ）

キー操作

下記のキーのうち、画面下側に表示されているものが使用できます。

F1 :一般ヘルプが画面に表示されます

← → :「メイン」「詳細」「セキュリティ」「省電力管理」「起動」「終了」の各メニューを選ぶときに使用します。

↑ ↓ :カーソルが上下に移動します。項目を選ぶときに使用します。

F5 F6 :各項目の設定値を選ぶときに使用します。

Enter : ↑ ↓ で項目を選んだ後に押すと、各設定項目のサブメニュー画面が表示されます。

F9 :各項目の設定値を工場出荷時の値にします。

F10 :設定を保存して終了します。

Esc :「終了」メニューが表示されます。

Tab :日時設定のとき、カーソルの移動に使用します。

◀ セットアップユーティリティの起動時、パスワードの入力を求められた際にユーザーパスワードを入力した場合、 F9 (デフォルト設定)は表示されません。

終了する

1 ← → で「終了」メニューを選ぶ。

設定を保存して終了 設定を保存しないで終了 デフォルト設定 設定を戻す 設定を保存する

設定を戻す:セットアップユーティリティ起動時の状態、または「設定を保存する」で保存した状態に戻します。

デフォルト設定:標準設定にします。(工場出荷状態)

◀ セットアップユーティリティの起動時、パスワードの入力を求められた際にユーザーパスワードを入力した場合、「デフォルト設定」の項目は表示されません。

2 設定を保存して終了するか、保存せずに終了するかを選び、Enter を押す。

コンピューターが再起動し、Windowsが起動します。

◀ パスワードが有効になっている場合は、Windowsが起動するまでにパスワードの入力が必要です。

メインメニュー

1 ← → で「メイン」メニューを選ぶ。

現在のメモリー容量やBIOSのバージョンなどを確認することができます。

コンピューターに設定されている日付と時刻を確認できます。また、設定を変更することができます。

BIOS バージョン:	Vx.xxLxx
システム時間:	[xx:xx:xx]
システム日付:	[xxxx/xx/xx]
メモリーサイズ:	xxxxx KB
プライマリーマスター:	xxxxxMB
セカンダリーマスター:	CD ドライブ
NumLock:	[オフ]
スマートポインター:	[有効]
スピーカー：	[有効]
ディスプレイ:	[外部ディスプレイ] ― 次ページ
拡張表示:	[無効]

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

800×600サイズ以下の画面をLCDいっぱいに拡張して表示する拡張表示機能の[有効]または[無効]を設定します。

スピーカーの[有効]または[無効]を設定します。

スマートポインターの[有効]または[無効]を設定します。外部マウスが正常に動作しない場合は、[無効]に設定してください。

起動時にテンキー（キー上に青色で印刷された数字など）による入力を[オン]にするか[オフ]にするかを設定します。

ディスプレイ

起動時、どのディスプレイに表示するかを[内部LCD][外部ディスプレイ][同時表示]の中から選びます。

表示可能な解像度・色数

	ディスプレイ設定		
	外部ディスプレイ	内部LCD	同時表示
640×480 16色	○	○*1	○*1
640×480 256色	○	○*1	○*1
640×480 65,536色 (High Color)	○	○*1	○*1
640×480 約1,677万色 (True Color)	○	○*1*2	○*1*2
800×600 256色	○	○*1	○*1
800×600 65,536色 (High Color)	○	○*1	○*1
800×600 約1,677万色 (True Color)	○	○*1*2	○*1*2
1024×768 256色	○	○	○
1024×768 65,536色 (High Color)	○	○	○
1024×768 約1,677万色 (True Color)	○	○*2	○*2
1280×1024 256色	○	○*3	○*3

◀ [外部ディスプレイ]や[同時表示]に設定していても、起動時に外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部ＬＣＤ表示となります。

*1 画面の中央に小さく表示されますが、セットアップユーティリティで「拡張表示」を有効（→前ページ）に設定すると画面いっぱいに表示することができます。この場合、表示が粗くなります。

*2 内部LCDには、ディザリング機能により約1,600万色までの表示が可能です。

*3 画面全体の一部（1024×768の範囲）が表示されます。
カーソルを画面の端に移動すると、画面表示がスクロールします。

キー操作による切り換え

Fn ＋ F3 で表示先を切り換えることもできます。

詳しくは→134ページ

必要なときに

詳細メニュー

1 ← → で「詳細」メニューを選ぶ。

それぞれのポートの設定を行います。

プラグ＆プレイ：	[使用する]
シリアルポート:	[3F8/IRQ4]
パラレルポート:	[378]
モード:	[ECP]
内蔵モデム：	[有効]
リングリジューム:	[有効]
内蔵 LAN：	[有効]
Wake Up 機能：	[無効]
レガシー USB：	[有効]

レガシーUSB機器を[有効]または[無効]かを設定します。

MS-DOSモードで使用している場合の内蔵LAN Wake Up機能を[有効]または[無効]に設定します。（→130ページ）

内蔵LANを[有効]または[無効]に設定します。

常に「有効」として扱われます。（→49ページ）

内蔵モデムを[有効]または[無効]に設定します。

パラレルポートのデータ送信方向を[ECP]、[EPP]、[単方向]、[双方向]のいずれかに設定します。[ECP]に対応していない機器を使用する場合は、[双方向]に設定してください。

パラレルポートのポート設定を[378]または[無効]に設定します。

シリアルポートのポート設定を[3F8/IRQ4]または[無効]に設定します。

[使用する]にすると、各項目の設定値をOS側がより最適と判断する値に自動的に変更することができます。
[使用しない]にすると、各項目の設定値をOS側は変更することができません。

◀ セットアップユーティリティの起動時、パスワードの入力を求められた際にユーザーパスワードを入力した場合、「詳細」メニューの設定はできません。（画面表示はされますので、設定内容を確認することはできます。）

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

◀ レガシーUSB機器とは、電源を入れた後、Windowsが起動していない状態でも動作するUSB機器（マウス、フロッピーディスクドライブ、キーボードなど）のことです。

◀ Windows上でのWake Up機能の[有効]または[無効]の設定は、[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ] で設定します。（→96ページ）

◀ ポート設定では、割り込み要求（IRQ）とI/Oポートアドレスを設定します。

◀ 通常は[使用する]に設定しておいてください。

セキュリティメニュー

1 [←] [→] で「セキュリティ」メニューを選ぶ。

起動時のパスワードを[使用する]または[使用しない]を設定します。

起動時のパスワード:	[使用する]
キーによる起動:	[許可]
▶スーパーバイザーパスワード設定:	[Enter]
ユーザーパスワード保護:	[保護しない]
▶ユーザーパスワード設定:	[Enter]
プロセッサ・シリアル番号機能:	[使用しない]

CF-M2Rのみ表示されます。
Pentium® IIIのシリアル番号機能を使用するかしないかを設定します。

スーパーバイザーパスワードを設定している場合のみ設定できます。コンピューターの起動およびセットアップユーティリティの起動（→下記）をパスワードによって機密保護します。

ユーザーパスワードの変更をできないようにする（保護する）かできるようにする（保護しない）かを設定します。

コンピューターの起動およびセットアップユーティリティの起動をパスワードによって機密保護します。

コンピューターの起動時に、プライベートキーの機能を使用するには[許可]に設定してください。
[禁止]に設定すると、コンピューターの起動時にプライベートキーの機能が働きません。（→38ページ）

◀ スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを設定している場合、「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定していてもセットアップユーティリティ起動時はパスワードの入力が求められます。

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

◀「キーによる起動」を「許可」に設定し、「スーパーバイザーパスワード」を設定するとコンピューター起動時のプライベートキー機能が有効になります。
プライベートキーをセットしてコンピューターを起動すると、パスワードを入力しなくてもコンピューターを起動できるようになります。

◀「起動時のパスワード」を「使用しない」に設定していると、「キーによる起動」の項目は表示されません。

セットアップユーティリティの起動時にユーザーパスワードを入力した場合

下記の設定を行うことができません。
- 詳細メニュー（→前ページ）
- セキュリティメニューの一部（キーによる起動、スーパーバイザーパスワード設定、ユーザーパスワード保護、プロセッサ・シリアル番号機能*）
- 終了メニューおよび [F9] の「デフォルト設定」

*CF-M2Rのみ

パスワード設定のしかた

1 セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューを選び[スーパーバイザーパスワード設定]または[ユーザーパスワード設定]を選んで Enter を押す。

2 パスワードを設定する。
<パスワードを新規に設定する場合>

▶スーパーバイザーパスワード設定	
新しいパスワードを入力してください	[　　　　]
新しいパスワードを確認してください	[　　　　]

❶ パスワードを入力して Enter を押す。
❷ 手順❶で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

<パスワードを変更する場合>

▶スーパーバイザーパスワード設定	
現在のパスワードを入力してください	[　　　　]
新しいパスワードを入力してください	[　　　　]
新しいパスワードを確認してください	[　　　　]

❶ 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。
❷ 新しいパスワードを入力して Enter を押す。
❸ 手順❷で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

◀ 画面は、スーパーバイザーパスワードを設定する場合を例にしています。
◀ ユーザーパスワードはスーパーバイザーパスワードを設定している場合のみ設定できます。

◀ 入力したパスワードは画面に表示されません。
◀ ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードを同じパスワードにした場合、そのパスワードはスーパーバイザーパスワードとして扱われ、ユーザーパスワードは設定されていないとみなされます。

お願い

パスワードは忘れないようにしてください。忘れたパスワードを解除する方法はありません。
忘れた場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。（パスワードを解除する場合は、修理扱い（有償）となります。）

パスワード入力の制限

- 入力可能な文字は、半角の英数字で、最大7文字までです。大文字、小文字の区別はありません。
- Shift や Ctrl およびスペースキーなどの特殊キーとあわせて入力することはできません。
- テンキーによる入力はできません。数字は、キーボード上段の数字キーを使って入力してください。

無断でパスワードを変更されることを避けるために

- セットアップユーティリティを起動したままコンピューターから離れないでください。
- 「ユーザーパスワード保護」を「保護する」に設定してください。（→前ページ）

＜設定済みのパスワードを無効にする場合＞

▶スーパーバイザーパスワード設定

現在のパスワードを入力してください	[　　　　]
新しいパスワードを入力してください	[　　　　]
新しいパスワードを確認してください	[　　　　]

❶ 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。

❷ 何も入力せずに Enter を押す。

❸ 何も入力せずに Enter を押す。

3 「変更が保存されました。」と表示されたら、任意のキーを押す。

パスワードを設定時の起動

以下のようにパスワードの入力を求められますので、設定したパスワードを入力してください。

セットアップユーティリティ起動時：パスワードを入力してください。[　　　　]
スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを入力してください。ただし、ユーザーパスワードを入力した場合、設定できない項目があります。（→127ページ）

コンピューター起動時：
コンピューター起動時のパスワード要求はパスワードを設定していて起動時のパスワードが有効になっている場合に表示されます。上記アイコンが表示されたら、スーパーバイザーパスワードまたはユーザーパスワードを入力してください。また、コンピューター起動時にプライベートキーを使用するよう設定している場合（→38ページ）は、プライベートキーをセットしても起動できます。
Windowsで使用している場合は、スタンバイや休止状態からのリジューム時には、パスワード入力は要求されません。

パスワードの入力を3回間違えると

- 電源オン時には、電源が切れます。
- スタンバイからのリジューム時には、スタンバイに戻ります。（MS-DOSモードで使用時のみ）
- 休止状態からのリジューム時には、休止状態に戻ります。（MS-DOSモードで使用時のみ）

省電力管理メニュー

1 ← → で「省電力管理」メニューを選ぶ。

Windows上での「パワースイッチ」および「パネルスイッチ」の動作設定は、[コントロールパネル]の[電源の管理]で設定します。
MS-DOSモードで使用している場合（→下記）

パワースイッチ：	[サスペンド]
パネルスイッチ：	[LCDオフ]
Fn＋F7/Fn＋F10キー：	[有効]
インテル(R)SpeedStep(TM)テクノロジ：	[自動設定]
CDドライブ速度：	[高速]

CDの読み込み速度を設定します。

CF-M2Rのみ表示されます。
インテル®SpeedStep®テクノロジ対応Pentium IIIプロセッサの処理スピードを[自動設定][常に省電力][常に最大速]のいずれかに設定します。[自動設定]の場合、ACアダプター接続時は最大速に、バッテリーでの使用時は省電力に切り換わります。（→102ページ）

Fn ＋ F7 / Fn ＋ F10 の機能を[有効]または[無効]に設定します。（→134ページ）

◀ セットアップユーティリティでは、「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「ハイバーネーション」と呼んでいます。

お願い

通常（Windows上で使用している時）は、「パネルスイッチ」を「LCDオフ」に設定してください。「ハイバーネーション」または「サスペンド」に設定していると、LCDパネルを閉じた状態ではスタンバイや休止状態からリジュームできません。

◀ 消費電力を節約したい場合は「中速」にしてください。また、使用するディスクの種類によっては、振動が大きくなる場合があります。その場合も「中速」にしてください。

MS-DOSモードで使用している場合

セットアップユーティリティの以下の設定は、MS-DOSモードで使用しているときのみ動作します。Windowsを起動しているときの動作設定は、Windowsで設定します。

- 「Wake Up機能」（Windowsの設定→96ページ）
  内蔵LAN Wake Up機能の[有効]または[無効]を設定します。
- 「パワースイッチ」（Windowsの設定→36ページ）
  電源オン時に、コンピューターの電源スイッチをスライドしたときの動作を[サスペンド][ハイバーネーション][パワーオフ]のいずれかに設定します。
- 「パネルスイッチ」（Windowsの設定→11ページ）
  LCDパネルを閉じたときの動作を[LCDオフ][サスペンド][ハイバーネーション]のいずれかに設定します。

起動メニュー

1 ← →で「起動」メニューを選ぶ。

システムを起動するドライブの優先順位を設定します。

1. [フロッピードライブ] 2. [ハードディスクドライブ] 3. [ATAPI CD ドライブ]

工場出荷時の設定は、[フロッピードライブ]→[ハードディスクドライブ]→[ATAPI CDドライブ]の順です。

- 優先順位を1つ上げる場合は、↑↓でデバイスを選択して F6 を押す。
- 優先順位を1つ下げる場合は ↑↓でデバイスを選択して F5 を押す。

◀ フロッピーディスクドライブは付属の外部FDDのみサポートしています。セットアップユーティリティで「レガシーUSB」を「有効」に設定していないと（→126ページ）フロッピーディスクドライブからの起動はできません。

オペレーティングシステムを起動するデバイスは、コンピューター起動時にも選択することができます。
電源を入れ、「Press <ESC> to enter Boot First Menu」が表示されているときに Esc を押すと、デバイスの選択画面が表示されます。[起動]メニューの設定を変更すると、選択画面の表示も変更されます。

オンラインマニュアルの見かた

画面で見ることができるオンラインマニュアル（PDF形式ファイル）として、以下のものが用意されています。プリンターが接続されていれば、印刷することもできます。ここでは、オンラインマニュアルの見かたについて説明します。

＜困ったときのQ&A＞

　本機が思ったとおりに動かないなど、トラブルが発生したときの対処方法をQ&A方式でまとめています。

＜パソコン・サポートとつきあう方法＞

　初めてのかたを対象に、電話サポート窓口を上手に利用する方法やコンピューターの専門的な用語・略語などについて説明しています。

　（編集：社団法人　日本電子工業振興協会）

＜内蔵モデムコマンド一覧＞

　内蔵モデムのATコマンドについて説明しています。

＜ワイヤレスコムポートコマンド一覧＞

　ワイヤレスコムポートのATコマンドについて説明しています。

オンラインマニュアルの起動のしかた

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]をクリックし、見たいマニュアルを選ぶ。

（「困ったときのQ&A」はデスクトップの[困ったときのQ&A]アイコンをダブルクリックしても起動することができます。）



はじめて起動したとき

　「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されるので、内容を確認の上、[同意する]をクリックしてください。

お願い

左記以外の方法（エクスプローラなどから、マニュアルのファイルをダブルクリックするなど）では起動できないことがあります。

その場合はコンピューターを再起動した後、左記の方法でオンラインマニュアルを起動しなおしてください。

◀ 下部の「ページ表示・指定」がタスクバーに隠れて見えないときは、ウィンドウを最大表示にしてください。

オンラインマニュアルを表示できない
→139ページ

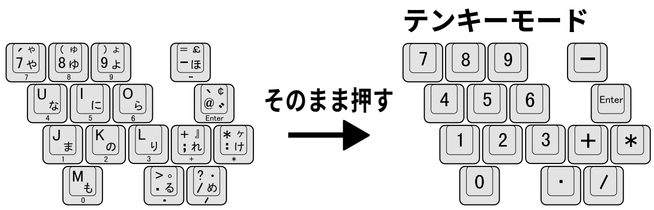
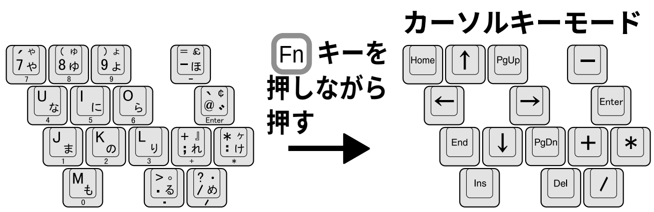
PDF形式のファイルを開けない
→140ページ

必要なときに

キーボードの操作

ここでは、そのキー自体に特殊な機能をもつキー（特殊キー）や、Fn キーといっしょに押すことによって特殊な機能が有効になるキー（ホットキー）の使いかたについて説明します。

特殊キー

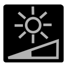
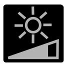
キー	機　能
（Windowsキー）	[スタート]メニューのクリックと、同じ操作を行うことができます。
（アプリケーションキー）	右ボタンのクリックと、同じ操作を行うことができます。
NumLk	Shift を押しながら押して、テンキーを有効にするかどうかを切り換えます。有効にするとテンキーを使って数字を入力できます。 <NumLkインジケーター点灯時：テンキー有効時>  <NumLkインジケーター消灯時：テンキー無効時> 
CapsLock/英数	英数字入力になります。Shift を押しながら押した場合は、CapsLock状態に入ります。もう一度押すと、解除されます。
Enter	コンピューターに対して、コマンドやデータが入力されます。
Shift	通常、このキーを押しながらアルファベットキーを押すと、大文字入力になります。また、このキーを押しながら数字キーか特殊キーを押すと、キートップの上部に印字されている記号が入力されます。
Ctrl、Alt	このキーを押しながら他のキーを押すと、特殊機能が有効になります。このキーを押しながら他の特殊キーを押した場合、アプリケーションソフトによって機能が異なります。
Esc、ScrLk、Pause/Break	アプリケーションソフトによって機能が異なります。

◀ CapsLock状態では、アルファベットキーを押すと、大文字入力になり、Shift を押しながらアルファベットキーを押すと小文字入力になります。

キーボードの操作

キーコンビネーション（ホットキー）

Fn を押しながら下記のキーを押すことによって、特殊機能が有効になります。
この操作を「ホットキー」と呼びます。

キーとアイコン	機　能
Fn ＋ F1 	LCDバックライトの輝度を下げます。 キーを押している間、輝度が下がります。
Fn ＋ F2 	LCDバックライトの輝度を上げます。 キーを押している間、輝度が上がります。
Fn ＋ F3	画面の表示先を切り換えます。キーを押すごとに（内部LCD→同時表示→外部ディスプレイ）の順に表示先が切り換わります。
Fn ＋ F4  	内蔵スピーカーから出る音を消します。 再度押すと元に戻ります。
Fn ＋ F5 	内蔵スピーカーの音量を下げます。 キーを押している間、音量が下がります。
Fn ＋ F6 	内蔵スピーカーの音量を上げます。 キーを押している間、音量が上がります。
Fn ＋ F7	本機をスタンバイ状態にします。
Fn ＋ F9	バッテリーの残量が、画面にアイコン表示されます。 （詳しくは→108ページ）
Fn ＋ F10	本機を休止状態にします。
Fn ＋ F12	画面全体をクリップボードにコピーします。 Fn ＋ Alt ＋ F12 を押すと選択されているウィンドウのみをコピーできます。

◀ ACアダプターが接続されている状態と接続されていない状態の明るさを別々に設定できます。

◀ 外部ディスプレイが接続されていない場合でも切り換え処理が行われます。（デュアルディスプレイモード時は無効です。）

◀ Fn ＋ F5 あるいは Fn ＋ F6 が押されると、自動的にスピーカーオンの状態になります。

◀「ボリュームコントロール」画面（→12ページ）でミュートや音量ゼロにしている場合、スピーカーオンでも音は出ません。

ホットキーの操作について

- Fn ＋ F1 、Fn ＋ F2 、Fn ＋ F4 、Fn ＋ F5 、Fn ＋ F6 キーを押した場合は、各設定値を表すアイコンが表示されます。
- システム起動中、あるいはスタンバイや休止処理を実行中は一部のホットキーは使用できません。
- 高速なシリアル通信中などにホットキーを使用すると、通信エラーになることがあります。通信中はホットキーを使用しないでください。
- 音声再生、録音中にホットキーを使用すると、音が乱れることがあります。
- Fn ＋ F3 、Fn ＋ F4 で変更した設定は一時的なものです。再起動後はセットアップユーティリティで設定されている状態に戻ります。

困ったときは

本機を動かそうとして思ったとおりに動かないときの対処方法や再インストールのしかたなどについて説明しています。

もくじ

困ったときのQ&A

本機を動かそうとして、思ったとおりに動かないことがあります。おかしいな？と思ったら、このページを読んでください。また、「オンラインマニュアル」の「困ったときのQ&A」もご覧ください。（→「オンラインマニュアルの見かた」132ページ）
その他、ソフトウェアによる原因も考えられますので、Windowsやアプリケーションソフトなど各ソフトウェアのマニュアルも参照してください。どうしても原因がわからないときは、お買い上げになった販売店または当社ご相談窓口にご相談ください。

起動時の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作できない	確認1 • ACアダプターは、本体の電源端子および電源コンセントに差し込まれているか確認してください。 • 十分充電されたバッテリーパックが正しく入っているか確認してください。 • 電源を切った直後は、電源スイッチをスライドしても電源が入らない場合があります。5秒以上待ってから操作してください。 確認2 リセットスイッチを押して、本機を再起動させてみてください。 確認3 本体のACアダプターおよびバッテリーパックをすべて外してから再度装着し、再度起動してみてください。 確認4 ハードディスクにアクセス可能かどうか確認し、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。 ＜確認方法＞ ①フロッピーディスクドライブを接続し、「ファーストエイドFD」をドライブにセットする。 ②電源を入れる。 ③セットアップユーティリティで「レガシーUSB」が「無効」に変更されている場合は「有効」に設定する。（工場出荷時は「有効」に設定されています。→126ページ） ④「再インストールを完了するため、ファイルを更新します。ファイルをコピーしますか。」と表示されたら N を押す。 ⑤「A:\>」と表示されたら、「C:」と入力し、 Enter を押す。 • [C:\>]が表示された場合 Windowsを起動するために必要なファイルが壊れている可能性があります。147ページの手順に従って再インストールを行うと、ハードディスクを工場出荷状態に戻すことができます。ただし、作成したデータなどは消えてしまいます。あらかじめご了承ください。 • [C:\>]が表示されない場合 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
画面上の日付/時刻の表示が違っている	確認1 • コントロールパネルの「日付と時刻」を使って、またはセットアップユーティリティを起動して正しい日付/時刻を設定してください。 • LAN（ネットワーク）に接続している場合、サーバーの日付や時刻を確認してください。詳しくは、ネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。 確認2 正しく設定してもすぐに表示が違ってくる場合、日付/時刻の情報を保持しているクロックバッテリー（リチウム電池）の残量がない可能性があります。 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

起動時の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key」と表示される	・システムを起動できないフロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされています。フロッピーディスクを取り出してから、何かキーを押してください。 ・フロッピーディスクがセットされていないのに左記メッセージが表示される場合、ハードディスクに何らかの問題が発生していることが考えられます。お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
数字とメッセージが表示される	表示されている番号はエラーコードです。コンピューターに何か問題が発生しています。 「エラーコード一覧」（→145ページ）に従って確認してください。
「Microsoft ScanDisk」が起動している	前回終了時に、コンピューターを正しい方法で終了しなかった場合には、次にコンピューターを起動したときにハードディスクのエラーを検出するプログラム「Microsoft ScanDisk」が自動的に動作します。その場合は、画面に従って操作してください。 また、コンピューターは必ず正しい方法で（[スタート]→[Windowsの終了]から）終了するようにしてください。
画面に何も表示されない	表示先が外部ディスプレイに設定されている可能性があります。Fn ＋ F3 を押してディスプレイの表示先を切り換えてみてください。
フロッピーディスクドライブから起動できない	セットアップユーティリティで「レガシーUSB」を[有効]に設定してください。→126ページ 起動メニューの1番目が「フロッピードライブ」になっていることを確認してください。→131ページ
ユーザーパスワードまたはスーパーバイザーパスワードを忘れた	忘れたパスワードを変更・解除する方法はありません。 パスワードを変更・解除したい場合は、お買い上げの販売店または『ご相談窓口』にご相談ください。 ＜スーパーバイザーパスワードのみを設定している場合＞ （ユーザーパスワードやプライベートキーの機能を設定していない場合） パスワードを忘れると、コンピューターを起動することはできません。お買い上げの販売店または『ご相談窓口』にご相談ください。 ＜ユーザーパスワードを設定している場合＞ ユーザーパスワードかスーパーバイザーパスワードのどちらかを覚えていれば、コンピューターを起動することができます。ただし、セットアップユーティリティを起動する場合、ユーザーパスワードで入ると一部の設定ができなくなります。（→127ページ） ＜プライベートキーの機能を設定している場合＞ スーパーバイザーパスワードを忘れても、プライベートキーをセットすれば、コンピューターを起動することができます。ただし、セットアップユーティリティは、プライベートキーでは起動できません。（→127ページ）

困ったときのQ&A

プライベートキーの問題

こんなときは	ここをお調べください
プライベートキーをなくした	・プライベートキーがなくても、パスワードを入力してコンピューターを起動したり、スクリーンセーバーを解除したりすることができます。（→38ページ） ・プライベートキーを2個ともなくした場合、別売りのプライベートキーを購入しても複製できません。詳しくは「ご相談窓口」にご相談ください。（→45、163ページ） ・なくしたプライベートキーを無断で使用されることを避けるためには、セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューで「キーによる起動」を「禁止」に設定してください。（→45ページ）
プライベートキーが使えない	確認1 プライベートキーを使用するには初期設定が必要です。（→38ページ） 確認2 ＜コンピューター起動時、プライベートキーをパスワード入力の代わりに使用できない＞ セットアップユーティリティの「セキュリティ」メニューで下記のように設定しているか確認してください。 ・「起動時のパスワード」を「使用する」に設定する。 ・「キーによる起動」を「許可」に設定する。 ・スーパーバイザーパスワードを設定する。 ＜プライベートキーの抜き差しによる、スクリーンセーバーの実行／解除ができない＞ 下記の設定を行っているか確認してください。 ・「コントロールパネル」の「画面」でスクリーンセーバーとパスワードの設定をする。 ・「コントロールパネル」の「電源の管理」で「モニタの電源を切る」を「なし」に設定する。 ・「プライベートキー環境設定」の「スクリーンセーバーの実行／解除に使用する」にチェックマークを付ける。
が表示される	正しいプライベートキーを挿入するか、パスワードを入力してください。
ファイルの暗号化ができない	・正しいプライベートキーを挿入してください。 ・ファイルの復号用パスワードが設定されていない場合は、暗号化ができません。ファイルの復号用パスワードを設定してください。 ・フォルダー単位で、フォルダー以下のファイルを一度に暗号化することはできません。 ・「C:\」や「C:\windows」など特定のフォルダー下のファイルには、暗号化できないものがあります。
ファイルの復号ができない	復号は、そのファイルを暗号化したコンピューター上で行ってください。違うコンピューター上では復号できません。

操作中の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作中に動かなくなった	確認1 ・バッテリーパックを使って操作していたときは、バッテリーの残量がない可能性があります。ACアダプターを接続してください。 ・使っていたアプリケーションソフト上の問題でシステムが止まってしまった可能性があります。以下の手順で操作中のアプリケーションソフトを終了してください。 ① Alt + Ctrl + Del を押す。 ②動作しなくなったアプリケーションソフトを選び、[終了]をクリックする。（次ページに続く）

操作中の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
操作中に動かなくなった（つづき）	③確認のメッセージが表示されたら[終了]をクリックする。 場合によっては、壁紙が白くなることがあります。その場合は、「Active Desktopを元に戻す」をクリックした後、コンピューターを再起動してください。 確認2 前ページの手順を行っても動かない場合は、リセットスイッチ（→13ページ）を押して、コンピューターを再起動してください。 リセットスイッチを押して再起動するとハードディスクのエラーを検出するプログラム「Microsoft ScanDisk」が自動的に動作します。画面に従って操作してください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点灯している または キー操作による残量表示で0%と表示された	確認1 • バッテリー残量がありません。ACアダプターを接続してください。 • ACアダプターが正しく接続されていない可能性があります。正しく接続し直してください。 確認2 ACアダプターが正しく接続されているのに、またバッテリー残量はあるはずなのに赤色点灯や0%表示が続く場合は、「バッテリー容量を正確に表示させるために」（→110ページ）に従って操作をしてください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点滅している	確認1 バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。正しく装着し直してください。 確認2 それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
使用中に「ピー・ピー」と音が鳴り始めた	バッテリー残量がわずかです。ACアダプターを接続してください。
充電中にバッテリー状態表示ランプが消灯している	確認1 ACアダプターとバッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。ACアダプターとバッテリーパックを取り外し、再度正しく装着し直してください。 確認2 それでも消灯するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
[コントロールパネル]→[電源の管理]→[電源メーター]での残量表示がおかしい	「電源メーター」画面を表示したまま、バッテリーパックの取り付け/取り外しを行うと残量表示の更新に時間がかかります。この場合、タスクバーの「電源メーター」アイコンをダブルクリックすると、すぐに現在の残量が表示されます。今後、バッテリーパックの取り付け/取り外しは、コンピューターの電源を切った状態で行ってください。（→104ページ）
オンラインマニュアルを表示できない	確認1 Acrobat Readerをアンインストールしませんでしたか？ アンインストールした場合は、[スタート]→[ファイル名を指定して実行]で「c:\util\reader\ar405jpn.exe」を起動し、画面に従ってインストールしてください。 その際、インストール先のフォルダーを変更しないでください。変更すると、デスクトップのアイコンやスタートメニューからオンラインマニュアルを起動できません。 （Acrobat ReaderはAdobe社のホームページhttp://www.adobe.co.jpからダウンロードすることもできます。） 確認2 「C:\UTIL\MANUAL」フォルダーに次のファイルがありますか？ない場合は「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」の「\JA\UTIL\MANUAL」からコピーしてください。 • QA.PDF（困ったときのQ&A） • SUPPORT.PDF（パソコン・サポートとつきあう方法） • MODEM.PDF（内蔵モデムコマンド一覧） • COMPORT.PDF（ワイヤレスコムポートコマンド一覧）

操作中の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
PDF形式のファイルを開けない	エクスプローラなどからファイルをクリックした場合、起動できないことがあります。コンピューターを再起動した後、Acrobat Readerを起動し、[ファイル]→[開く]をクリックしてファイル名を指定し、起動してください。また、オンラインマニュアルは、[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]をクリックしても起動できます。
システムファイルチェッカーで「ファイルが壊れている可能性があります」というメッセージが表示される	Internet Explorer 5.01がインストールされているコンピューターで、[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[システム情報]の「ツール」メニューから「システムファイルチェッカー」を実行すると、以下の現象が起こることがマイクロソフト社より報告されています。 ・以下の正常なファイルに対しても「ファイルが壊れている可能性があります」というメッセージが表示される。 • ADVAPI32.DLL • CRYPTEXT.DLL • CYPTNET.DLL • CRYPTUI.DLL • MSCAT32.DLL • MSOSS.DLL • MSSIGN32.DLL • MSSIP32.DLL • RNAPH.DLL • SOFTPUB.DLL • WLDAP32.DLL ・その際、メッセージに従ってシステムファイルチェッカーでファイルを修復するとシステムが不安定になる可能性がある。 本機には、工場出荷時にInternet Explorer 5.01がインストールされていますので、上記ファイルに対して「ファイルが壊れている可能性があります」というメッセージが表示された場合は、「無視する」を選んで[OK]をクリックしてください。また、今後システムファイルチェッカーは使用しないでください。 詳しくは、マイクロソフト社の「マイクロソフトサポート技術情報」をご覧ください。 http://www.microsoft.com/japan/support/（2000年4月現在）
MIDIファイルを再生できない	USBスピーカーを取り外してから再度取り付けると、MIDIファイルの再生ができなくなります。その場合は、USBスピーカーを取り外してWindowsを再起動してから、再度、取り付けてください。
サウンドレコーダーできれいに録音できない	「サウンドレコーダー」の画面で[ファイル]→[プロパティ]→[今すぐ変換]をクリックし、「属性」で「44.100 kHz，16ビット，モノラル 86 KB/秒」を選んでください。
Windows Media Playerでエラーが発生した	True Color（24ビット）色でWindows Media Playerを使用して動画（AVIファイルやMPEGファイル等）を再生中に、Windows Media Player画面を移動させたり、最大化や元のサイズに戻す操作を繰り返し行ったりすると、エラーが発生する場合があります。その場合はWindowsを再起動してください。

操作中の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
画面が消えた	確認1 省電力機能によって、自動的にディスプレイが消えることがあります。電源表示ランプが点灯している場合は Ctrl * などのキーを押してください。 * 選択の際に使われるキー（ Enter 、 Esc 、 Y 、 N や数字キーなど）は使わず、動作に影響のないキー（ Ctrl 、 Shift など）を押してください。 また電源表示ランプが点滅している場合は、スタンバイ状態に入っていることも考えられます。電源を入れてください。 確認2 バッテリー残量がなくなっていませんか？ ACアダプターを接続してください。 確認3 表示先が外部ディスプレイに設定されている可能性があります。 Fn + F3 を押してディスプレイの表示先を切り換えてみてください。 確認4 リジューム時に画面が消えた場合、MS-DOSプロンプトが起動されている可能性があります。 Alt ＋ Tab を押してみてください。また、スタンバイ・休止状態に入る前には、MS-DOSプロンプトを閉じてください。

ディスプレイ画面の問題

こんなときは	ここをお調べください
残像が残る	同じ画面を長時間表示すると、イメージが画面に焼きつき、残像となることがあります。これは、異常ではありません。別の画面が表示されてしばらくすると、残像は消えます。
画面に緑､赤､青のドットが残る または正しい色が表示されないドットがある	カラー液晶ディスプレイの製造には精度の高い技術が要求されます。ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができますが、これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。
画面の表示が乱れる （ウィンドウを閉じた後、画像が残るなど）	[コントロールパネル]→[画面]→[設定]を選び、[詳細]をクリックして[パフォーマンス]の「ハードウェアアクセラレータ」を「なし」に設定してみてください。
「コントロールパネル」の「画面」で「画面の領域」や「色」が変更できない	「画面」の[設定]→[詳細]→[モニタ]で「中断／再開したときはディスプレイをリセットする」のチェックマークを外すと、「画面の領域」や「色」を正常に変更できなくなる場合があります。
「コントロールパネル」の「画面」で壁紙を変更した直後、マウスカーソルが見えなくなる・待ち状態表示のままになる	「コントロールパネル」の「デスクトップテーマ」で設定しているテーマの種類によっては、このような症状が現われます。 マウスカーソルが見えなくなった場合は、スマートポインターをこすってください。また、待ち状態表示になった場合は、右ボタンをクリックしてショートカットメニューを表示してみてください。
画像がモザイク状になる	True Color（24ビット）色で動画（AVIファイルやMPEGファイル等）を再生しているときに、動画ウィンドウの右上のコマンドボタンにカーソルを置いたり、動画ウィンドウのサイズを変更したりすると画像がモザイク状になることがあります。この場合、コマンドボタンからカーソルを移動するか、動画ウィンドウのサイズを元に戻すと正常な画像に戻ります。

ディスプレイ画面の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
Windows Media Playerの画面表示が残る	True Color（24ビット）色でWindows Media Playerを使用して動画（AVIファイルやMPEGファイル等）を再生中に、Windows Media Playerを終了すると、Windows Media Player画面の跡が残る場合があります。その場合はWindowsを再起動してください。

ドライブの問題

こんなときは	ここをお調べください
フロッピーディスクドライブ（外部FDD）にアクセスしない	確認1 ・フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。 ・フロッピーディスクは正しくセットされているか確認してください。 ・フロッピーディスクは初期化されているか確認してください。 ・ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていないか確認してください。 確認2 フロッピーディスクドライブから起動したい場合や、Command Prompt Onlyでフロッピーディスクドライブを使いたい場合などは、セットアップユーティリティの「詳細」メニューで「レガシーUSB」を「有効」に設定してください。「レガシーUSB」が「無効」に設定されていると、Windowsを起動しない状態でフロッピーディスクドライブを使用することはできません。
フロッピーディスクが初期化できない	・デスクトップ上の「マイコンピュータ」から[3.5インチFD(A:)]を選んで[ファイル]→[フォーマット]をクリックした後、ディスクの容量やフォーマットの種類を確認してフォーマットしてください。 ・1.2 Mバイトのフロッピーディスクをフォーマットする場合、以下の手順でフォーマットしてください。 ①デスクトップの[スタート]→[プログラム]→[MS-DOSプロンプト]を順にクリックする。 ②次のように入力する。 fmtusbfd -F:1.25 a: Enter 以降画面のメッセージに従って操作する。 ※fmtusbfdコマンドは、Command Prompt OnlyなどWindowsを起動せずに操作している場合や「MS-DOSモードで再起動する」を選んだ場合は使用できません。
ハードディスクドライブにアクセスできない	原因がわからない場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのアクセスランプが点灯しない	CDは正しくトレイにセットされていますか？
CDの再生や読み込みができない	・指定の方法（→16ページ）でCDのクリーニングを行ってください。 ・CDが変形していたり、傷や汚れが付いていませんか？
突然、MPEG画像が残った青い画面になった	ドライブから、MPEGのCDを取り出しませんでしたか？CDをセットして Enter を押してください。
CDが取り出せない	コンピューターの電源が入っていますか？電源が入っていない状態でCDを取り出すには、ゼムクリップなどを引き伸ばしたものなどをエマージェンシーホールに差し込んでトレイを引き出してください。（→17ページ）

ドライブの問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブの振動や動作音が大きい	・変形したCDや、ラベルをはったCDを使用していませんか？ ・CDドライブ最大速度を落として設定（→130ページ）すれば振動や動作音が小さくなる場合があります。

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
割り込み要求（IRQ）、I/Oポートアドレス等、アドレスマップがわからない	下記の方法で確認することができます。 ・システムのプロパティで確認する。 ①「コントロールパネル」の[システム] アイコンをダブルクリックする。 ②「デバイスマネージャ」をクリックする。 ③「コンピュータ」を選んで「プロパティ」をクリックする。 ・システムツールで確認する。 ①［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］をクリックする。 ②「ハードウェアリソース」の左横の□をクリックする。
USB機器が動かない	確認1 ・正しく接続されているか確認してください。 ・セットアップユーティリティで「レガシーUSB」が「有効」に設定されているか確認してください。 確認2 適切なドライバーがインストールされているか確認してください。
プリンターが動かない	確認1 ・ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ・プリンターの電源が入っているか確認してください。 確認2 ・プリンターがI/Oボックスのパラレルコネクターに接続されている場合、セットアップユーティリティで「パラレルポート」を「378」に設定してください。 ・適切なプリンタードライバーが選択されているか確認してください。
マウスが使えない	確認1 マウスケーブルが正しく接続されているか確認してください。 確認2 ・マウスがシリアルまたはUSBコネクターに接続されている場合はドライバーをインストールする必要があります。 ドライバーをインストールしても動作しない場合： セットアップユーティリティで「スマートポインター」を「無効」に設定し、「シリアルポート」を「3F8(IRQ4)」に設定してください。 ・インテリマウス™のホイールスクロール機能などを使用する場合は、セットアップユーティリティで「スマートポインター」を「無効」に設定してください。（→124ページ） 確認3 シリアルマウスによっては、スタンバイや休止状態からリジュームした後に動作しなくなることがあります。その場合、 を押して「スタート」メニューを表示し、コンピューターを再起動してください。また、シリアルマウス使用時は、スタンバイや休止状態機能は使用しないでください。

周辺機器の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
スマートポインターが使えない	セットアップユーティリティの「スマートポインター」の設定が「有効」になっているか確認してください。
PCカードやCFカードが使えない	確認1 カードが正しくセットされているか確認してください。 確認2 適切なドライバープログラムがインストールされているか確認してください。

通信時の問題

こんなときは	ここをお調べください
接続できない	確認1 電話回線とモデムが正しく接続されているか確認してください。（→47ページ） 確認2 ・電話回線の種類は正しく設定されているか確認してください。（→61ページ） ・通信環境の設定をが正しく行われているか確認してください。（→47～57ページ）
メールの自動送受信ができない	「接続できない」場合の対処方法に従って、確認してください。
メールを自動送受信中、接続が切断される	回線を自動的に切断するように設定している可能性があります。（→84ページ）
LANに接続できない	・LANの設定は正しく行われていますか？（→95ページ） ・詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

終了時の問題

こんなときは	ここをお調べください
Windowsが終了しない、または再起動できない	・プロバイダーへの通信やLANの設定（→95ページ）は正しく設定されていますか？設定が正しくない場合、Windowsが終了しなかったり、再起動できなかったりします。 ・プロバイダーについては、プロバイダーから提供される説明書を参照してください。LANの設定については、ネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

エラーコード一覧

ここでは、ハードウェアの不良が発生した場合など、起動時に表示されるエラーコードとその原因・対処について説明します。

エラーコード・メッセージ	原 因・対 処
0211 キーボードエラーです。	外部キーボードが動作していません。外部キーボードを取り外してください。
0251 システムCMOSのチェックサムが正しくありません。−デフォルト値が設定されました。	CMOSデータがアプリケーションソフトによって壊されたか、変更されました。 確認1 セットアップユーティリティでいったんデフォルト設定にした後、再度、適切な値に設定し直してください。 確認2 それでもエラーになる場合は、CMOSバックアップバッテリーが消耗している可能性がありますので、「ご相談窓口」にご相談ください。
0271 Check date and time settings	システムの日付と時間が正しくありません。セットアップユーティリティで日付と時間を正しく設定してください。
0280 起動を3回失敗しました。-デフォルト値を使用して起動します。	電源を入れてからOSが起動するまでに、3回連続してシステムがシャットダウンされました。セットアップユーティリティでデフォルト設定にし、日付・時刻を合わせてください。正しくOSを起動すれば表示されることはありません。
02B0 フロッピーディスクAのエラーです。	確認1 ドライブが正しく接続されているか確認してください。 確認2 正しく接続してもエラーになる場合は、ドライブの故障が考えられます。「ご相談窓口」にご相談ください。

下記のエラーコードが表示された場合は、そのメッセージを記録して「ご相談窓口」にご相談ください。

エラーコード・メッセージ	原 因
0200 ハードディスクエラーです。	ハードディスクドライブまたはシステムボードの故障です。
0212 キーボードコントローラエラーです。	システムボードの故障です。
0230 システムRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0231 シャドウRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0232 拡張RAMエラー。オフセットアドレス：nnnn	メモリーの故障です。
0250 システムのバッテリがありません。−バッテリを交換して、コンピュータを再起動して下さい。	CMOSバックアップバッテリーが消耗しています。 バッテリーの交換が必要です。
0260 システムタイマーエラーです。	システムボードの故障です。
0270 リアルタイムクロックエラーです。	システムボードの故障です。
02D0 システムキャッシュエラーです。−キャッシュは使用できません。	CPUの故障です。
02F5 DMAのテストが異常終了しました。	システムボードの故障です。

DMIビューアー

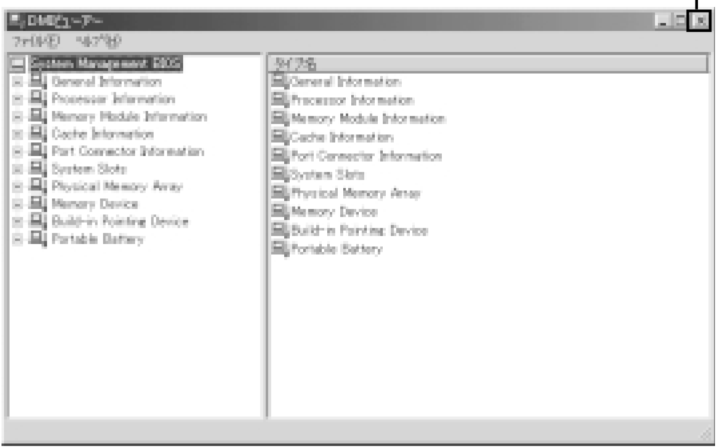
本機はDMI(Desktop Management Interface)の規格に準拠しています。
CPUやメモリーをはじめ、本機がサポートしているシステムの情報を知りたいときに使います。

DMIビューアーを起動する

[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[DMI ビューアー]を選ぶ

以下のような画面が表示されます。
項目をクリックすると詳細情報を表示します。

DMIビューアーの終了



情報ファイルを保存する

表示している内容をテキスト形式（.txt）にファイル保存することができます。

1 DMIビューアーを起動し、保存したい情報を表示しておく。

2 ●表示されている項目を保存する場合
「ファイル」メニューから「表示中のデータを保存」を選ぶ。

●すべての項目を保存する場合
「ファイル」メニューから「すべてのデータを保存」を選ぶ。

3 ファイル名（およびフォルダー）を指定し、[保存]を選ぶ。

再インストールのしかた

コンピューターが正常に動作しなくなったり、ハードディスクの内容が壊れてしまったりした場合、「再インストール」と呼ばれる操作を行って工場出荷状態に戻すことができます。

お願い

再インストールすると、ハードディスクの内容がすべて消えますので、必要なデータはバックアップしておいてください。（暗号化しているファイルは、復号してからバックアップしてください。→43、44ページ）

再インストールの準備

1 下記のものを準備する。

- あらかじめ作成しておいたバックアップディスク（ファーストエイドFDなど→『セットアップ編』）
- 「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」（付属）
- 「Easy CD Creator™4 / DirectCD™3」CD-ROM（CF-M2Rにのみ付属）
- フロッピーディスクドライブ（付属）
- CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ（付属）

◀必ず、ライトプロテクトタブを書き込み不可の状態にしておいてください。

2 ハードディスクを圧縮している場合は、Windowsを起動して解除する。

◀Windowsを起動できない場合などで圧縮を解除できないときは、次ページの手順7で「1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。」を選んでください。

3 Windowsを終了して操作を終わり、電源が切れたことを確認する。（→『セットアップ編』）

お願い

必ず、ACアダプターを装着してください。ACアダプターを装着していないと、再インストールは行えません。

4 フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを取り付ける。

◀→111～113ページ

再インストールする

1 コンピューターの電源を入れ、「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティを起動する。

セットアップユーティリティ→122ページ

2 「終了」メニューから「デフォルト設定」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、「はい」を選んで Enter を押す。

3 「起動メニュー」で「ATAPI CDドライブ」が1番目、「フロッピードライブ」が2番目、「ハードディスクドライブ」が3番目になるように F5 F6 を押して、設定する。

◀「Press <ESC> to enter Boot First Menu」と表示されているときに、ESC を押して起動デバイスを変更することもできます。ただし、再起動するとセットアップユーティリティで設定されている設定に戻ります。再インストール時には、セットアップユーティリティの起動メニューから変更するようにしてください。

4 「ファーストエイド FD」および「プロダクトリカバリーCD-ROM1」をそれぞれのドライブにセットする。

5 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、「はい」を選んで Enter を押し、設定を保存してセットアップユーティリティを終了する。

困ったときは

再インストールのしかた

6 「再インストールを開始しますか」と表示されたら Y を押す。

7 <ハードディスクの内容をすべて工場出荷の状態にする場合>
[1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。
<ハードディスク(Cドライブ)を工場出荷の状態にする場合>
[2.Cドライブをフォーマットして、工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。
または
[3.Cドライブをクイックフォーマットして、工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。

◀パーティション設定も行います。

◀パーティション設定は行いません。

◀[3....クイックフォーマットして...]を選んだ場合は、フォーマット時間が約10～15分短縮されます。

8 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。

◀再インストールが始まります。（30分～1時間程度かかります。）

9 再インストール完了の画面になったら、「プロダクトリカバリーCD-ROM1」と「ファーストエイドFD」を取り出し、Alt + Ctrl + Del を押し、再起動する。

10 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティを起動する。

セットアップユーティリティ
→122ページ

11 「終了」メニューから「デフォルト設定」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、「はい」を選んで Enter を押す。

12 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、「はい」を選んで Enter を押す。

13 Windows 98のセットアップを行う。（→『セットアップ編』）

◀途中でプロダクトキーの入力画面が表示されます。

<「アップデートFD」がある場合>
アップデートFD内のREADME.TXTを参照して操作してください。

◀バックアップディスク作成時に、「アップデートFD」を作成した場合

<CF-M2Rのみ>

14 「Easy CD Creator™4 / DirectCD™3」をインストールする。
付属別紙をご覧のうえ、インストール操作を行ってください。

困ったときは

ハードディスクの「C:\UTIL」フォルダーの各種ドライバーやパナソニック製のソフトウェアを個々に復元したいときは：

「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」の「\JA\UTIL」フォルダーにあります。ただし、CD-ROM内のそれらのファイルを使用するときには、更新が必要な場合があります。その場合は、パナソニックPCのホームページに新しい情報が掲載されている場合もありますので、そちらもご覧ください。

休止状態用データ領域の作成

休止状態用データ領域は、通常は変更する必要はありません。
工場出荷時には、約200 Mバイトの領域が確保されています。また「再インストールのしかた」（→147ページ）の手順に従って再インストールを行った場合にも自動的に約200 Mバイトの領域が確保されます。
ハードディスクのパーティションを変更したときなどには「プロダクトリカバリーCD-ROM1」のPEDPARTコマンドを使って確保し直してください。
以下に、PEDPARTコマンドの使用方法について説明します。

PEDPARTコマンドの使用方法

PEDPARTは「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」から起動したMS-DOS環境で実行してください。Windowsの「MS-DOSプロンプト」などから実行すると、正常に起動しません。
あらかじめ、セットアップユーティリティの「起動」メニュー（→131ページ）で「ATAPI CDドライブ」が1番目、「フロッピードライブ」が2番目、「ハードディスクドライブ」が3番目になるように F5 、F6 を押して設定しておいてください。

「PEDPART」には下記のオプションがあります。コマンドとオプションの間は、1スペース空けて入力してください。

オプション	内容
/RESIZE:[サイズ]	休止状態用データ領域を作成します。 [サイズ]にはメインメモリー相当の容量をメガバイト単位で指定します。（メインメモリーの容量以下の値を設定すると休止状態の機能を使用することができません。）
/TOP	ハードディスクの先頭に休止状態用データ領域を設定します。（工場出荷時には先頭に設定されています。）
/?	PEDPARTコマンドの使用方法などを表示します。

PEDPARTのエラーメッセージ

画面表示	原因・対策
パーティションテーブルの内容が不正です。	何らかの理由で、領域の管理情報が存在しません。FDISKコマンドで領域の管理情報を初期化する必要があります。 まず、FDISK　/MBRコマンドを実行し、続いてもう一度FDISKコマンドを実行して、存在している「基本MS-DOS領域」を削除してください。 再起動の後、もう一度、PEDPARTコマンドを実行してください。
ハイバーネーション領域のための十分な空きがありません。	休止状態用データ領域を作成するためには、十分な容量を持った空き領域が必要になります。 既存の領域を削除するなどして、空き領域を作成してください。

休止状態用データ領域とは
休止状態時には、メモリーの内容をハードディスク上に保存します。ハードディスク上にはメモリー内容保存用として一定のデータ領域が必要となります。そのデータ領域を「休止状態用データ領域」と言います。

お願い
データ領域の作成や削除などを行った後は、すぐに再起動してください。

(例) PEDPART /RESIZE:128 /TOP

メインメモリーが128 Mバイト（オンボードメモリー＋64 Mバイト RAMモジュール装着時）以下の状態で休止状態に入るために必要な領域を、ハードディスクの先頭に作成します。

Windows 98関連ファイルのインストール

工場出荷時にはインストールされていない以下のフォルダーのファイルをインストールしたい場合は、下記の手順に従ってインストールしてください。

\add-ons　\cdsample　\drivers　\tools

インストールするには、ハードディスクのCドライブに十分な空き容量が必要です。

<準備する物>

- 「プロダクトリカバリーCD-ROM 2」（付属）
- CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブ（付属）

1 CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブを取り付けて、コンピューターの電源を入れる。

2 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティを起動する。

◀セットアップユーティリティの起動のしかた→122ページ

3 「終了」メニューから「デフォルト設定」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、「はい」を選んで Enter を押す。

4 「起動」メニューで「ATAPI CDドライブ」が1番目、「フロッピードライブ」が2番目、「ハードディスクドライブ」が3番目になるように F5 、F6 を押して、設定する。

◀「Press <ESC> to enter Boot First Menu」と表示されているときに、ESC を押して起動デバイスを変更することもできます。ただし、再起動するとセットアップユーティリティで設定されている設定に戻ります。再インストール時には、セットアップユーティリティの起動メニューから変更するようにしてください。

5 「プロダクトリカバリーCD-ROM2」をCD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブにセットする。

6 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、「はい」を選んで Enter を押す。

7 「1.Windows 98関連ファイルをインストールする。」を選ぶ。

◀「2.終了」を選ぶと、インストールが開始されません。

8 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。

「c:\win98add」フォルダーにファイルがインストールされます。

9 インストール完了のメッセージが表示されたら「プロダクトリカバリーCD-ROM2」を取り出して、Alt ＋ Ctrl ＋ Del を押す。

コンピューターが再起動します。

10 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティを起動する。

◀セットアップユーティリティの起動のしかた→122ページ

11 「終了」メニューから「デフォルト設定」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、「はい」を選んで Enter を押す。

12 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、「はい」を選んで Enter を押す。

もくじ

ソフトウェア使用許諾書

この製品にインストールされているソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことがご使用の条件になっています。

第1条　権利
お客様は、本ソフトウェア（コンピューター本体に内蔵のハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM、マニュアルなどに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権がお客様に移転するものではありません。

第2条　第三者の使用
お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

第3条　コピーの制限
本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

第4条　使用コンピューター
本ソフトウェアは、コンピューター1台に対しての使用とし、複数台のコンピューターで使用することはできません。

第5条　解析、変更または改造
本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、弊社では一切の保証をいたしません。また解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしても弊社および販売店等は責任を負いません。

第6条　アフターサービス
お客様が使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社窓口まで電話または文書でお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

第7条　免責
本ソフトウェアに関する弊社の責任は、上記第6条のみとさせていただきます。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社および販売店等はその責任を負いません。また製品に付属されている「保証書」はコンピューター本体（ハードウェア）の保証に限定したものです。

第8条　その他
上記第6条のアフターサービスには、ご愛用者登録が必要です。

仕様 日本国内専用

機種	CF-M2R	CF-M2C
CPU	Intel® SpeedStep™テクノロジ対応 モバイルPentium® III プロセッサ 600 MHz	モバイル Intel® Celeron™ プロセッサ 500 MHz
メモリー メインメモリー*1	64 Mバイト(最大192 Mバイト)	
メモリー キャッシュ L1	32 Kバイト	
メモリー キャッシュ L2	256 Kバイト	128 Kバイト
メモリー ROM	512 Kバイト	
メモリー ビデオメモリー	2.5 Mバイト	
ハードディスクドライブ	20.0 G*2バイト	10 G*2バイト
CD-ROMドライブ	―――	最大24倍速
CD-R/RWドライブ	読み出し:最大20倍速 書き込み・書き換え:最大4倍速	―――
表示機能 テキスト表示	80文字×25行	
表示機能 グラフィック表示	タイプ:11.3 型(TFT) 解像度:1024×768ドット 色数:1600万色*3	
入力装置 キーボード	総数86キー	
入力装置 ポインティングデバイス	スマートポインターIV	
インターフェース 音声 マイク入力	ミニジャックM3(コンデンサーマイク使用のこと)	
インターフェース 音声 オーディオ出力	ステレオミニジャックM3	
インターフェース ディスプレイコネクター	Dsub15ピン	
インターフェース USBコネクター	4ピン×2 Universal Serial Bus	
インターフェース モデム端子	本体内蔵(RJ-11) データ: 56 kbps(V.90 & K56flex両対応) FAX: 14.4 kbps	
インターフェース LAN端子	本体内蔵(RJ-45) 100BASE-TX / 10BASE-T	
インターフェース ワイヤレスコムポート	18ピン(携帯電話/PHS電話接続用)	
インターフェース 拡張バスコネクター	専用36ピン	
カードスロット キースロット	プライベートキー専用1スロット	
カードスロット PCカード専用	タイプIまたはタイプII×1スロット CardBusサポート (3.3 V: 750 mA,5 V: 500 mA,12 V: 75 mA)*4	
カードスロット ワイヤレススロット	CFカードタイプIまたはタイプII×1スロット	
カードスロット RAMモジュール専用	144ピン,SO-DIMM,3.3 V,SDRAM,100 MHz*5 1スロット	
オーディオ機能	PCM音源(16ビットステレオ) モノラルスピーカー/モノラルマイク搭載	
時計機能	クロックバッテリーバックアップ 月差±60秒	
電源	DC 15.1 V	
消費電力*6	約50 W	
外形寸法(幅×奥行×高さ)	272 mm×217 mm×36 mm	
質量	1.85 kg*7	1.75 kg*8
使用環境条件	温度:5 ℃～35 ℃ 湿度:30 %RH～80 %RH(結露なきこと)	
導入済みソフトウェア	Microsoft® Windows® 98 Second Edition, Acrobat® Reader, Phoenix BaySwap™, インターネットスターター, まいと～く FAX 2001 Lite, イラストメール, ウェブナビゲーター, プライベートキー関連ソフト, ドライバー等	

●付属品仕様

ACアダプター	入力	AC 100 V ～ 240 V*9 , 50 Hz/60 Hz	
ACアダプター	出力	DC 15.1 V , 3.33 A	
ACアダプター	電源コード	125 V 対応	
バッテリーパック	仕様	10.8 V (Li-ion), 1.7 Ah	
バッテリーパック	稼働時間*10	約 1.7時間	約 1.6時間
フロッピーディスクドライブ		外付け1ドライブ3.5型 (1.44 Mバイト/1.2 Mバイト/720 Kバイト)	

・本製品(付属品を含む)は日本国内仕様であり、海外の規格などには準拠しておりません。

*1 100 MHz対応のシンクロナスDRAMおよびセルフリフレッシュのモジュールに限り使用可能です。

*2 1Gバイト=10⁹バイト表記です。

*3 ディザリング機能を使用して約1600万色表示を実現しています。

*4 他の周辺機器等による負荷がない場合のカードスロット単体での数値です。

*5 66 MHzのRAMモジュールは使用しないでください。

*6 電源オン時、バッテリー充電中のACアダプターを含めた消費電力です。(電源オフ、バッテリー充電終了時、ACアダプターは約0.8 Wの電力を消費しています。また、電源オフ時のバッテリーの消費電力は約60 mWです。)

*7 標準バッテリーパックおよびCD-R/RWドライブ装着時の表記です。

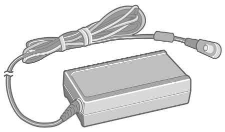
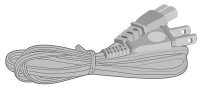
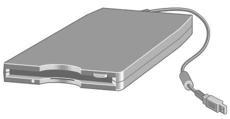
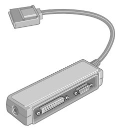
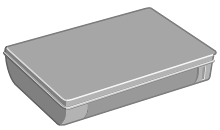
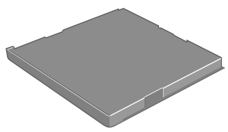
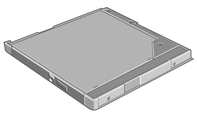
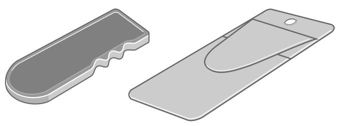
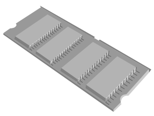
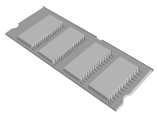
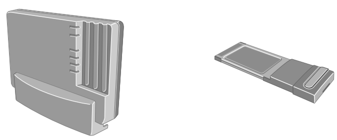
*8 標準バッテリーパックおよびCD-ROMドライブ装着時の表記です。

*9 本製品は一般家庭用の電源コードを使用するため、AC100 Vのコンセントに接続して使用してください。→6ページ

*10 LCDバックライト輝度最低時。また使用条件により異なります。

別売り商品

別売り商品の名称と品番は最新のカタログでご確認ください。仕様改善のため、予告なく変更することがあります。

ACアダプター（電源コード付）	
	
品番:CF-AA1533J	
フロッピーディスクドライブ	I/Oボックス
	
品番:CF-VFDU03J*1	品番:CF-VEBU03J
標準バッテリーパック	**拡張バッテリーパック**
	
品番:CF-VZSU16J	品番:CF-VZSM2J*2
CD-R/RWドライブ	プライベートキー（キーケース付）
	
品番:CF-VCWM2J*2	品番:CF-VPKS01J*3
RAMモジュール	
	
64 M バイト 品番:CF-BAF1064J	128 M バイト 品番:CF-BAF0128J
ワイヤレスユニットセット	
	
品番:CF-VTWS01J	

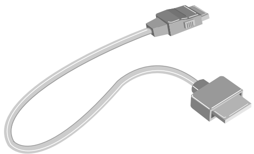
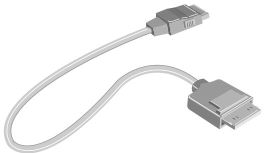
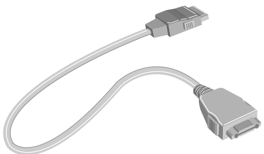
I/Oボックス
プリンター・シリアル・拡張キーボード／マウスを接続できます。

*1 **コンピューター本体に付属の外部FDDと同等品です。同時に2つのフロッピーディスクドライブは使用できません。**
また、別売りの外部FDDに付属の外部FDD用ドライバーディスクは使用しないでください。（ドライバーは、コンピューター本体にすでにインストールされています。）

*2 CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、拡張バッテリーパックは、同時には使用できません。

*3 **ご購入後、お持ちのコンピューターで「プライベートキーの複製」をしてください。複製には、付属のプライベートキーが必要です。（→45ページ）**

ワイヤレスユニットセット
ワイヤレス通信カードをコンピューターに取り付け、ワイヤレスステーションを電話回線に接続すると、コンピューター本体はコードレス状態で通信できます。（→157ページ）

PHS電話接続ケーブル*4
（NTTドコモ・アステルのデータ通信に対応PHS電話専用）  品番：CF-VCF31PJ
PHS電話接続ケーブル*5
（DDIポケットのデータ通信に対応PHS電話専用）  品番：CF-VCF31DJ
携帯電話接続ケーブル
 品番：CF-VCF31KJ

PHS電話接続ケーブル

*4 DDIポケットのPHS電話、デジタル/アナログ携帯電話、cdmaOneには使用できません。

*5 NTTドコモまたはアステルのPHS電話、デジタル/アナログ携帯電話、cdmaOneには使用できません。
また、付属しているフロッピーディスクのドライバーは使用しないでください。コンピューター本体には、PIAFS 32K、PIAFS 64K、無線モデム、無線インターネットなどに対応したドライバーがすでに入っています。
詳しくはカタログやパナソニックPCのホームページ（→162ページ）でご確認ください。

携帯電話接続ケーブル

デジタル携帯電話専用です。アナログ携帯電話、cdmaOne、PHS電話は使用できません。
詳しくはカタログやパナソニックPCのホームページ（→162ページ）でご確認ください。

利用できる電話機の種類と機能

電話機の種類*1	通信モード	ダイヤルパラメーター*2	最大通信速度*5	発信	着信
携帯電話(PDC)	回線交換	#96（書式１）	9600 bps	○	○
	FAX通信	#96（書式１）	9600 bps	○	○
	パケット通信	#00（書式１）	9600 bps/28800 bps*4	○	×
NTTドコモPHS	PIAFS 1.0	#32（書式１）	32000 bps	○	○
	PIAFS 2.0	#64（書式１）	64000 bps	○	○
	Analog PTE	#33（書式２）	33600 bps(32000 bps)*3	○	×
	Analog PTE FAX	#33（書式２）	14400 bps	○	×
	ISDN PTE	#65（書式２）	64000 bps	○	×
アステルPHS	PIAFS 1.0	不要（書式１）	32000 bps	○	○
	Analog PTE	不要（書式２）	33600 bps(32000 bps)*3	○	×
	ISDN PTE	不要（書式２）	64000 bps(32000 bps)*3	○	×
αDATA	無線モデム	##1（書式１）	14400 bps	○	×
	無線インターネット	##2（書式１）	32000 bps	○	×
αDATA32	無線モデム	##1（書式１）	14400 bps	○	×
	無線インターネット	##2（書式１）	32000 bps	○	×
	PIAFS 1.0	##3（書式１）	32000 bps	○	○
αDATA64	無線モデム	##1（書式１）	14400 bps	○	○*6
	無線インターネット	##2（書式１）	32000 bps	○	×
	PIAFS 1.0	##3（書式１）	32000 bps	○	○
	PIAFS 2.1	##4（書式１）	64000 bps	○	×
	PIAFS 2.1(PTE)	##4（書式３）	64000 bps	○	×

*1 上記の表にあげた種類の電話機でも一部の機種で利用できない場合があります。
また、携帯電話、PHS電話を本機に接続するには、別売りの専用ケーブルが必要です。（→前ページ）

*2 アクセスポイントに応じて特定の通信モードで接続する場合、**アクセスポイントの電話番号を指定する際に、上記の表のダイヤルパラメーターを下記の書式1〜3に従って追加してください。**
（下記の電話番号は入力例で架空のものです。）

*3 無線区間の制約により、（　）内の速度に制限されます。

*4 最大9600 bpsしかサポートしていない電話機でも、ダイヤルアップネットワーク等では接続速度は28800 bpsと表示されます。

*5 プロトコルオーバーヘッド等により、実質通信速度は最大通信速度を下回る場合があります。

*6 ATコマンドによる設定が必要です。

＜書式１＞

0669081001#32* 0669081001：アクセスポイントの電話番号 #32：ダイヤルパラメーター（NTTドコモPHSで「PIAFS 1.0」の場合）	*アステルPHSの場合、ダイヤルパラメーターの入力は不要です。

＜書式２＞

アナログまたはISDNのアクセスポイントに接続するときの書式です。PTEアクセスポイントを経由する必要があるため、下記のように設定します。

1000*0669081001#33* 1000：PTEアクセスポイントの電話番号 0669081001：アクセスポイントの電話番号 #33：ダイヤルパラメーター（ドコモPHSで通信モードがAnalog PTEの場合）	*アステルPHSの場合、ダイヤルパラメーターの入力は不要です。 PTEアクセスポイントの電話番号については、それぞれの通信会社のホームページなどでご確認ください。

＜書式３＞

1000##4*0669081001 1000：PTEアクセスポイントの電話番号 ##4：ダイヤルパラメーター 0669081001：アクセスポイントの電話番号	PTEアクセスポイントの電話番号については、それぞれの通信会社のホームページなどでご確認ください。

ワイヤレスユニットセットを使用するときは

本コンピューターで別売りのワイヤレスユニットセット（CF-VTWS01J）を使用するためには、各ドライバーや専用アプリケーションソフトをインストールする必要があります。以下の手順に従って、インストールを行ってください。
（インストールの際、ワイヤレスユニットセットに付属されているCD-ROMは使用しないでください。）
その他、ワイヤレスユニットセットの使いかたについては、ワイヤレスユニットセットの取扱説明書をご覧ください。

必要なソフトウェアをインストールする

1 ワイヤレス通信カードのドライバーをインストールする。

①ワイヤレス通信カードをPCカードスロットに取り付ける。（→119ページ）
②カードが認識され、「Panasonic Wireless Comm Portラベルの付いたディスクを挿入して、...」と表示されたら、[OK]をクリックする。
③「ディスク挿入」と表示されたら、ファイルのコピー元として「C:\UTIL\DRIVERS\WLMODEM」と入力した後、[OK]をクリックする。

2 ワイヤレスステーションのドライバーをインストールする。

①[スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
②「名前」に「C:\UTIL\DRIVERS\WLSTN\SETUP.EXE」と入力して、[OK]をクリックする。
③「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックする。
④「インストール先の選択」画面が表示されるので、インストール先を変更したい場合は指定しなおしてから、[次へ]をクリックする。
⑤「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します」を選んで[完了]をクリックする。コンピューターが再起動します。

・ワイヤレスステーションのモデムポートとシリアルポートは、通常COM5とCOM6に割り当てられます。COM5やCOM6が使用中の場合はその他の未使用のポートに割り当てられます。

3 ワイヤレスマネージャー（専用のアプリケーションソフト*）をインストールする。

*親機選択、ワイヤレスステーション設定、内線登録などのソフトウェア

①[スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
②「名前」に「C:\UTIL\WLMGR\SETUP.EXE」と入力して、[OK]をクリックする。
③「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックする。
④「名前」と「会社名」を入力して、[次へ]をクリックする。
⑤「インストール先の選択」画面が表示されるので、インストール先を変更したい場合は指定しなおしてから、[次へ]をクリックする。
⑥「プログラムフォルダの選択」画面で、プログラムアイコンをおきたい場所を指定して、[次へ]をクリックする。
⑦「ファイルコピーの開始」画面が表示されたら、表示内容を確認し、よければ[次へ] をクリックする。
（変更したい場合は、[戻る] をクリックして変更してください。）
⑧「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します」を選んで[終了]をクリックする。コンピューターが再起動します。

さくいん

- 本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の一部またはすべてを無断転載することを禁止します。
- 落丁、乱丁はお取り替えします。
- 本書のサンプルで使われている氏名、住所などは架空のものです。
- 本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
- 漏洩電流について、この装置は、社団法人　日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ!
- その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ!

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間
（バッテリーパックを除く）

■修理を依頼されるとき

「困ったときのQ&A」（→136ページ）や別紙の『困ったときのチェックシート』に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

修理を依頼されるときは、コンピューターとプライベートキー（すべて）を一緒にご持参ください。

- 保証期間中は
  保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。
- 保証期間を過ぎているときは
  修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、パーソナルコンピューターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。
  注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理料金の仕組み
  修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
  技術料 は、診断・故障個所の修理、および部品の交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
  部品代 は、修理に使用した部品、および補助材料代です。
  出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

■海外での使用について

本製品は日本国内仕様であり、海外の規格などには準拠しておりません。海外での使用について、当社では一切責任を負いかねます。
また、当社では本製品に関する海外でのアフターサービスおよび消耗品、別売品の供給は行っておりません。
This product cannot be used in foreign country as designed for Japan only.

- FPANAPC*[1]アクセスについてのご相談は、「Let's note Station」へ！
  *[1] インターネットプロバイダー「@nifty」のユーザーフォーラムでユーザーどうしによる情報交換などが行われています。
- Let's noteのホームページ*[2]では製品紹介、FAQなど情報掲載やご購入ユーザー様のオンラインメンバー登録を行っております。
  *[2] [お気に入り]→[パナソニックお勧めのサイト]→[パナソニックPCのホームページ]にリンクされています。

パナソニックパソコン
お客様ご相談センター

0120-873029（パナソニック）

フリーダイヤル（料金無料）
365日／受付9時～20時

ご来店技術相談窓口
Let's note Station
東京都千代田区岩本町3丁目2番4号
（東京建物岩本町ビル3階）
TEL 03-5821-3150

受付日および時間
月曜日～金曜日（祝・祭日を除く）
10時～12時　12時45分～17時

2000年1月1日現在

ナショナル／パナソニック

修理ご相談窓口



修理のご相談は

ナビダイヤル（全国共通番号）　☎ 0570-087-087（パナ　パナ）

●お客様がおかけになった場所から最寄りの地区の修理ご相談窓口につながります。
呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
●携帯電話・PHSからは最寄りの地区の修理ご相談窓口に直接おかけください。
（ナビダイヤルはご利用頂けません）

北海道地区

窓口	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	(0138)48-6631

東北地区

窓口	所在地	電話番号
青森	青森市大字八ッ役字矢作1-37	(0177)39-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	(019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	(022)387-1117
山形	山形市流通センター3丁目12-2	(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南/内65	(0243)34-1301

首都圏地区

窓口	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市御幸町194-20	(028)689-2555
群馬	高崎市萩原町沖中205-18	(027)352-1109
水戸	水戸市柳河町309-2	(029)225-0249
つくば	つくば市花畑2丁目8-1	(0298)64-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	(048)729-2102
千葉	千葉市中央区星久喜町172	(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	(03)5450-7431
山梨	甲府市下飯田2丁目1-27	(0552)22-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	(045)840-3155
新潟	新潟市東明1丁目8-14	(025)286-7725

中部地区

窓口	所在地	電話番号
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	(0263)58-0073
静岡	静岡市西島765	(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	(059)255-1380

近畿地区

窓口	所在地	電話番号
滋賀	守山市勝部6丁目2-1	(077)582-5021
京都	京都市南区上鳥羽石橋町20-1	(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	(06)6359-6225
奈良	大和郡山市椎木町404-2	(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	(0734)75-1311
兵庫	神戸市中央区琴/緒町3丁目2-6	(078)272-6645

中国地区

窓口	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	(0859)34-2129
松江	松江市西津田2丁目10-19	(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	(0839)86-4050

四国地区

窓口	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	(088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	(088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	(089)971-2144

九州地区

窓口	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	(092)593-9036
佐賀	佐賀市本庄町大字本庄896-2	(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	(097)556-3815
宮崎	宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2	(0985)85-6530
熊本	熊本市健軍本町12-3	(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	(099)250-5657
大島	名瀬市矢之脇町10-5	(0997)53-5101

沖縄地区

窓口	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0100

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリおよび複写機などのオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

愛情点検　長年ご使用のコンピューターの点検を！

こんな症状はありませんか	・異常な音やにおいがする ・水や異物が入った	このような症状の時は故障や事故防止のため、電源を切り、電源プラグとバッテリーパックを抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。

便利メモ

おぼえのため記入されると便利です

お買い上げ日	年　月　日	品番*	
販売店名	☎(　　)　－	お客様ご相談窓口 ☎(　　)　－	

*保証書に記載されている品番（例：CF-M2C）を記入してください。

松下電器産業株式会社　パナソニックコンピュータカンパニー

〒101-0032　東京都千代田区岩本町３丁目２番４号　東京建物岩本町ビル

FJ0500-1060
DFQM5347YA